
重症心身障がい児者の生活調査 報告書

平成26年2月

熊本県

目次

I	調査設計.....	1
	1. 調査目的.....	1
	2. 調査項目.....	1
	3. 調査方法と調査期間.....	1
	4. 回収標本数.....	1
	5. 回収率.....	1
	6. 報告書の見方.....	1
II	調査結果からみた	
	医療的ケアが必要な重症心身障がい児者を取り巻く現状.....	2
	1. 重症心身障がい児者の現状.....	2
	2. ご家族・介護者の状況等.....	34
	3. 圏域別にみた特性.....	52
	4. 自由記述.....	58

I 調査設計

1. 調査目的

本県の重症心身障がい児者の福祉の向上を図るため、在宅の重症心身障がい児者及びその家族の生活実態及び障害福祉サービス等の利用状況等を調査し、その結果をもとに今後の適切な支援策の在り方を検討するための基礎資料として活用することを目的に実施する。

2. 調査項目

- ①本人の現状把握
- ②家族の現状把握
- ③障害福祉サービス利用についての現状把握
- ④必要な障害福祉サービスの把握
- ⑤圏域別の特性の把握

3. 調査方法と調査期間

調査方法: 郵送による配布・回収

調査期間: 平成25年9月30日～10月15日

4. 調査対象者

444 人(熊本市を除く 8 月 1 日現在)

5. 回収率

293 人(66.0%)

6. 報告書の見方

- ①数表に記入された「n」は、比率算出上の基数(回答数)である。前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答比率は、層化された回答者を基数として算出した。
- ②回答比率は百分比の小数以下第2位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。
- ③2つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は原則として 100%を超える。
- ④文中では選択肢を「 」で示した。

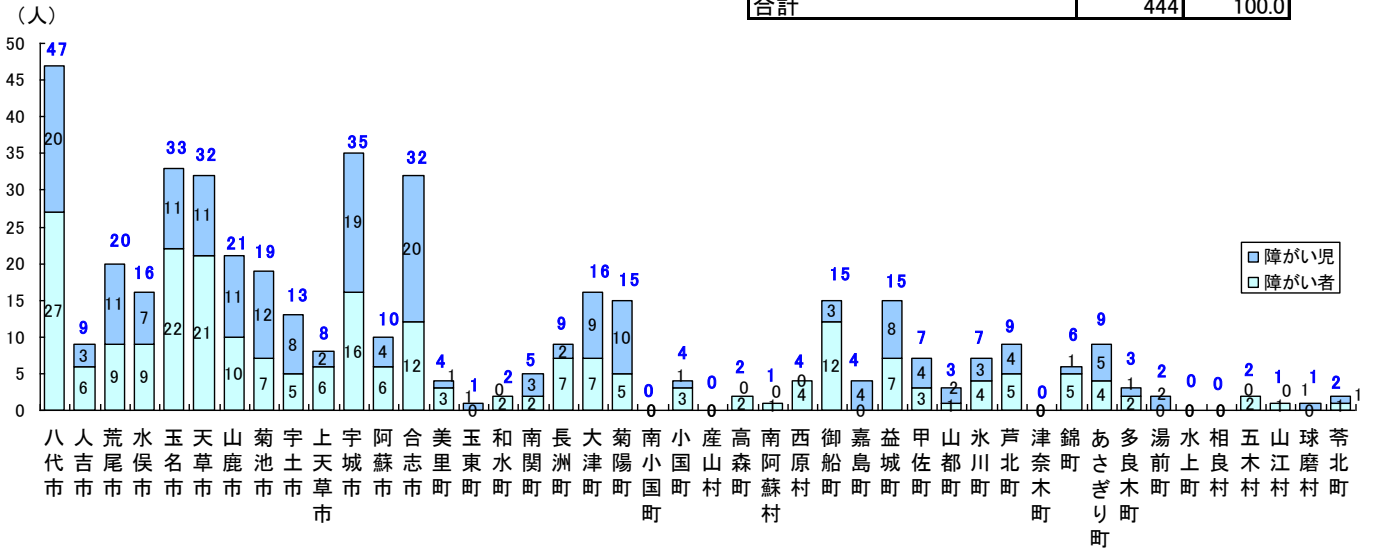
II 調査結果からみた医療的ケアが必要な重症心身障がい児者を取り巻く現状

1. 重症心身障がい児者の現状

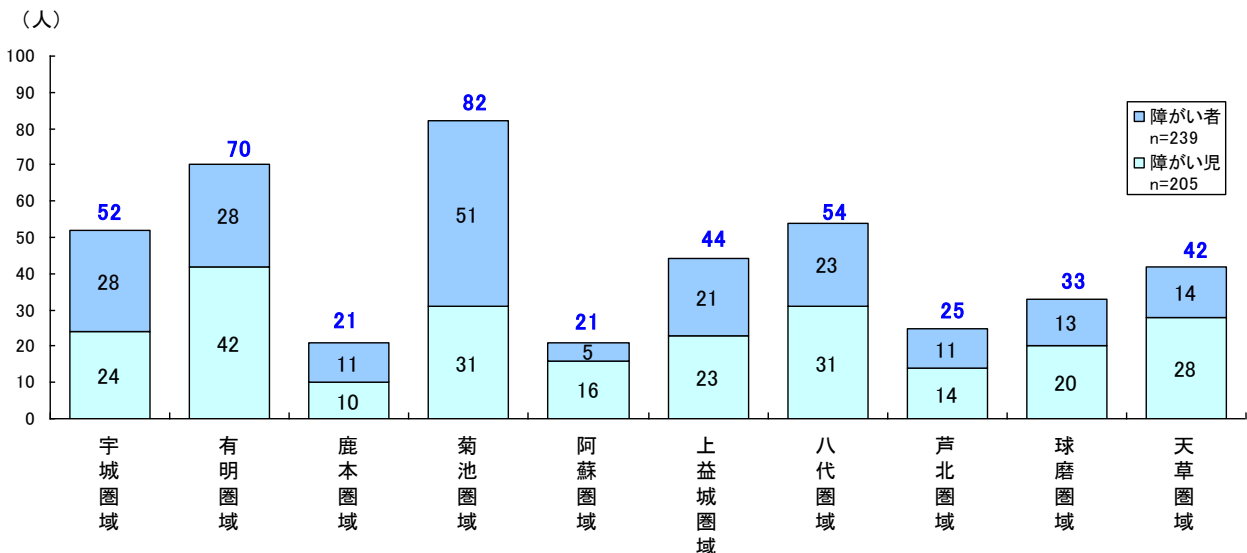
(1) 調査対象数

平成 25 年8月1日現在の熊本市を除く市町村別にみた重症心身障がい児者数は、以下の通り。

	人数	%
障がい者	239	53.8
障がい児	205	46.2
合計	444	100.0

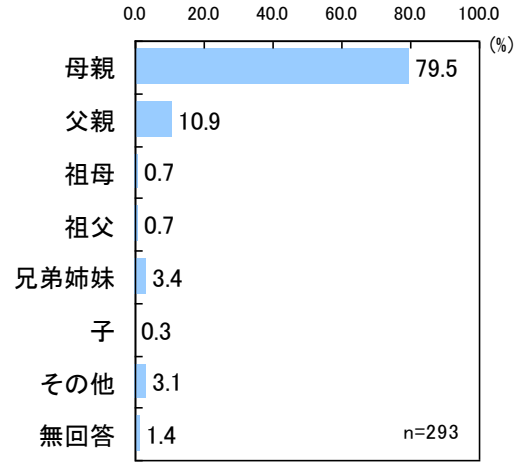


<圏域別にみた調査対象者数>



(2) 調査回答者

「母親」の233人が最も多く、回答者全体の79.5%を占めている。以下、回答割合の高い方から、「父親」(10.9%)、「兄弟姉妹」(3.4%)、「その他」(3.1%)の順となっている。



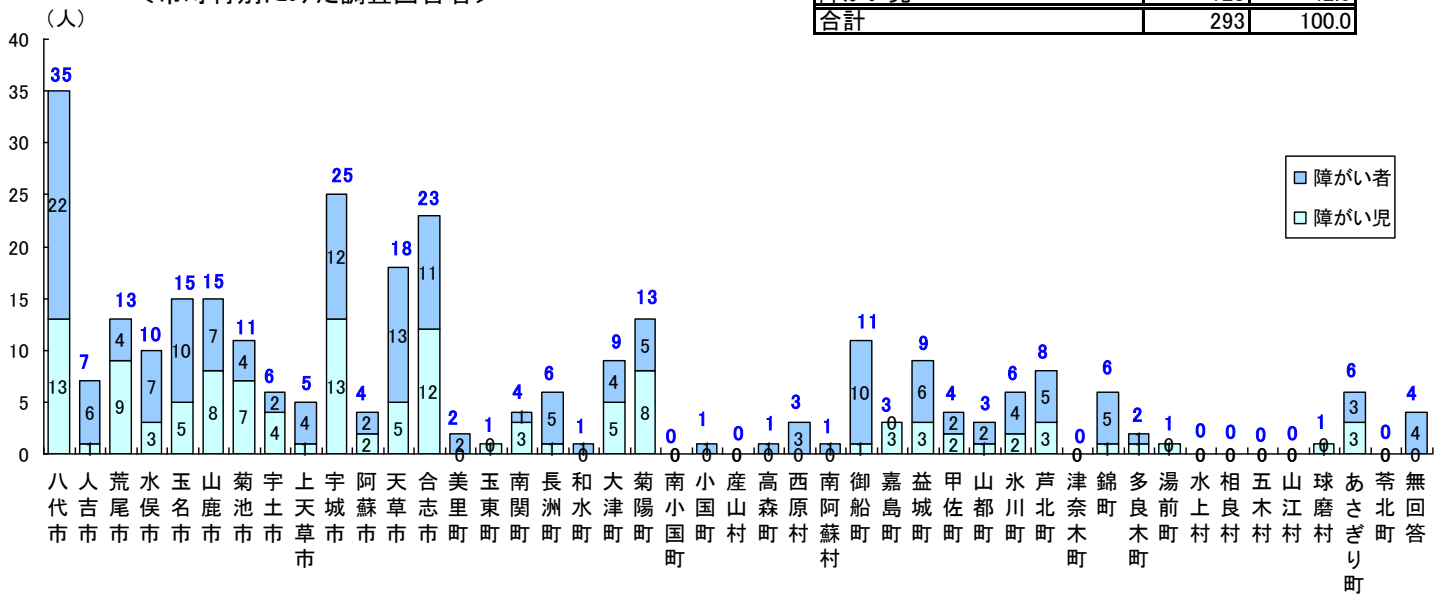
(3) 居住地

調査回答者を市町村別にみると、「八代市」の35人が最も多い。以下、回答割合の高い方から、「宇城市」、「合志市」、「天草市」の順となっている。

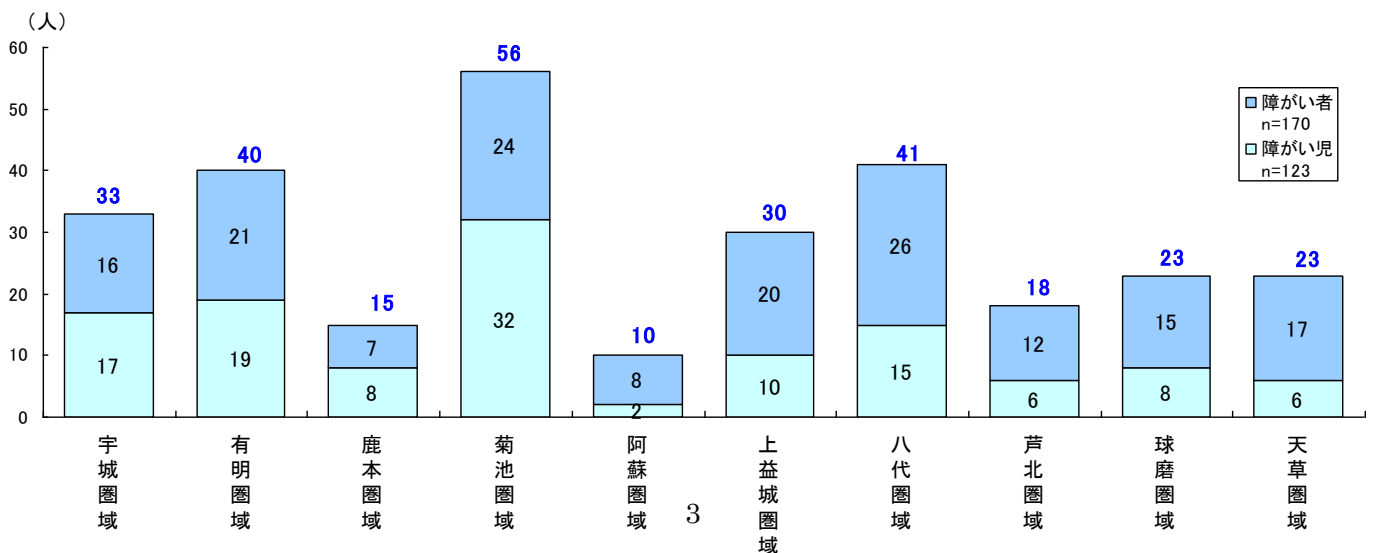
圏域別にみると、「菊池圏域」の56人が最も多く、これに「八代圏域」の41人、「有明圏域」の40人が続く。

	人数	%
障がい者	170	58.0
障がい児	123	42.0
合計	293	100.0

<市町村別にみた調査回答者>



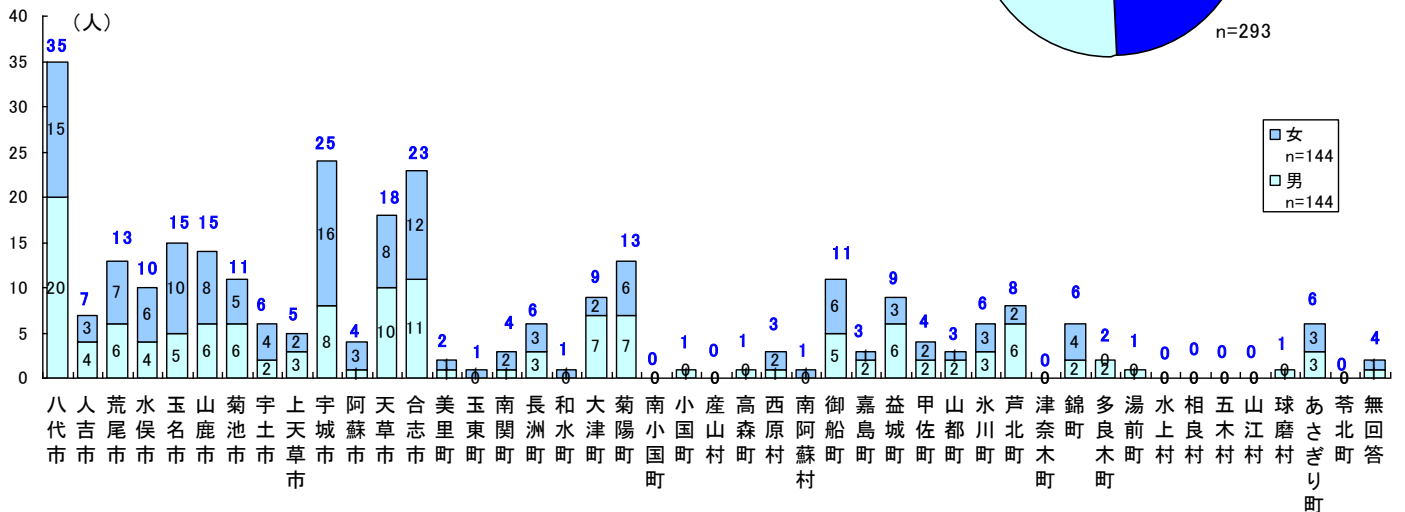
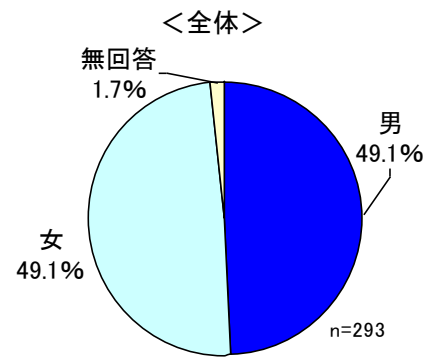
<圏域別にみた調査回答者>



(4) 性別

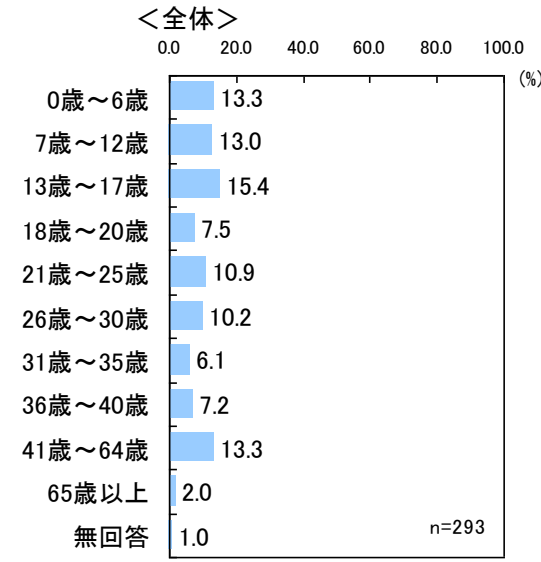
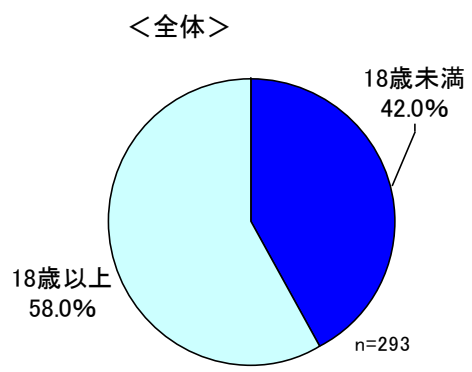
「男性」144人(49.1%)、「女性」144人(49.1%)と同率となっている。無回答は5人(1.7%)。

市町村別にみた性別構成は、下図の通り。



(5) 年齢

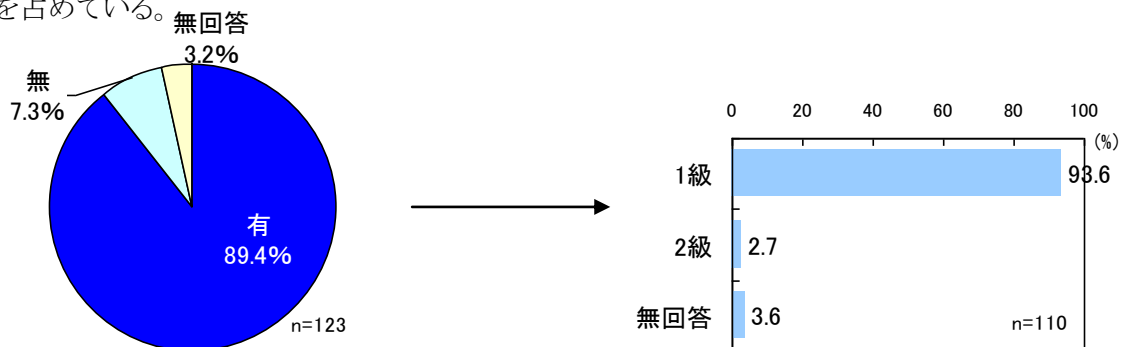
「18歳未満」123人(42.0%)、「18歳以上」170人(58.0%)となっている。



(6) 手当等の受給状況

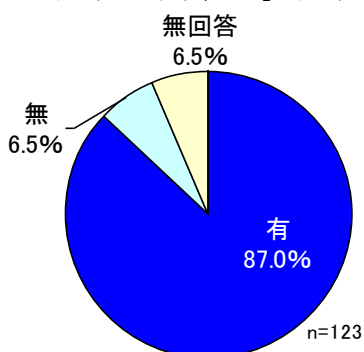
▼「特別児童扶養手当」

「有」110人(89.4%)、「無」9人(7.3%)となっている。110人の「有」の内訳をみると、「1級」が103人で93.6%を占めている。



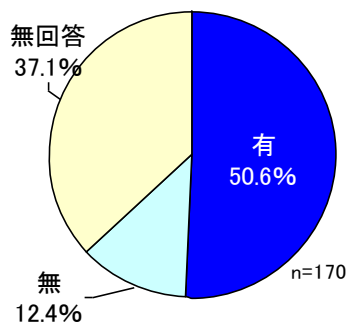
▼「障害児福祉手当」

「有」107人(87.0%)、「無」8人(6.5%)となっている。



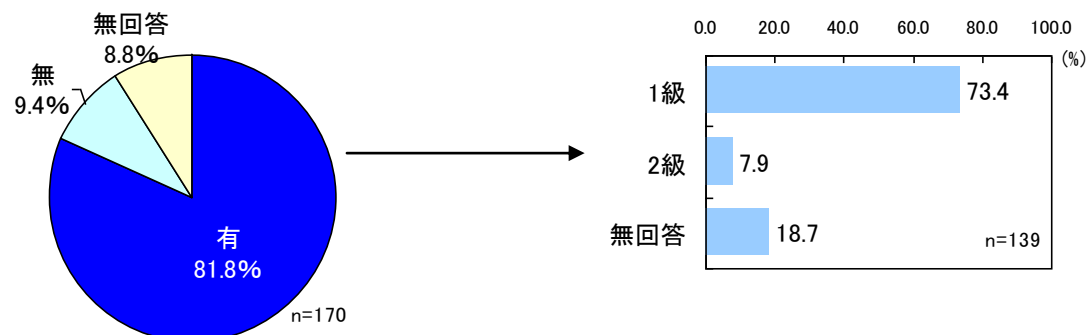
▼「特別障害者手当」

「有」86人(50.6%)、「無」21人(12.4%)、「無回答」63人(37.1%)となっている。



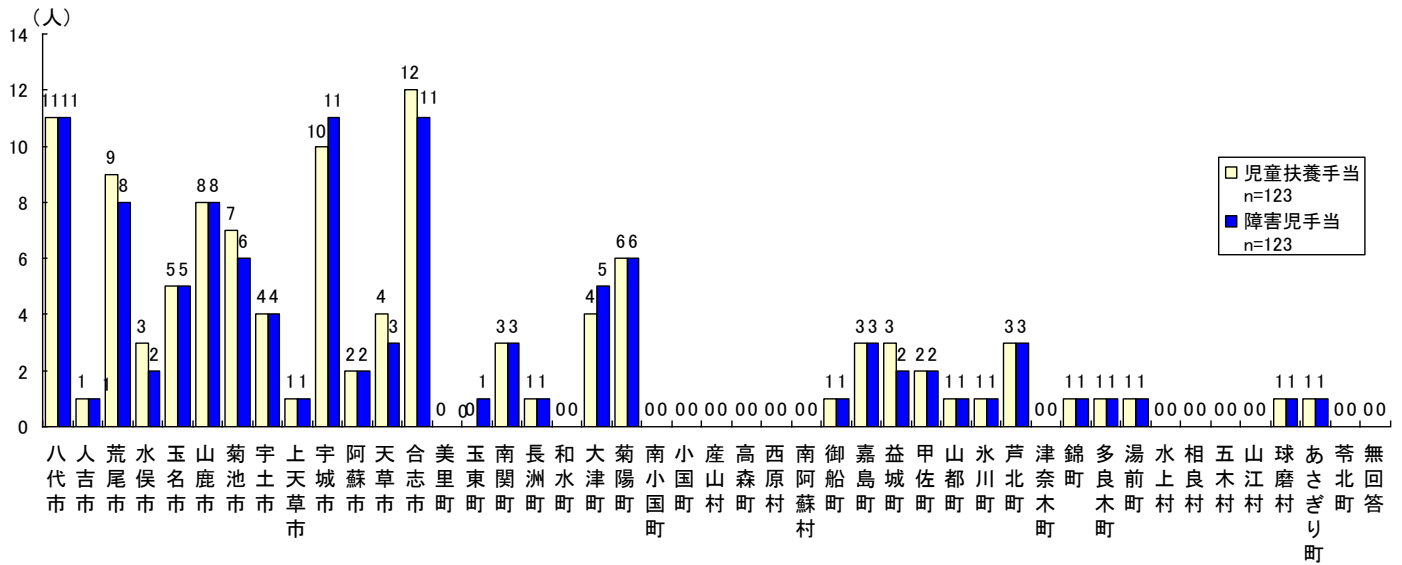
▼「障害基礎年金」

「有」139人(81.8%)、「無」16人(9.4%)、「無回答」15人(8.8%)となっている。139人の「有」の内訳をみると、「1級」が102人で73.4%を占めている。

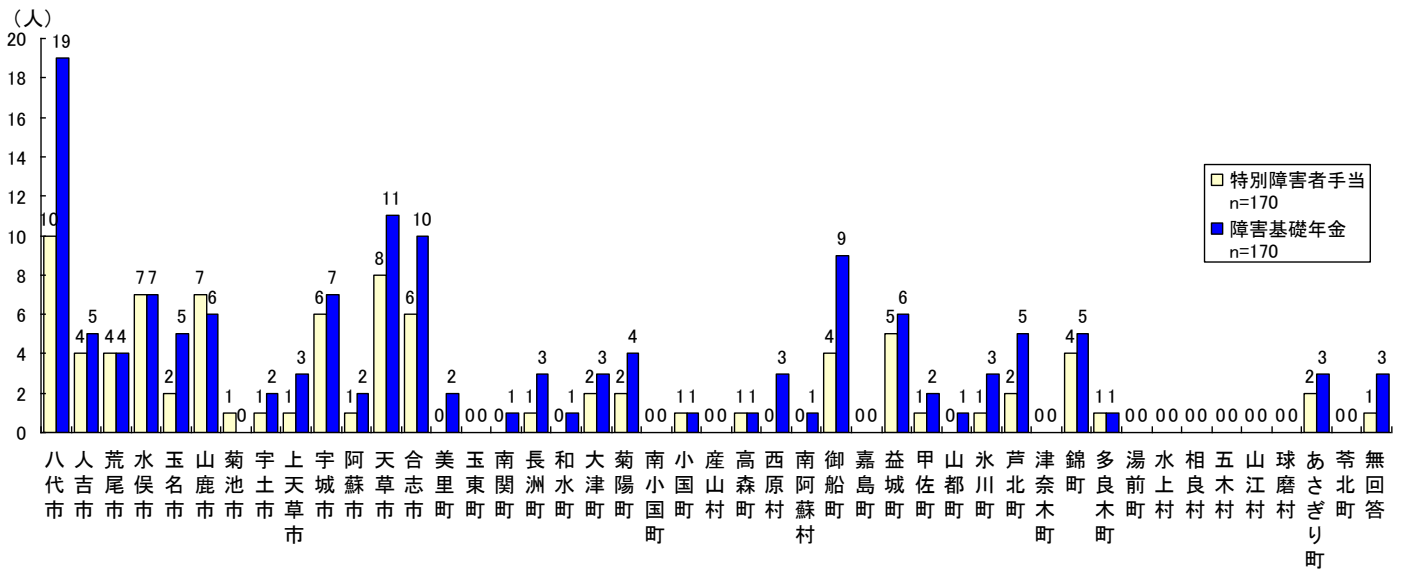


市町村別にみた手当等の受給状況は、下図の通り。

<「特別児童扶養手当」「障害児福祉手当」>

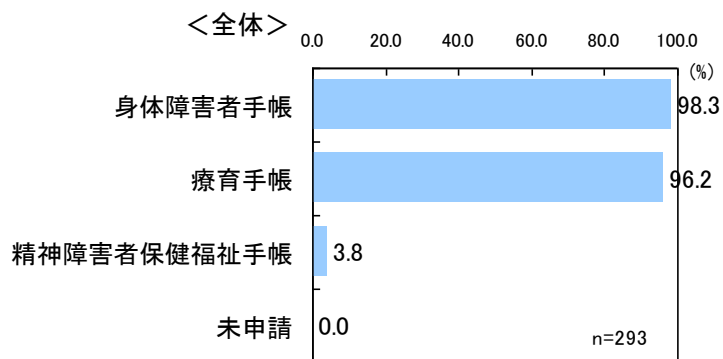


<「特別障害者手当」「障害基礎年金」>

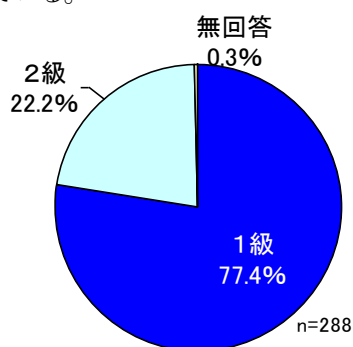


(7)手帳の交付状況

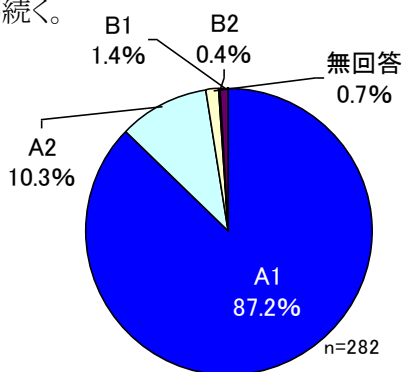
「身体障害者手帳」288人、「療育手帳」282人、「精神障害者保健福祉手帳」11人となっている。



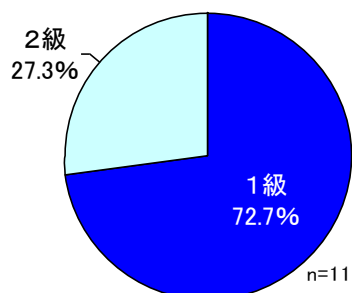
「身体障害者手帳」288人の等級別内訳をみると、「1級」が223人で77.4%を占めており、「2級」は64人で22.2%となっている。



「療育手帳」282人の判定別内訳をみると、「A1」の246人が最も多く87.2%を占めており、これに「A2」の29人(10.3%)が続く。



「精神障害者保健福祉手帳」11人の等級別内訳をみると、「1級」が8人で、「2級」は3人となっている。



障がい児者別にみた手帳の交付状況をみると、障がい児、障がい者の別に関わらず、ほとんどの人が「身体障害者手帳」と「療育手帳」のどちらの交付も受けている。

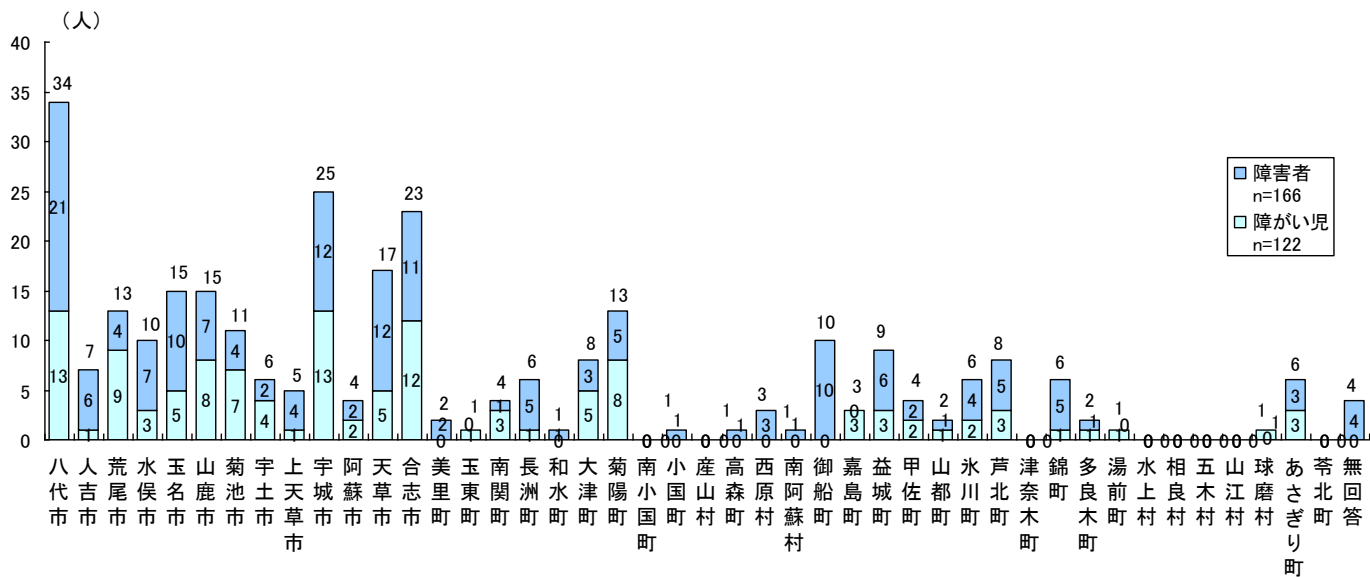
	合計	手帳の交付状況				
		身体障害者手帳	療育手帳	保健福祉障害者手帳	未申請	
全体	293	288	282	11	0	
	100.0	98.3	96.2	3.8	0.0	
児／者	18歳未満	123	122	123	1	0
	100.0	99.2	100.0	0.8	0.0	
18歳以上	170	166	159	10	0	
	100.0	97.6	93.5	5.9	0.0	

「身体障害者手帳」と「療育手帳」のどちらの交付も受けている 278 人のうち、身体障害者手帳が「1 級」かつ療育手帳が「A1」の最重度の人は 195 人(278 人の 70.1%)となっている。

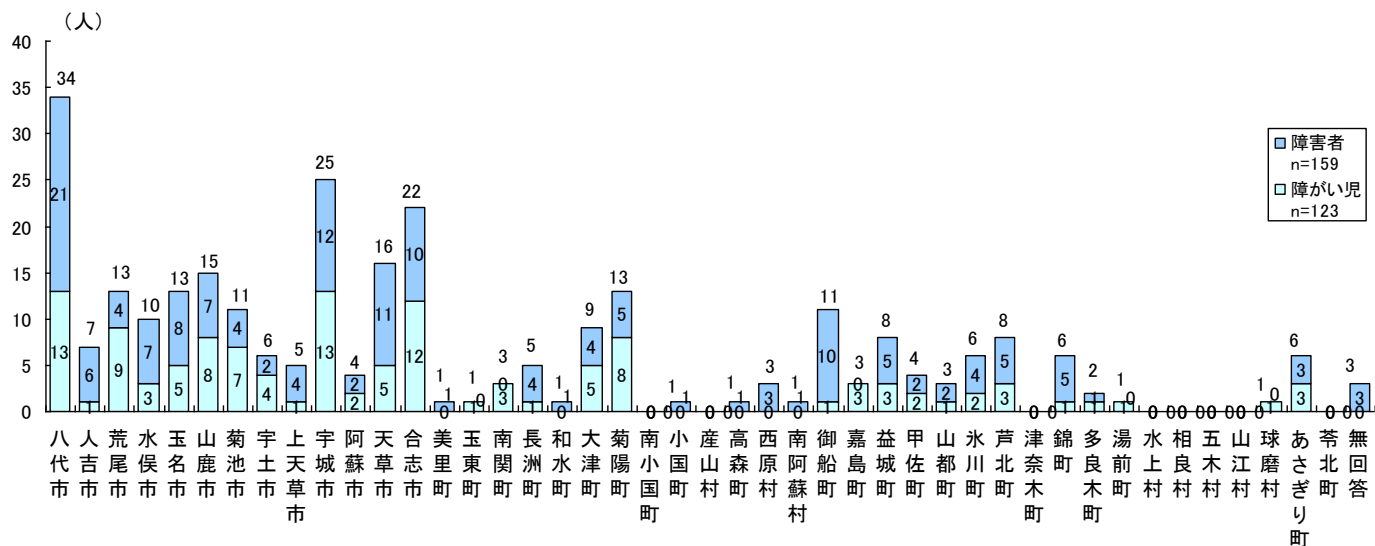
	合計	療育手帳の等級						
		A 1	A 2	B 1	B 2	なし	無回答	
全体	278	242	29	4	1	0	2	
	100.0	87.1	10.4	1.4	0.4	0.0	0.7	
身体等級	1級	216	195	16	2	1	0	2
	100.0	90.3	7.4	0.9	0.5	0.0	0.9	
2級	61	46	13	2	0	0	0	
	100.0	75.4	21.3	3.3	0.0	0.0	0.0	
無回答	1	1	0	0	0	0	0	
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

市町村別にみた手帳の交付状況は、表の通り。

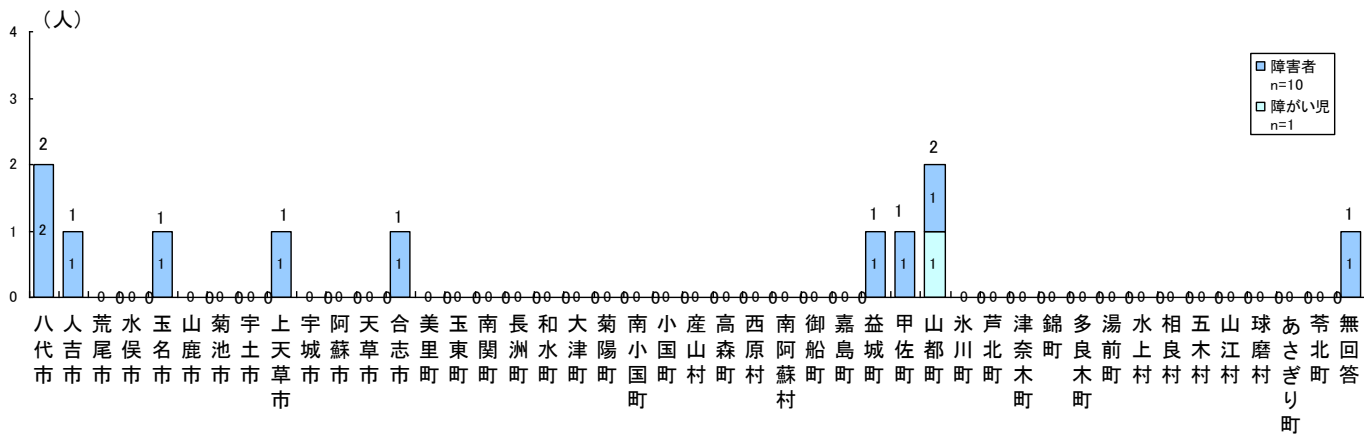
<身体障害者手帳の交付状況>



<療育手帳の交付状況>

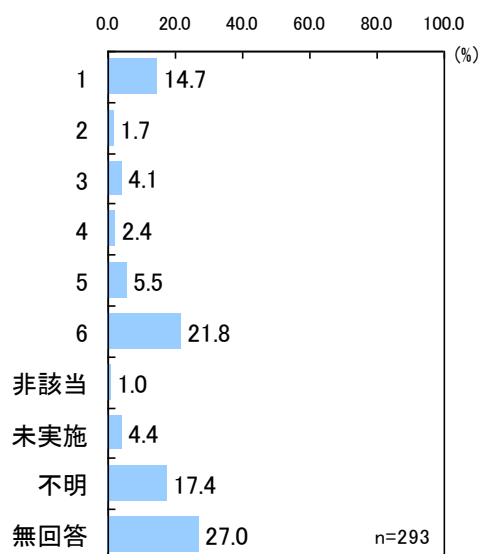


<精神障害者保健福祉手帳>



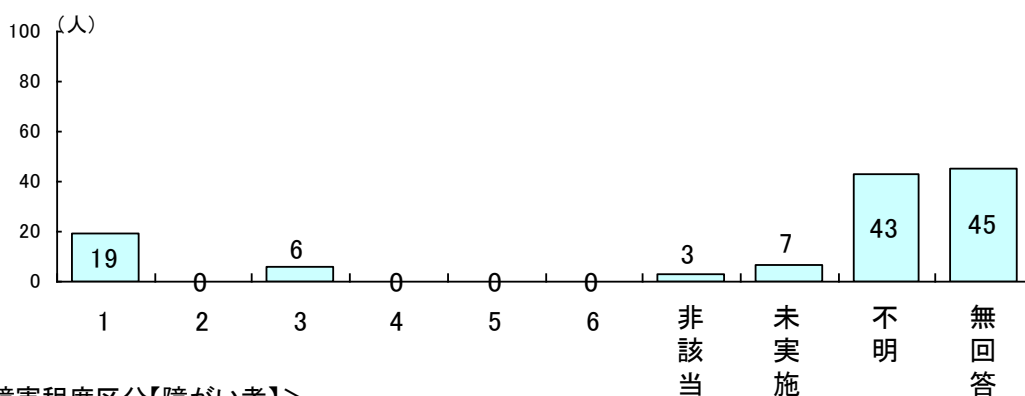
(8) 障害程度区分

「無回答」と「不明」を除くと、「区分6」が最も多く、64人(21.8%)となっており、これに「区分1」の43人(14.7%)が続く。

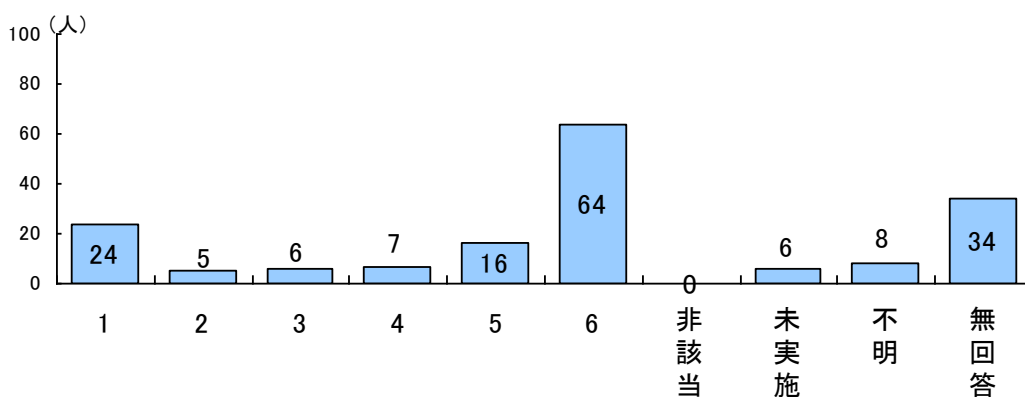


障がい児者別にみると、18歳以上の障がい者は「区分6」の割合が高い。

<障害程度区分【障がい児】>



<障害程度区分【障がい者】>



市町村別にみた障害程度区分の状況は、表の通り。

<障害程度区分【障がい児】>

	障がい児									
	障害程度区分									
	1	2	3	4	5	6	非該当	未実施	不明	無回答
全体	123	19	0	6	0	0	3	7	43	45
八代市	13	0	0	1	0	0	1	1	6	4
人吉市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
荒尾市	9	2	0	0	0	0	0	0	5	2
水俣市	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0
玉名市	5	1	0	1	0	0	0	0	1	2
山鹿市	8	2	0	0	0	0	2	0	1	3
菊池市	7	0	0	0	0	0	0	0	2	5
宇土市	4	0	0	1	0	0	0	0	2	1
上天草市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
宇城市	13	2	0	0	0	0	0	1	4	6
阿蘇市	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0
天草市	5	1	0	0	0	0	0	0	2	2
合志市	12	3	0	1	0	0	0	1	6	1
美里町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
玉東町	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
南関町	3	1	0	0	0	0	0	0	1	1
長洲町	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
和水町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大津町	5	1	0	0	0	0	0	0	1	3
菊陽町	8	1	0	1	0	0	0	1	2	3
南小国町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小国町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産山村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高森町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西原村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南阿蘇村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
御船町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
嘉島町	3	0	0	0	0	0	0	1	0	2
益城町	3	0	0	0	0	0	0	1	1	1
甲佐町	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0
山都町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
氷川町	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
芦北町	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
津奈木町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
錦町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
多良木町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
湯前町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
水上村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相良村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五木村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山江村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
球磨村	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
あさぎり町	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0
葦北町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<障害程度区分【障がい者】>

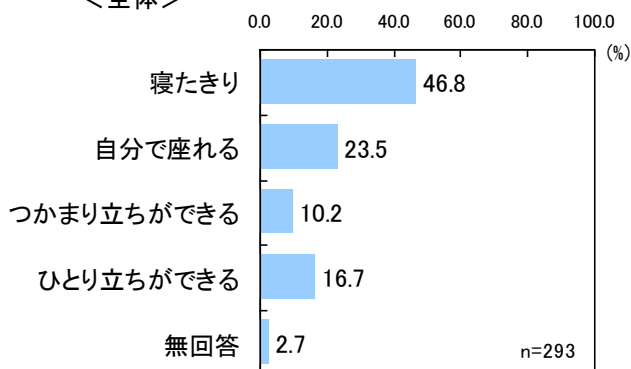
	障がい者									
	障害程度区分									
	1	2	3	4	5	6	非該当	未実施	不明	無回答
全体	170	24	5	6	7	16	64	0	6	8
八代市	22	4	0	3	0	3	37.6	0.0	3.5	4.7
人吉市	6	2	0	0	0	1	1	0	0	0
荒尾市	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0
水俣市	7	0	0	1	1	1	3	0	0	0
玉名市	10	2	0	0	1	1	4	0	0	2
山鹿市	7	1	0	0	0	0	5	0	0	1
菊池市	4	0	0	0	0	1	3	0	0	0
宇土市	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1
上天草市	4	0	2	0	1	0	0	0	0	1
宇城市	12	1	0	0	0	2	5	0	1	2
阿蘇市	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1
天草市	13	3	0	1	1	0	3	0	1	3
合志市	11	2	0	0	0	0	8	0	0	1
美里町	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0
玉東町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南関町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
長洲町	5	1	1	0	0	0	1	0	0	2
和水町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大津町	4	1	0	0	0	1	2	0	0	0
菊陽町	5	0	0	0	0	0	2	0	0	2
南小国町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小国町	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
産山村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高森町	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
西原村	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1
南阿蘇村	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
御船町	10	0	1	0	0	1	5	0	1	1
嘉島町	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
益城町	6	0	0	1	2	1	0	0	1	1
甲佐町	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0
山都町	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
氷川町	4	0	0	0	1	1	0	0	1	1
芦北町	5	0	0	1	1	0	2	0	0	1
津奈木町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
錦町	5	1	0	0	1	1	2	0	0	0
多良木町	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
湯前町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水上村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相良村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五木村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山江村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
球磨村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
あさぎり町	3	0	1	0	0	0	1	0	0	1
葦北町	0	0	33.3	0	0	0	33.3	0	0	33.3
無回答	4	0	0	0	1	1	0	0	0	2

(9)障がいの状態

ア 姿勢について

「寝たきり」の 137 人(46.8%)が最も多く、これに「自分で座れる」の 69 人(23.5%)が続く。
障がい児者別にみると、18 歳未満の障がい児では「寝たきり」の割合が特に高くなっている。

<全体>



<障がい児(18歳未満)・障がい者(20歳以上)別>

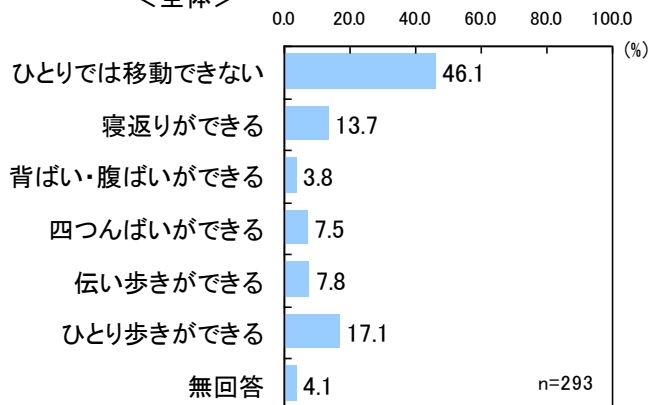
	合計	姿勢について					無回答
		寝たきり	自分で座れる	つかまり立ちができる	ひとり立ちができる		
全体	293	137	69	30	49	8	
	100.0	46.8	23.5	10.2	16.7	2.7	
児／者	18歳未満	123	75	18	14	14	2
		100.0	61.0	14.6	11.4	11.4	1.6
18歳以上	170	62	51	16	35	6	
	100.0	36.5	30.0	9.4	20.6	3.5	

イ 移動について

「ひとりでは移動できない」の 135 人(46.1%)が最も多く、これに「ひとり歩きができる」の 50 人(17.1%)、「寝返りができる」の 40 人(13.6%)が続く。

障がい児者別にみると、18 歳以上の障がい者では「ひとり歩きができる」の割合が高くなっている。

<全体>



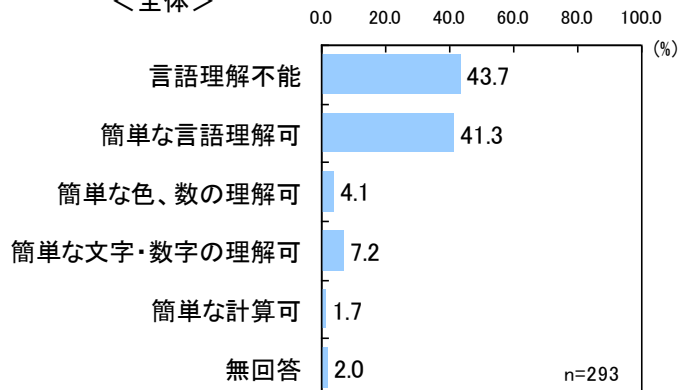
<障がい児(18歳未満)・障がい者(20歳以上)別>

	合計	移動について							無回答
		ひとりでは移動できない	寝返りができる	背ばい・腹ばい	四つんばい	伝い歩き	ひとり歩き		
全体	293	135	40	11	22	23	50	12	
	100.0	46.1	13.7	3.8	7.5	7.8	17.1	4.1	
児／者	18歳未満	123	62	18	7	9	6	16	5
		100.0	50.4	14.6	5.7	7.3	4.9	13.0	4.1
18歳以上	170	73	22	4	13	17	34	7	
	100.0	42.9	12.9	2.4	7.6	10.0	20.0	4.1	

ウ 理解について

「言語理解不能」の 129 人(43.7%)が最も多く、これに「簡単な言語理解可」の 121 人(41.3%)が続く。
障がい児者別にみると、18 歳未満の障がい児では「言語理解不能」の割合が特に高くなっている。

<全体>



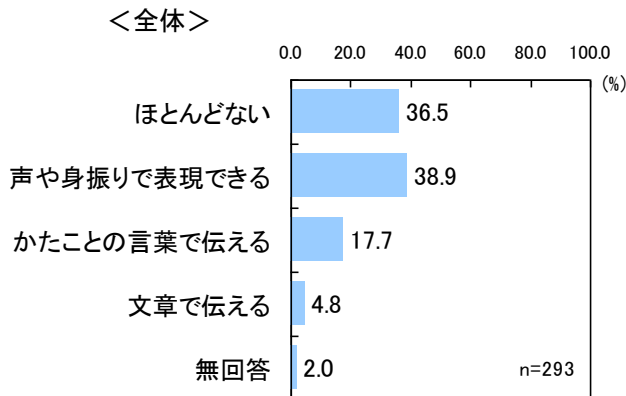
<障がい児(18歳未満)・障がい者(20歳以上)別>

	合計	理解について					無回答	
		言語理解不能	簡単な言語理解可	数の簡単な理解可	簡単な文字・数字の理解可	簡単な計算可		
全体	293	129	121	12	21	5	6	
	100.0	43.7	41.3	4.1	7.2	1.7	2.0	
児／者	18歳未満	123	65	46	4	5	0	3
		100.0	52.8	37.4	3.3	4.1	0.0	2.4
18歳以上	170	63	75	8	16	5	3	
	100.0	37.1	44.1	4.7	9.4	2.9	1.8	

エ 意思表示について

「声や身振りで表現できる」の114人(38.9%)が最も多く、これに「ほとんどない」の107人(36.5%)が続く。

障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「声や身振りで表現できる」の割合が最も高くなっている。



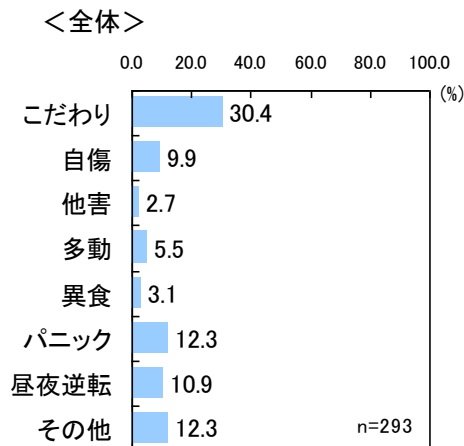
<障がい児(18歳未満)・障がい者(20歳以上)別>

	合計	意思表示について				
		ほとんどない	現声や身振りで表現できる	かたことの言葉で伝える	文章で伝える	無回答
全体	293 100.0	107 36.5	114 38.9	52 17.7	14 4.8	6 2.0
障 い 者	18歳未満	47 100.0	55 117.0	13 27.7	6 12.8	2 4.3
	18歳以上	60 100.0	59 98.3	39 65.0	8 13.3	4 6.7

オ 行動について

「こだわり」の89人(30.4%)が最も多く、これに「パニック」の36人(12.3%)、「その他」の36人(12.3%)が続く。

障がい児者別にみると、18歳以上の障がい者では「こだわり」や「パニック」の割合が18歳未満の障がい児と比べ高くなっている。



<障がい児(18歳未満)・障がい者(20歳以上)別>

	合計	問7行動							
		こだわり	自傷	他害	多動	異食	パニック	昼夜逆転	その他
全体	293 100.0	89 30.4	29 9.9	8 2.7	16 5.5	9 3.1	36 12.3	32 10.9	36 12.3
障 い 者	18歳未満	27 100.0	11 40.7	0 0.0	7 25.9	6 22.2	9 33.3	17 62.9	11 40.7
	18歳以上	62 100.0	62 100.0	18 29.0	9 14.5	3 4.8	27 43.5	15 24.2	25 40.3

障害程度区別にみた障がいの状態は、以下の表の通り。

	合計	姿勢について					移動について							
		寝たきり	自分で座れる	つかまり立ちができる	ひとり立ちができる	無回答	ひとりでは移動できない	寝返りができる	背ばい・腹ばいができる	四つんばいができる	伝い歩きができる	ひとり歩きができる	無回答	
全体	293	137	69	30	49	8	135	40	11	22	23	50	12	
	100.0	46.8	23.5	10.2	16.7	2.7	46.1	13.7	3.8	7.5	7.8	17.1	4.1	
障害区分程度	1	43	23	6	4	8	2	21	7	0	1	8	3	3
		100.0	53.5	14.0	9.3	18.6	4.7	48.8	16.3	0.0	2.3	18.6	7.0	7.0
	2	5	0	0	1	4	0	0	0	0	1	1	3	0
		100.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0
	3	12	5	2	1	3	1	6	1	0	2	0	3	0
		100.0	41.7	16.7	8.3	25.0	8.3	50.0	8.3	0.0	16.7	0.0	25.0	0.0
	4	7	0	4	0	3	0	0	1	0	2	1	3	0
		100.0	0.0	57.1	0.0	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	42.9	0.0
	5	16	2	9	3	2	0	4	2	1	1	3	3	2
		100.0	12.5	56.2	18.8	12.5	0.0	25.0	12.5	6.2	6.2	18.8	18.8	12.5
	6	64	34	22	2	5	1	34	12	3	4	2	6	3
		100.0	53.1	34.4	3.1	7.8	1.6	53.1	18.8	4.7	6.2	3.1	9.4	4.7
	非該当	3	2	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0
		100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
未実施	13	5	4	1	3	0	6	2	1	0	1	3	0	
	100.0	38.5	30.8	7.7	23.1	0.0	46.2	15.4	7.7	0.0	7.7	23.1	0.0	
不明	51	30	3	7	11	0	19	7	5	5	2	11	2	
	100.0	58.8	5.9	13.7	21.6	0.0	37.3	13.7	9.8	9.8	3.9	21.6	3.9	
無回答	79	36	18	11	10	4	43	7	1	6	5	15	2	
	100.0	45.6	22.8	13.9	12.7	5.1	54.4	8.9	1.3	7.6	6.3	19.0	2.5	

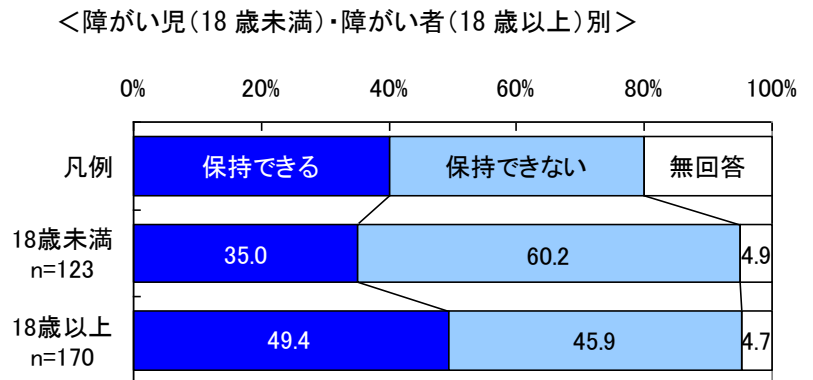
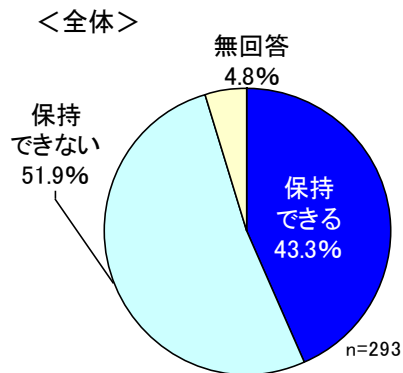
	合計	理解について					意思表示について						
		言語理解不能	簡単な言語理解可	簡単な色、数の理解可	簡単な文字・数字の理解可	簡単な計算可	無回答	ほとんどない	声や身振りで表現できる	かたことの言葉で伝える	文章で伝える	無回答	
全体	293	128	121	12	21	5	6	107	114	52	14	6	
	100.0	43.7	41.3	4.1	7.2	1.7	2.0	36.5	38.9	17.7	4.8	2.0	
障害区分程度	1	43	21	15	2	3	0	2	17	14	10	1	1
		100.0	48.8	34.9	4.7	7.0	0.0	4.7	39.5	32.6	23.3	2.3	2.3
	2	5	2	2	0	1	0	0	0	2	3	0	0
		100.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0
	3	12	4	6	1	1	0	0	4	6	2	0	0
		100.0	33.3	50.0	8.3	8.3	0.0	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0
	4	7	0	5	0	0	2	0	1	2	4	0	0
		100.0	0.0	71.4	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	28.6	57.1	0.0	0.0
	5	16	5	9	0	1	0	1	3	6	5	0	2
		100.0	31.2	56.2	0.0	6.2	0.0	6.2	18.8	37.5	31.2	0.0	12.5
	6	64	28	28	2	5	1	0	31	28	3	2	0
		100.0	43.8	43.8	3.1	7.8	1.6	0.0	48.4	43.8	4.7	3.1	0.0
	非該当	3	3	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
未実施	13	5	5	0	2	1	0	5	4	3	1	0	
	100.0	38.5	38.5	0.0	15.4	7.7	0.0	38.5	30.8	23.1	7.7	0.0	
不明	51	26	19	3	2	0	1	20	21	5	3	2	
	100.0	51.0	37.3	5.9	3.9	0.0	2.0	39.2	41.2	9.8	5.9	3.9	
無回答	79	34	32	4	6	1	2	24	30	17	7	1	
	100.0	43.0	40.5	5.1	7.6	1.3	2.5	30.4	38.0	21.5	8.9	1.3	

	合計	行動について								
		こだわり	自傷	他害	多動	異食	パニック	昼夜逆転	その他	
全体	293	89	29	8	16	9	36	32	36	
	100.0	30.4	9.9	2.7	5.5	3.1	12.3	10.9	12.3	
障害区分程度	1	43	13	3	1	0	1	3	3	11
		100.0	30.2	7.0	2.3	0.0	2.3	7.0	7.0	25.6
	2	5	2	0	0	1	0	1	0	0
		100.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	3	12	4	3	1	2	0	2	2	0
		100.0	33.3	25.0	8.3	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0
	4	7	5	2	1	2	0	5	0	2
		100.0	71.4	28.6	14.3	28.6	0.0	71.4	0.0	28.6
	5	16	5	2	3	1	1	6	1	0
		100.0	31.2	12.5	18.8	6.2	6.2	37.5	6.2	0.0
	6	64	25	8	0	2	1	9	8	8
		100.0	39.1	12.5	0.0	3.1	1.6	14.1	12.5	12.5
	非該当	3	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	未実施	13	3	1	0	3	0	0	3	2
		100.0	23.1	7.7	0.0	23.1	0.0	0.0	23.1	15.4
不明	51	13	4	0	2	4	2	5	4	
	100.0	25.5	7.8	0.0	3.9	7.8	3.9	9.8	7.8	
無回答	79	18	6	2	3	2	8	10	9	
	100.0	22.8	7.6	2.5	3.8	2.5	10.1	12.7	11.4	

(10) 座位について

「保持できる」が 127 人(43.3%)、「保持できない」が 152 人(51.9%)となっている。

障がい児者別にみると、18 歳未満の障がい児では「保持できない」の割合が 18 歳以上の障がい者と比べて高くなっている。

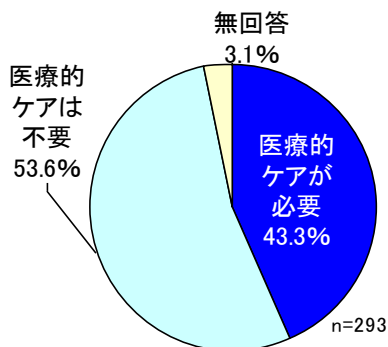


(11) 在宅での医療的ケアの必要性

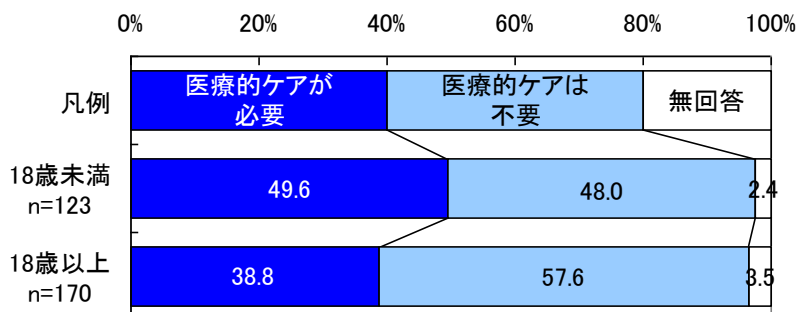
「医療的ケアが必要」が 127 人(43.3%)、「医療的ケアは不要」が 157 人(53.6%)となっている。

障がい児者別にみると、18 歳未満の障がい児では「医療的ケアが必要」の割合が 18 歳以上の障がい者と比べ高くなっている。

<全体>

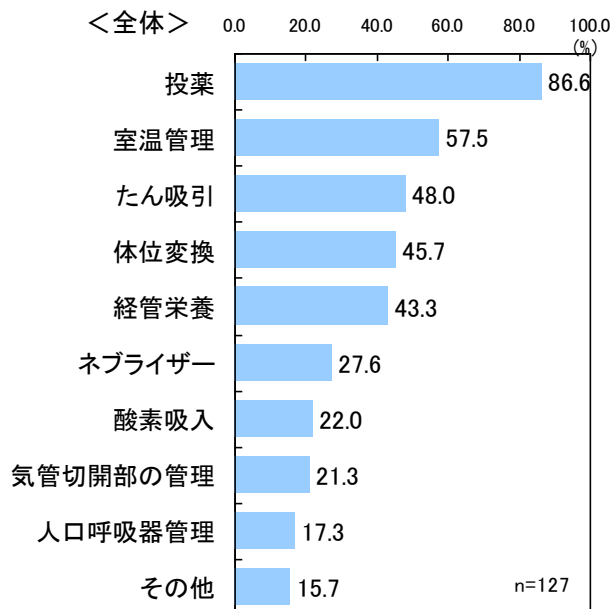


<障がい児(18歳未満)・障がい者(18歳以上)別>

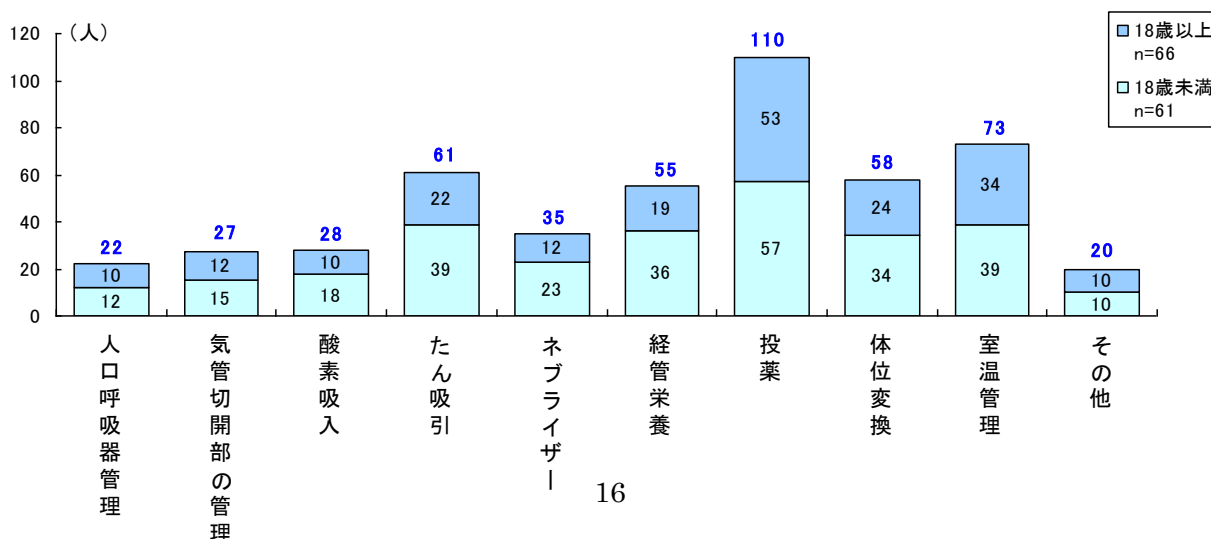


「医療的ケアが必要」な 127 人のケアの内容は、「投薬」が 110 人(86.6%)で最も多く、次いで「室温管理」73 人(57.5%)、「たん吸引」61 人(48.0%)、「体位変換」58 人(45.7%)、「経管栄養」55 人(43.3%)が続く。

<全体>



<障がい児(18歳未満)・障がい者(18歳以上)別>



必要な医療的ケアを障害程度区分別にみると、障がい児の「区分1」では「投薬」(91.7%)、「たん吸引」(58.3%)、「室温管理」(50.0%)、「体位変換」(41.7%)が多くなっている。同じく障がい者の「区分6」では「投薬」(96.3%)、「室温管理」(74.1%)、「体位変換」(51.9%)、「たん吸引」(40.7%)が多くなっている。

	障がい児											
	合計	必要な医療的ケア										
		人口呼吸器管理	気管切開部の管理	酸素吸入	たん吸引	ネブライザー	経管栄養	投薬	体位変換	室温管理	その他	
全体	61 100.0	12 19.7	15 24.6	18 29.5	39 63.9	23 37.7	36 59.0	57 93.4	34 55.7	39 63.9	10 16.4	
障害区分程度	1	12 100.0	2 16.7	3 25.0	3 25.0	7 58.3	3 25.0	4 33.3	11 91.7	5 41.7	6 50.0	2 16.7
	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	3	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	3 100.0	2 66.7	1 33.3	3 100.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3
	4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	非該当	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	未実施	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0
	不明	17 100.0	3 17.6	5 29.4	5 29.4	13 76.5	6 35.3	12 70.6	17 100.0	11 64.7	14 82.4	3 17.6
	無回答	24 100.0	5 20.8	5 20.8	8 33.3	13 54.2	12 50.0	16 66.7	21 87.5	15 62.5	15 62.5	4 16.7

	障がい者											
	合計	必要な医療的ケア										
		人口呼吸器管理	気管切開部の管理	酸素吸入	たん吸引	ネブライザー	経管栄養	投薬	体位変換	室温管理	その他	
全体	66 100.0	10 15.2	12 18.2	10 15.2	22 33.3	12 18.2	19 28.8	53 80.3	24 36.4	34 51.5	10 15.2	
障害区分程度	1	13 100.0	2 15.4	1 7.7	2 15.4	3 23.1	1 7.7	4 30.8	8 61.5	3 23.1	2 15.4	2 15.4
	2	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	1 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	3	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 50.0	1 100.0	2 0.0	0 50.0	1 50.0	1 50.0
	4	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	1 0.0	0 0.0
	5	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	4 50.0	0 0.0	3 37.5	1 12.5
	6	27 100.0	6 22.2	6 22.2	6 22.2	11 40.7	5 18.5	8 29.6	26 96.3	14 51.9	20 74.1	5 18.5
	非該当	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	未実施	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0
	不明	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	0 0.0
	無回答	10 100.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0	5 50.0	3 30.0	3 30.0	8 80.0	3 30.0	3 30.0	0 0.0

(12)健康状態

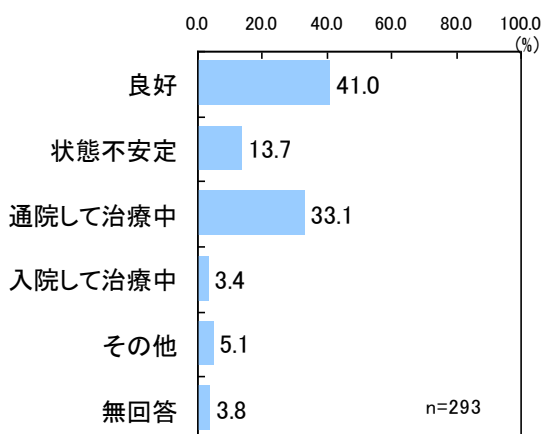
「良好」の120人(41.0%)が最も多く、これに「通院して治療中」の97人(33.1%)、「状態不安定」の40人(13.7%)が続く。

障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「良好」の割合が18歳以上の障がい児と比べ高くなっている。

医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層はそうでない層と比べて「通院して治療中」の割合が高くなっている。

健康状態を障害程度区分別にみると、「区分1」では「通院して治療中」、「区分6」では「良好」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

<全体>



<回答者の特性別>

	合計	健康状態						
		良好	状態不安定	通院して治療中	入院して治療中	その他	無回答	
全体	293 100.0	120 41.0	40 13.7	97 33.1	10 3.4	15 5.1	11 3.8	
児／者	18歳未満	123 100.0	60 48.8	12 9.8	41 33.3	1 0.8	5 4.1	4 3.3
	18歳以上	170 100.0	60 35.3	28 16.5	56 32.9	9 5.3	10 5.9	7 4.1
医療的ケアの有無	医療的ケアが必要	127 100.0	32 25.2	21 16.5	53 41.7	7 5.5	9 7.1	5 3.9
	医療的ケアは不要	157 100.0	87 55.4	18 11.5	43 27.4	2 1.3	5 3.2	2 1.3
	無回答	9 100.0	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1	4 44.4
障害程度区分	1	43 100.0	12 27.9	4 9.3	14 32.6	3 7.0	5 11.6	5 11.6
	2	5 100.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	3	12 100.0	3 25.0	1 8.3	8 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	4	7 100.0	3 42.9	1 14.3	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	5	16 100.0	6 37.5	2 12.5	7 43.8	0 0.0	1 6.2	0 0.0
	6	64 100.0	25 39.1	14 21.9	19 29.7	1 1.6	3 4.7	2 3.1
	非該当	3 100.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	未実施	13 100.0	5 38.5	3 23.1	4 30.8	1 7.7	0 0.0	0 0.0
	不明	51 100.0	22 43.1	9 17.6	16 31.4	1 2.0	1 2.0	2 3.9
	無回答	79 100.0	41 51.9	6 7.6	22 27.8	3 3.8	5 6.3	2 2.5

(13) 受診している医療機関の箇所数

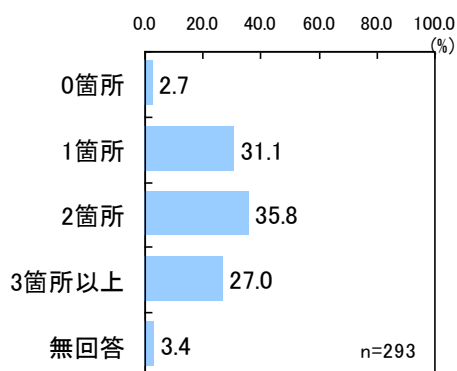
「2箇所」の105人(35.8%)が最も多く、これに「1箇所」の91人(31.1%)、「3箇所以上」の79人(27.0%)が続く。

障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「3箇所以上」の割合が18歳以上の障がい者と比べ高くなっている。

医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層はそうでない層と比べて「3箇所以上」の割合が高くなっている。

受診している医療機関の箇所数を障害程度区別にみると、「区分1」では「1箇所」、「区分6」では「2箇所」の割合がそれぞれ最も高くなっている。

<全体>



<回答者の特性別>

	合計	問12医療機関					
		0箇所	1箇所	2箇所	3箇所以上	無回答	
全体	293	8	91	105	79	10	
	100.0	2.7	31.1	35.8	27.0	3.4	
児／者	18歳未満	0	25	46	49	3	
	100.0	0.0	20.3	37.4	39.8	2.4	
18歳以上	170	8	66	59	30	7	
	100.0	4.7	38.8	34.7	17.6	4.1	
医療的ケアの有無	医療的ケアが必要	127	0	38	44	43	2
	100.0	0.0	29.9	34.6	33.9	1.6	
	医療的ケアは不要	157	8	51	60	34	4
	100.0	5.1	32.5	38.2	21.7	2.5	
無回答	9	0	2	1	2	4	
100.0	0.0	22.2	11.1	22.2	44.4		
障害程度区分	1	43	0	16	15	8	4
	100.0	0.0	37.2	34.9	18.6	9.3	
	2	5	1	4	0	0	0
	100.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	
	3	12	1	3	2	5	1
	100.0	8.3	25.0	16.7	41.7	8.3	
	4	7	1	2	2	2	0
	100.0	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	
	5	16	0	3	9	3	1
	100.0	0.0	18.8	56.2	18.8	6.2	
	6	64	0	17	32	14	1
	100.0	0.0	26.6	50.0	21.9	1.6	
	非該当	3	0	0	2	1	0
	100.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	
未実施	13	0	2	4	7	0	
100.0	0.0	15.4	30.8	53.8	0.0		
不明	51	2	15	18	15	1	
100.0	3.9	29.4	35.3	29.4	2.0		
無回答	79	3	29	21	24	2	
100.0	3.8	36.7	26.6	30.4	2.5		

(14) 日常的な介護について

▼食事介助について

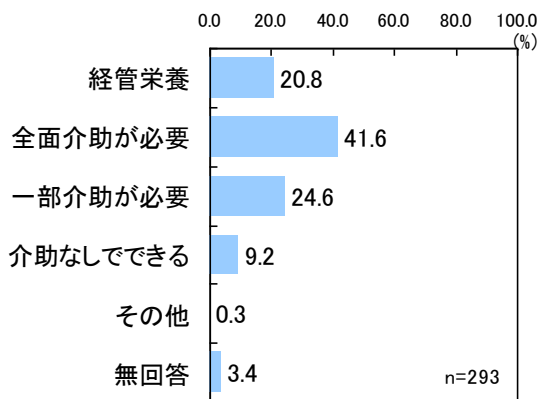
「全面介助が必要」の122人(41.6%)が最も多く、これに「一部介助が必要」の72人(24.6%)、「経管栄養」の61人(20.8%)が続く。

障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「全面介助が必要」の割合が18歳以上の障がい者と比べ高くなっている。

医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層はそうでない層と比べて「経管栄養」の割合が高くなっている。

食事介助の状況を障害程度区別にみると、「区分1」と「区分6」のどちらも「全面介助」の割合が最も高くなっている。

<全体>



<回答者の特性別>

	合計	食事介助						
		経管栄養	全面介助が必要	一部介助が必要	介助なしでできる	その他	無回答	
全体	293 100.0	61 20.8	122 41.6	72 24.6	27 9.2	1 0.3	10 3.4	
児者	18歳未満	123 100.0	37 30.1	57 46.3	22 17.9	3 2.4	0 0.0	4 3.3
	18歳以上	170 100.0	24 14.1	65 38.2	50 29.4	24 14.1	1 0.6	6 3.5
医療的ケア	医療的ケアが必要	127 100.0	58 45.7	46 36.2	17 13.4	3 2.4	0 0.0	3 2.4
	医療的ケアは不要	157 100.0	1 0.6	76 48.4	53 33.8	24 15.3	1 0.6	2 1.3
	無回答	9 100.0	2 22.2	0 0.0	2 22.2	0 0.0	0 0.0	5 55.6
障害程度区分	1	43 100.0	11 25.6	15 34.9	8 18.6	5 11.6	0 0.0	4 9.3
	2	5 100.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
	3	12 100.0	1 8.3	6 50.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	2 16.7
	4	7 100.0	0 0.0	0 0.0	5 71.4	2 28.6	0 0.0	0 0.0
	5	16 100.0	0 0.0	4 25.0	11 68.8	1 6.2	0 0.0	0 0.0
	6	64 100.0	9 14.1	41 64.1	13 20.3	0 0.0	1 1.6	0 0.0
	非該当	3 100.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	未実施	13 100.0	4 30.8	4 30.8	2 15.4	2 15.4	0 0.0	1 7.7
	不明	51 100.0	14 27.5	20 39.2	11 21.6	4 7.8	0 0.0	2 3.9
	無回答	79 100.0	22 27.8	29 36.7	17 21.5	10 12.7	0 0.0	1 1.3

▼着脱介助について

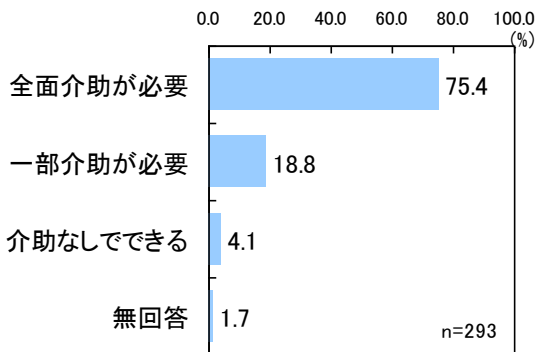
「全面介助が必要」の221人(75.4%)が最も多く、これに「一部介助が必要」の55人(18.8%)が続く。

障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「全面介助が必要」の割合が18歳以上の障がい者と比べ高くなっている。

医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層はそうでない層と比べて「全面介助が必要」の割合が高くなっている。

着脱介助の状況を障害程度区分別にみると、「区分1」と「区分6」のどちらも「全面介助が必要」の割合が最も高くなっている。

<全体>



<回答者の特性別>

	合計	着脱介助					
		全面介助が必要	一部介助が必要	介助なしでできる	その他	無回答	
全体	293	221	55	12	0	5	
	100.0	75.4	18.8	4.1	0.0	1.7	
児者	18歳未満	123	110	11	0	0	2
		100.0	89.4	8.9	0.0	0.0	1.6
18歳以上	170	111	44	12	0	3	
		100.0	65.3	25.9	7.1	0.0	1.8
医療的ケア	医療的ケアが必要	127	118	7	1	0	1
		100.0	92.9	5.5	0.8	0.0	0.8
	医療的ケアは不要	157	99	46	11	0	1
		100.0	63.1	29.3	7.0	0.0	0.6
無回答	9	4	2	0	0	3	
	100.0	44.4	22.2	0.0	0.0	33.3	
障害程度区分	1	43	31	7	2	0	3
		100.0	72.1	16.3	4.7	0.0	7.0
	2	5	0	3	2	0	0
		100.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	3	12	8	4	0	0	0
		100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	4	7	2	5	0	0	0
		100.0	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0
	5	16	8	7	1	0	0
		100.0	50.0	43.8	6.2	0.0	0.0
	6	64	59	5	0	0	0
		100.0	92.2	7.8	0.0	0.0	0.0
非該当	3	3	0	0	0	0	
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
未実施	13	10	1	2	0	0	
	100.0	76.9	7.7	15.4	0.0	0.0	
不明	51	41	7	2	0	1	
	100.0	80.4	13.7	3.9	0.0	2.0	
無回答	79	59	16	3	0	1	
	100.0	74.7	20.3	3.8	0.0	1.3	

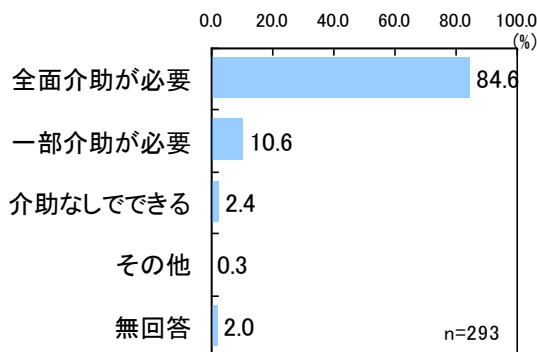
▼入浴介助について

「全面介助が必要」の248人(84.6%)が最も多く、これに「一部介助が必要」の31人(10.6%)が続く。障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「全面介助が必要」の割合が18歳以上の障がい者と比べ高くなっている。

医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層はそうでない層と比べて「全面介助が必要」の割合が高くなっている。

着脱介助の状況を障害程度区別にみると、「区分1」と「区分6」のどちらも「全面介助が必要」の割合が最も高くなっている。

<全体>



<回答者の特性別>

	合計	入浴介助					
		全面介助が必要	一部介助が必要	介助なしでできる	その他	無回答	
全体	293 100.0	248 84.6	31 10.6	7 2.4	1 0.3	6 2.0	
児／者	18歳未満	123 100.0	115 93.5	6 4.9	0 0.0	0 0.0	2 1.6
	18歳以上	170 100.0	133 78.2	25 14.7	7 4.1	1 0.6	4 2.4
医療的ケア	医療的ケアが必要	127 100.0	121 95.3	4 3.1	0 0.0	1 0.8	1 0.8
	医療的ケアは不要	157 100.0	122 77.7	27 17.2	7 4.5	0 0.0	1 0.6
	無回答	9 100.0	5 55.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 44.4
障害程度区分	1	43 100.0	37 86.0	2 4.7	1 2.3	0 0.0	3 7.0
	2	5 100.0	0 0.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
	3	12 100.0	9 75.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	4	7 100.0	6 85.7	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	5	16 100.0	12 75.0	4 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	6	64 100.0	63 98.4	0 0.0	0 0.0	1 1.6	0 0.0
	非該当	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	未実施	13 100.0	10 76.9	2 15.4	1 7.7	0 0.0	0 0.0
	不明	51 100.0	45 88.2	3 5.9	2 3.9	0 0.0	1 2.0
	無回答	79 100.0	63 79.7	13 16.5	1 1.3	0 0.0	2 2.5

▼排泄・排便について

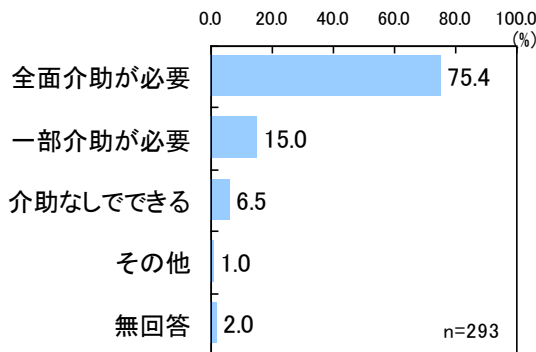
「全面介助が必要」の221人(75.4%)が最も多く、これに「一部介助が必要」の44人(15.0%)が続く。

障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「全面介助が必要」の割合が18歳以上の障がい者と比べ高くなっている。

医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層はそうでない層と比べて「全面介助が必要」の割合が高くなっている。

着脱介助の状況を障害程度区別にみると、「区分1」と「区分6」のどちらも「全面介助が必要」の割合が最も高くなっている。

<全体>



<回答者の特性別>

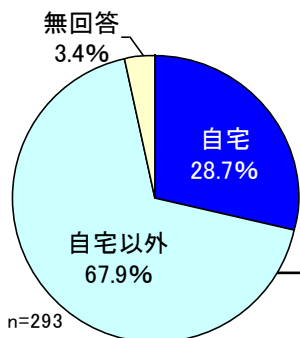
	合計	排泄・排便の介助					
		全面介助が必要	一部介助が必要	介助なしでできる	その他	無回答	
全体	293 100.0	221 75.4	44 15.0	19 6.5	3 1.0	6 2.0	
児／者	18歳未満	123 100.0	110 89.4	9 7.3	1 0.8	1 0.8	2 1.6
	18歳以上	170 100.0	111 65.3	35 20.6	18 10.6	2 1.2	4 2.4
医療的ケア	医療的ケアが必要	127 100.0	114 89.8	7 5.5	3 2.4	1 0.8	2 1.6
	医療的ケアは不要	157 100.0	103 65.6	35 22.3	16 10.2	2 1.3	1 0.6
	無回答	9 100.0	4 44.4	2 22.2	0 0.0	0 0.0	3 33.3
障害程度区分	1	43 100.0	31 72.1	5 11.6	4 9.3	0 0.0	3 7.0
	2	5 100.0	0 0.0	1 20.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0
	3	12 100.0	8 66.7	2 16.7	2 16.7	0 0.0	0 0.0
	4	7 100.0	4 57.1	3 42.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	5	16 100.0	8 50.0	6 37.5	1 6.2	0 0.0	1 6.2
	6	64 100.0	60 93.8	2 3.1	0 0.0	2 3.1	0 0.0
	非該当	3 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	未実施	13 100.0	9 69.2	3 23.1	1 7.7	0 0.0	0 0.0
	不明	51 100.0	41 80.4	7 13.7	2 3.9	0 0.0	1 2.0
	無回答	79 100.0	57 72.2	15 19.0	5 6.3	1 1.3	1 1.3

(15) 平日の日中の主な生活の場

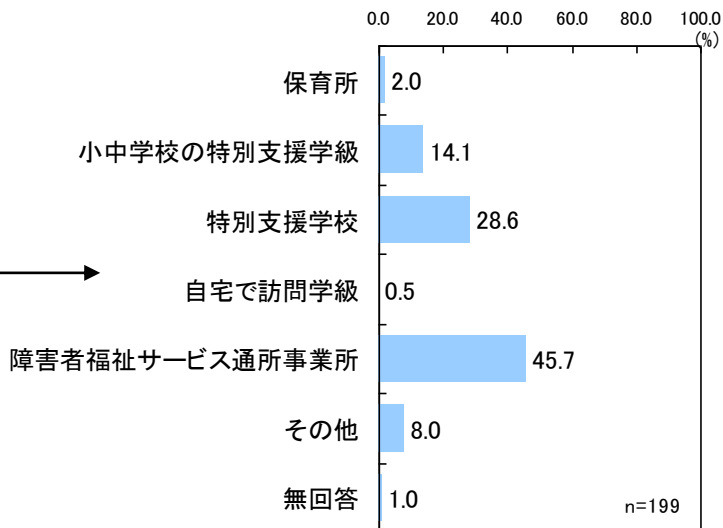
「自宅以外」の199人(67.9%)が最も多く、これに「自宅」の84人(28.7%)が続く。

「自宅以外」の生活の場の内容をみると、「障害福祉サービス通所事業所」の91人(45.7%)が最も多く、以下「特別支援学校」の57人(28.6%)、「小中学校の特別支援学級」の28人(14.1%)の順で割合が高くなっている。

＜日中の主な生活の場＞

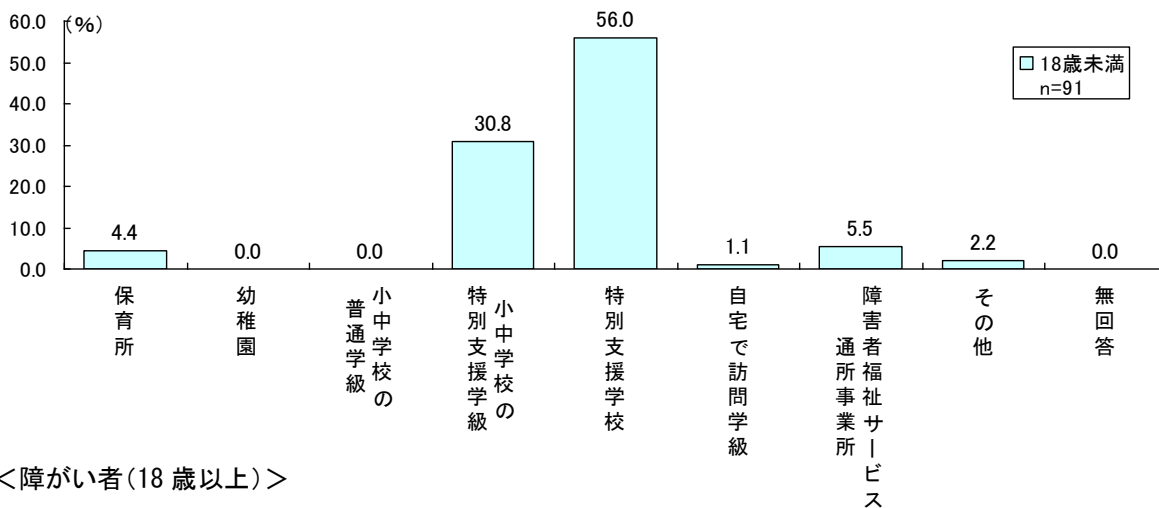


＜自宅以外の生活の場＞

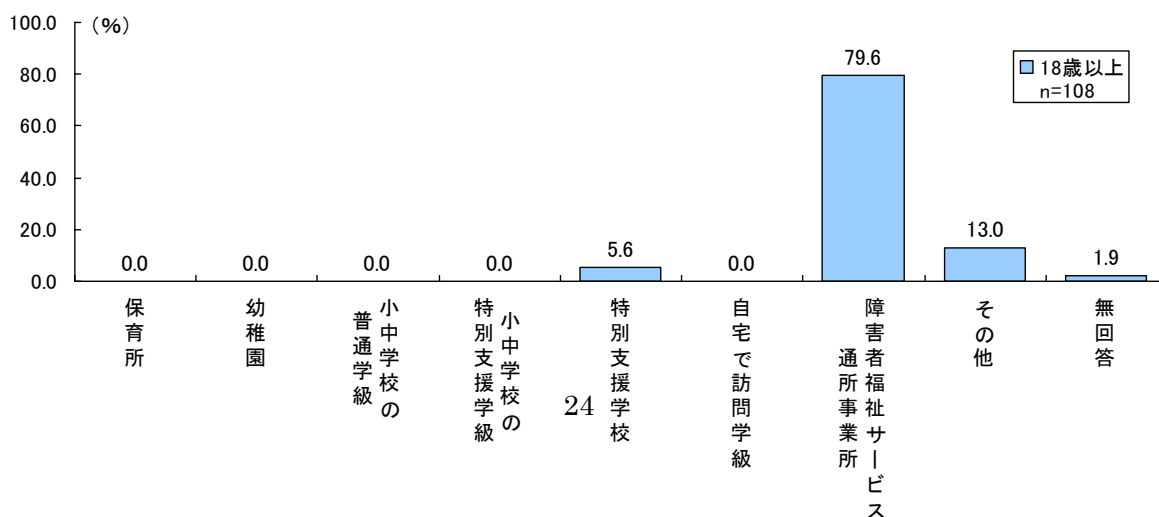


平日の日中の主な生活の場を年齢区分別にみると、18歳未満の障がい児は「特別支援学校」や「小中学校の特別支援学級」の割合が高く、18歳以上の障がい者は「障害福祉サービス通所事業所」の割合が高くなっている。

＜障がい児(18歳未満)＞



＜障がい者(18歳以上)＞



医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層は「特別支援学校」の割合が高く、医療的ケアが不要な層は「小中学校の特別支援学級」の割合が高くなっている。

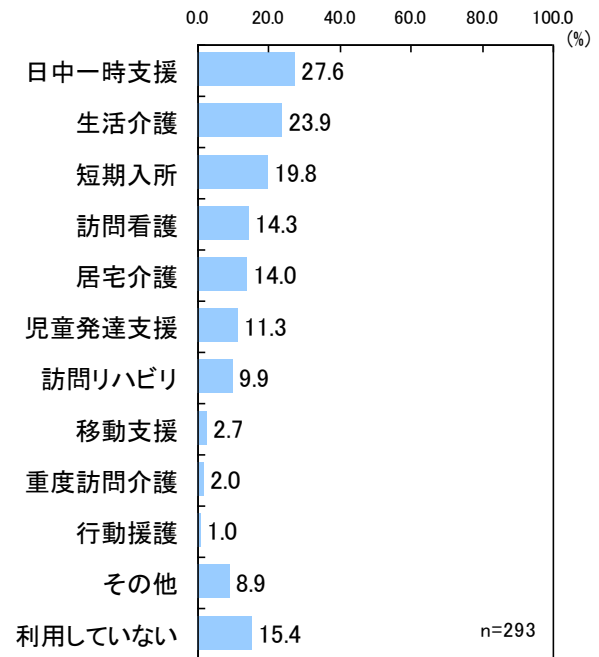
障害程度区分別にみると、「区分6」では「障害者福祉サービス通所事業所」の割合が極めて高くなっている。

	合計	平日の日中の主な生活の場									
		保育所	幼稚園	小中学校の普通学級	小中学校の特別支援学級	特別支援学校	自宅で訪問学級	障害者福祉サービス通所事業所	その他	無回答	
全体	199 100.0	4 2.0	0 0.0	0 0.0	28 14.1	57 28.6	1 0.5	91 45.7	16 8.0	2 1.0	
医療的ケア	医療的ケアが必要	70 100.0	2 2.9	0 0.0	0 0.0	5 7.1	26 37.1	1 1.4	30 42.9	6 8.6	0 0.0
	医療的ケアは不要	124 100.0	2 1.6	0 0.0	0 0.0	22 17.7	31 25.0	0 0.0	60 48.4	8 6.5	1 0.8
	無回答	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 20.0	1 40.0	2 20.0	1 20.0
障害程度区分	1	22 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 18.2	7 31.8	0 0.0	7 31.8	4 18.2	0 0.0
	2	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 50.0	1 50.0	1 0.0	0 0.0
	3	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 60.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0
	4	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 100.0	4 0.0	0 0.0	0 0.0
	5	14 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	0 0.0	13 92.9	0 0.0	0 0.0
	6	48 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.1	0 0.0	43 89.6	3 6.2	1 2.1
	非該当	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	未実施	9 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 33.3	4 44.4	0 0.0	1 11.1	1 11.1	0 0.0
	不明	39 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 23.1	21 53.8	0 0.0	7 17.9	2 5.1	0 0.0
	無回答	49 100.0	4 8.2	0 0.0	0 0.0	11 22.4	16 32.7	1 2.0	11 22.4	5 10.2	1 2.0

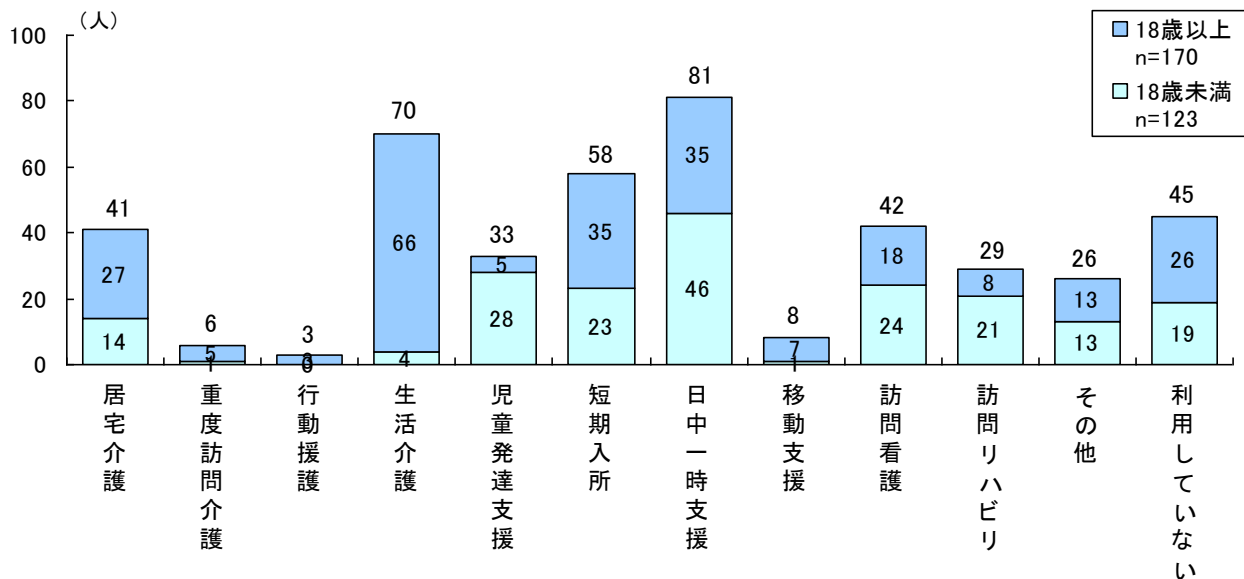
(16) 25年6月時点の障害福祉サービス等の利用状況

「日中一時支援」の81人(27.6%)が最も多い。以下、多い方から「生活介護」の70人(23.9%)、「利用していない」の45人(15.4%)、「訪問看護」の42人(14.3%)の順となっている。

<全体>



<障がい児(18歳未満)・障がい者(18歳以上)別>



日常的な介護の程度別にみた 25 年 6 月時点の障害福祉サービス等の利用状況は以下の通り。

	合計	6月中に利用した障害福祉サービス												
		居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援(医療型)	児童発達支援(支援型)	短期入所	日中一時支援	移動支援	訪問看護	訪問リハビリ	その他	利用していない
全体	293 100.0	41 14.0	6 2.0	3 1.0	70 23.9	33 11.3	58 19.8	81 27.6	8 2.7	42 14.3	29 9.9	26 8.9	45 15.4	
食事介助	経管栄養	61 100.0	14 23.0	4 6.6	1 1.6	14 23.0	13 21.3	15 24.6	13 21.3	3 4.9	31 50.8	17 27.9	6 9.8	7 11.5
	全面介助が必要	122 100.0	20 16.4	2 1.6	1 0.8	34 27.9	12 9.8	31 25.4	46 37.7	1 0.8	8 6.6	6 4.9	8 6.6	17 13.9
	一部介助が必要	72 100.0	5 6.9	0 0.0	0 0.0	17 23.6	5 6.9	11 15.3	19 26.4	2 2.8	2 2.8	5 6.9	11 15.3	12 16.7
	介助なしでできる	27 100.0	1 3.7	0 0.0	1 3.7	3 11.1	1 3.7	1 3.7	2 7.4	1 3.7	0 0.0	0 0.0	1 3.7	8 29.6
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
着脱介助	全面介助が必要	221 100.0	39 17.6	6 2.7	3 1.4	55 24.9	29 13.1	54 24.4	68 30.8	6 2.7	41 18.6	28 12.7	22 10.0	27 12.2
	一部介助が必要	55 100.0	2 3.6	0 0.0	0 0.0	13 23.6	3 5.5	4 7.3	13 23.6	1 1.8	0 0.0	0 0.0	3 5.5	12 21.8
	介助なしでできる	12 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	1 8.3	6 50.0
	その他	0 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
入浴介助	全面介助が必要	248 100.0	41 16.5	5 2.0	3 1.2	64 25.8	31 12.5	55 22.2	74 29.8	7 2.8	40 16.1	27 10.9	22 8.9	33 13.3
	一部介助が必要	31 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 12.9	1 3.2	3 9.7	7 22.6	0 0.0	0 0.0	1 3.2	2 6.5	9 29.0
	介助なしでできる	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	3 42.9
	その他	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	無回答	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0
排泄・排便介助	全面介助が必要	221 100.0	39 17.6	5 2.3	2 0.9	56 25.3	29 13.1	55 24.9	70 31.7	6 2.7	40 18.1	27 12.2	20 9.0	26 11.8
	一部介助が必要	44 100.0	2 4.5	0 0.0	0 0.0	11 25.0	3 6.8	2 4.5	8 18.2	1 2.3	0 0.0	0 0.0	2 4.5	12 27.3
	介助なしでできる	19 100.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	2 10.5	0 0.0	1 5.3	1 5.3	1 5.3	0 0.0	0 0.0	2 10.5	6 31.6
	その他	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	1 33.3
	無回答	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0
児／者	18歳未満	124 100.0	14 11.3	1 0.8	0 0.0	4 3.2	28 22.6	23 18.5	46 37.1	1 0.8	24 19.4	21 16.9	13 10.5	20 16.1
	18歳以上	170 100.0	27 15.9	5 2.9	3 1.8	66 38.8	5 2.9	35 20.6	35 20.6	7 4.1	18 10.6	8 4.7	13 7.6	26 15.3

主な介護者の年齢、看護期間別にみた25年6月時点の障害福祉サービス等の利用状況は以下の通り。

	合計	6月中に利用した障害福祉サービス												
		居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援(医療型)	児童発達支援(医療型)	短期入所	日中一時支援	移動支援	訪問看護	訪問リハビリ	その他	利用していない
全体	293	41	6	3	70	33	58	81	8	42	29	26	45	
	100.0	14.0	2.0	1.0	23.9	11.3	19.8	27.6	2.7	14.3	9.9	8.9	15.4	
介護者の年齢	~20歳代	11	2	0	0	2	4	2	0	3	3	1	3	
		100.0	18.2	0.0	0.0	0.0	18.2	36.4	18.2	0.0	27.3	27.3	9.1	27.3
	30歳代	42	2	2	0	2	15	7	14	0	12	9	6	3
		100.0	4.8	4.8	0.0	4.8	35.7	16.7	33.3	0.0	28.6	21.4	14.3	7.1
	40歳代	73	12	0	0	9	12	14	22	2	10	7	3	14
		100.0	16.4	0.0	0.0	12.3	16.4	19.2	30.1	2.7	13.7	9.6	4.1	19.2
	50歳代	70	14	2	0	34	0	19	24	4	11	6	8	4
		100.0	20.0	2.9	0.0	48.6	0.0	27.1	34.3	5.7	15.7	8.6	11.4	5.7
	60歳代	38	5	1	1	13	2	7	11	1	3	2	4	4
		100.0	13.2	2.6	2.6	34.2	5.3	18.4	28.9	2.6	7.9	5.3	10.5	10.5
70歳以上	25	4	0	1	4	1	3	4	1	2	1	3	7	
	100.0	16.0	0.0	4.0	16.0	4.0	12.0	16.0	4.0	8.0	4.0	12.0	28.0	
無回答	34	2	1	1	8	1	4	4	0	1	1	1	10	
	100.0	5.9	2.9	2.9	23.5	2.9	11.8	11.8	0.0	2.9	2.9	2.9	29.4	
看護期間	1年未満	7	3	0	0	1	0	2	3	0	1	2	0	1
		100.0	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	42.9	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3
	2年未満	6	1	2	0	1	1	1	1	0	4	2	0	0
		100.0	16.7	33.3	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	3年未満	12	2	2	0	3	2	2	3	1	4	1	1	1
		100.0	16.7	16.7	0.0	25.0	16.7	16.7	25.0	8.3	33.3	8.3	8.3	8.3
	4年未満	3	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	1	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
	5年未満	15	1	0	0	0	4	3	0	0	5	2	3	2
		100.0	6.7	0.0	0.0	0.0	26.7	20.0	0.0	0.0	33.3	13.3	20.0	13.3
5年以上	232	33	2	3	64	23	47	71	7	28	21	21	34	
	100.0	14.2	0.9	1.3	27.6	9.9	20.3	30.6	3.0	12.1	9.1	9.1	14.7	
無回答	18	1	0	0	1	1	3	2	0	0	0	0	7	
	100.0	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	16.7	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	38.9	

利用日数の平均値をみると、「生活介護」の15.7日が最も多く、これに「重度訪問介護」(13.0日、該当者5人)、「移動支援」(13.0日、該当者7人)、「居宅介護」(12.6日)、「児童発達支援」(11.6日)が続く。

年齢区分別にみると、18歳未満の障がい児は「日中一時支援」や「児童発達支援」の利用が多く、18歳以上の障がい者は「生活介護」や「短期入所」の利用が多くなっている。

医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層は「訪問看護」、「日中一時支援」、「生活介護」の利用が多く、医療的なケアが不要な層は「日中一時支援」や「生活介護」の利用が多くなっている。

介護者の年齢別にみると、「30歳代」以下の介護者は「児童発達支援」、「日中一時支援」、「訪問看護」、「訪問リハビリ」をより利用していることがうかがえる。

		6月の障害福祉サービス等の利用日数												
		居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	日中一時支援	移動支援	訪問看護	訪問リハビリ	その他		
全体	人数	38	5	1	62	30	54	74	7	41	29	25		
	平均値	12.58	13.00	6.00	15.67	11.63	5.41	9.24	13.00	9.80	3.59	9.60		
	最大値	30	25	6	30	30	16	30	25	25	8	26		
	最頻値	12	6	6	20	8	4	2	20	12	4	4		
障がい児／者	障がい児	人数	13	1	0	3	26	20	41	1	23	21	13	
		平均値	11.54	6.00	—	10.67	10.35	5.85	9.16	13.00	10.57	3.81	10.23	
		最大値	30	6	—	20	30	12	25	13	25	8	22	
	障がい者	人数	25	4	1	59	4	34	33	6	18	8	12	
		平均値	13.12	14.75	6.00	15.92	20.00	5.15	9.33	13.00	8.83	3.00	8.92	
		最大値	30	25	6	30	30	16	30	25	22	6	26	
医療的ケアの有無	医療的ケアあり	人数	24	4	0	30	18	29	32	5	38	22	11	
		平均値	13.79	14.25	—	14.73	12.33	5.79	9.12	12.60	9.89	3.64	6.82	
		最大値	30	25	—	22	30	14	26	25	25	8	20	
	医療的ケアなし	人数	14	1	1	30	11	25	41	2	2	5	13	
		平均値	10.50	8.00	6.00	16.42	8.82	4.96	9.51	14.00	3.00	3.00	11.54	
		最大値	30	8	6	25	23	16	30	20	4	5	26	
	介護者の年代	～20歳代	人数	1	0	0	0	2	4	2	0	3	3	1
			平均値	4.00	—	—	—	20.00	5.25	4.00	—	12.00	4.33	2.00
			最大値	4	—	—	—	30	12	4	—	21	8	2
		30歳代	人数	1	1	0	2	14	6	14	0	11	9	6
			平均値	1.00	6.00	—	6.00	9.21	5.67	6.75	—	10.64	3.89	11.67
			最大値	1	6	—	8	23	10	21	—	25	8	22
40歳代		人数	12	0	0	9	11	12	19	2	10	7	3	
		平均値	12.42	—	—	15.89	9.27	6.33	8.26	22.50	10.20	3.14	9.33	
		最大値	30	—	—	22	22	10	23	25	22	4	17	
50歳代		人数	14	2	0	29	0	18	21	4	11	6	8	
		平均値	13.43	13.00	—	17.00	—	5.06	8.33	10.75	10.00	3.50	8.00	
		最大値	30	14	—	22	—	14	26	20	22	8	17	
60歳代		人数	5	1	1	12	2	7	10	1	3	2	4	
		平均値	16.20	25.00	6.00	13.75	24.00	3.43	11.20	3.00	10.33	1.50	13.50	
		最大値	30	25	6	20	30	5	30	3	20	2	26	
70歳以上		人数	3	0	0	3	0	3	4	0	2	1	3	
		平均値	7.67	—	—	12.00	—	6.00	20.00	—	2.50	4.00	7.33	
		最大値	13	—	—	15	—	16	20	—	4	4	14	
			最頻値	2	—	—	7	—	1	20	—	1	4	

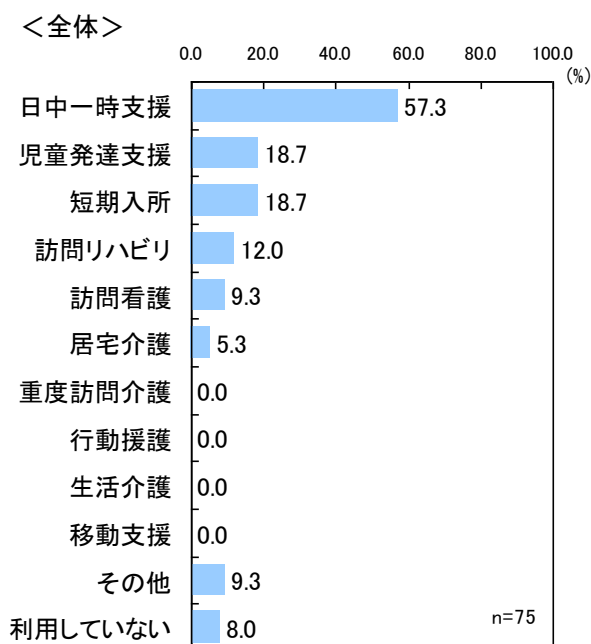
※最大値…データを昇順に並べたときの最大の値

※最頻値…最も頻繁に出現した値(最も多かった値)

(17) 学齢児で学校の夏休み等の長期休業期間中の障害福祉サービス等の利用状況

※6歳以上15歳以下で集計

「日中一時支援」の43人(57.3%)が最も多い。以下、多い方から「児童発達支援(医療型児童発達支援を含む)」と「短期入所」の14人(18.7%)の順となっている。



この結果を6月時点の利用状況と比べると、「日中支援事業」が17.5ポイント高くなっている(長期休暇中68.4%→6月時点50.9%)。一方、「利用していない」が26.3%から15.8ポイント低くなっている。

	6月の障害福祉サービスの利用状況 n=57		長期休業期間中に 利用した障害福祉 サービス n=57		(b)-(a)
	人数	% (a)	人数	% (b)	
居宅介護	4	7.0	4	7.0	0.0
重度訪問介護	0	0.0	0	0.0	0.0
行動援護	0	0.0	0	0.0	0.0
生活介護	0	0.0	0	0.0	0.0
児童発達支援(医療型児童発達支援を含む)	14	24.6	14	24.6	0.0
短期入所	10	17.5	12	21.1	3.6
日中一時支援	29	50.9	39	68.4	17.5
移動支援	0	0.0	0	0.0	0.0
訪問看護	6	10.5	6	10.5	0.0
訪問リハビリ	8	14.0	8	14.0	0.0
その他	6	10.5	5	8.8	-1.7
利用していない	15	26.3	6	10.5	-15.8

※年齢6歳以上15歳以下で、「6月の障害福祉サービスの利用状況」及び「夏休み等の長期休業期間中で状況が変わる場合」のいずれにも回答があった58件で集計

利用日数の平均値をみると、「児童発達支援」の14.0日が最も多く、これに「日中一時支援」(13.0日)、「居宅介護」(11.7日)が続く。

医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアありは「居宅介護」、「児童発達支援」、「訪問看護」の利用が多くなっている。

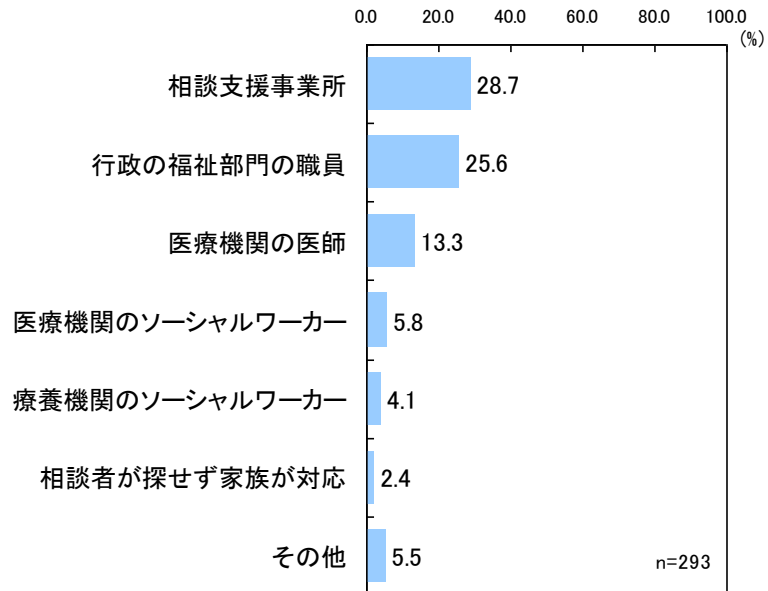
		学齢児の学校夏休み等の長期休業期間中の障害福祉サービス等の利用日数											
		居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	日中一時支援	移動支援	訪問看護	訪問リハビリ	その他	
全体	人数	3	0	0	0	14	13	40	0	7	8	6	
	平均値	11.67	.	.	.	14.00	9.00	13.00	.	9.00	4.00	9.00	
	最大値	18	.	.	.	24	30	30	.	14	10	15	
	最頻値	5	.	.	.	20	1	3	.	12	4	5	
障がい児／者	人数	3	0	0	0	14	13	40	0	7	8	6	
	平均値	11.67	.	.	.	14.00	9.00	13.00	.	9.00	4.00	9.00	
	最大値	18	.	.	.	24	30	30	.	14	10	15	
	最頻値	5	.	.	.	20	1	3	.	12	4	5	
医療的ケアの有無	医療的ケアあり	人数	1	0	0	0	6	6	11	0	6	4	1
		平均値	18.00	.	.	.	16.00	8.00	11.00	.	10.00	3.00	5.00
		最大値	18	.	.	.	24	20	30	.	14	4	5
		最頻値	18	.	.	.	8	1	8	.	12	4	5
	医療的ケアなし	人数	2	0	0	0	7	7	27	0	1	4	4
		平均値	8.50	.	.	.	11.00	10.00	14.00	.	4.00	6.00	8.00
		最大値	12	.	.	.	20	30	30	.	4	10	13
		最頻値	5	.	.	.	20	1	3	.	4	2	2
介護者の年代	～20歳代	人数	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0
		平均値	20.00	14.00	24.00
		最大値	20	20	30
		最頻値	20	8	18
	30歳代	人数	0	0	0	0	7	3	9	0	3	3	2
		平均値	12.00	5.00	11.00	.	11.00	4.00	14.00
		最大値	20	10	31	.	12	4	15
		最頻値	8	2	5	.	12	4	12
	40歳代	人数	2	0	0	0	5	7	20	0	4	5	4
		平均値	8.50	.	.	.	13.00	11.00	11.00	.	8.00	5.00	6.00
		最大値	12	.	.	.	20	30	30	.	14	10	13
		最頻値	5	.	.	.	2	1	3	.	1	1	5
	50歳代	人数	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
		平均値	1.00	12.00
		最大値	1	28
		最頻値	1	1
	60歳代	人数	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
		平均値	18.00	.	.	.	24.00	.	11.00
		最大値	18	.	.	.	24	.	12
		最頻値	18	.	.	.	24	.	10
	70歳以上	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		平均値
		最大値
		最頻値

※最大値…データを昇順に並べたときの最大の値
 ※最頻値…最も頻繁に出現した値(最も多かった値)

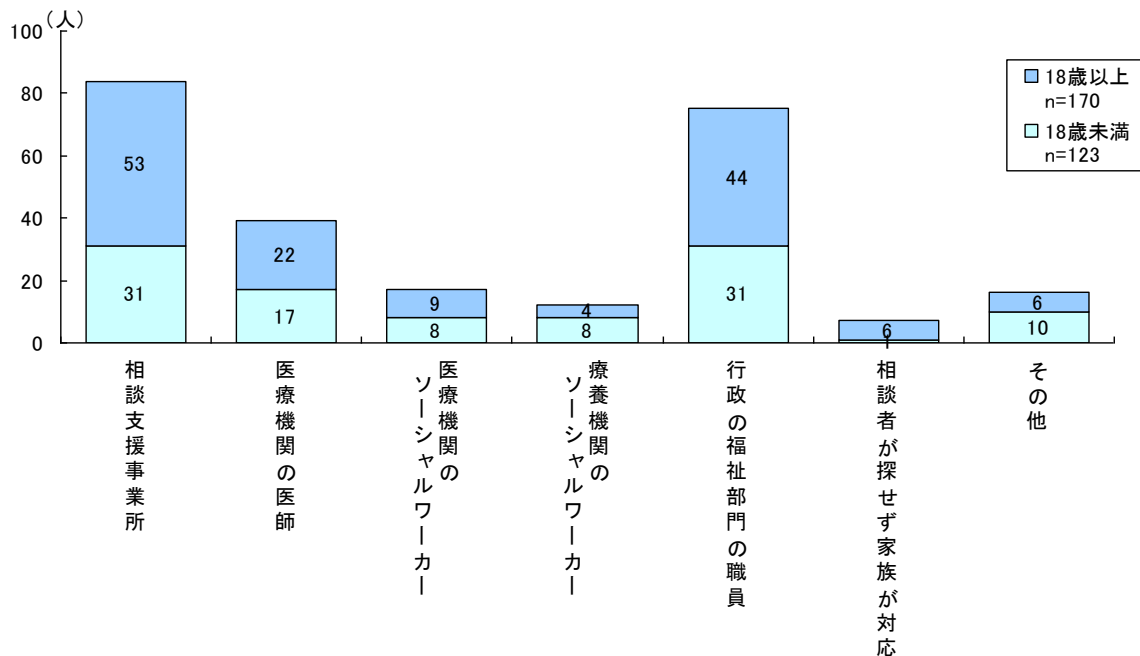
(18)障害福祉サービス等の利用にあたっての相談先

「相談支援事業所」の84人(28.7%)が最も多く、これに「行政の福祉部門の職員」の75人(25.6%)が続く。障がい児者別にみても相談先に大きな差は認められない。

<全体>



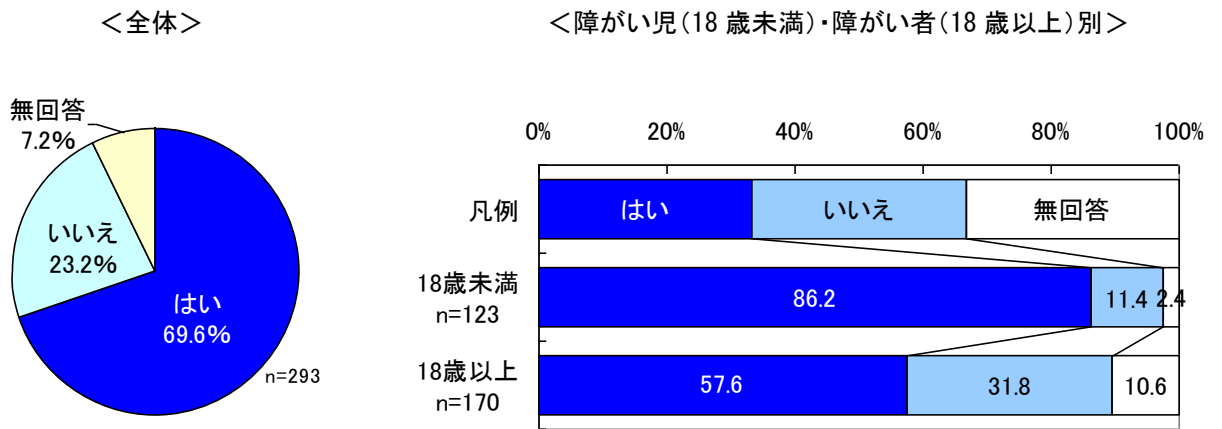
<障がい児(18歳未満)・障がい者(18歳以上)別>



(19) 日常生活用具や補装具の支給

「はい」が204人(69.6%)で、「いいえ」が68人(23.2%)となっている。

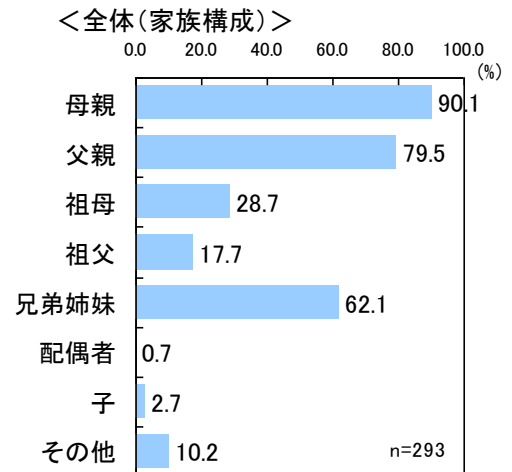
障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「はい」の割合が18歳以上の障がい者と比べ高くなっている。



2. ご家族・介護者の状況等

(1) 家族構成

「母親」の264人(90.1%)が最も多い。以下、回答割合の高い方から、「父親」233人(79.5%)、「兄弟姉妹」182人(62.1%)、「祖母」84人(28.7%)、「祖父」52人(17.7%)の順となっている。

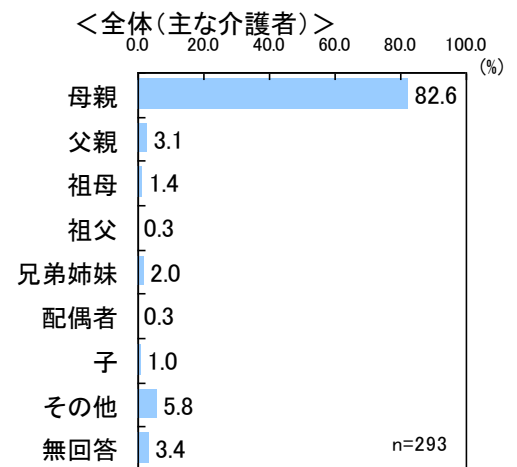


(2) 主として介護・看護を行う方

「母親」の242人(82.6%)が最も多い。

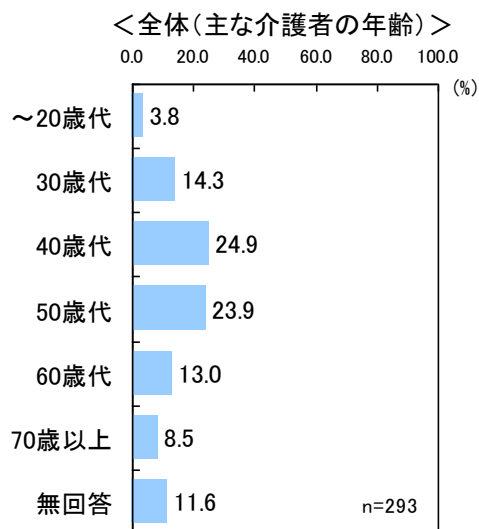
障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「母親」の割合が18歳以上の障がい者と比べ18.8ポイント高くなっている。

障害程度区分別にみると、「区分1」の「母親」の割合は「区分6」と比べ10.3ポイント低くなっている。



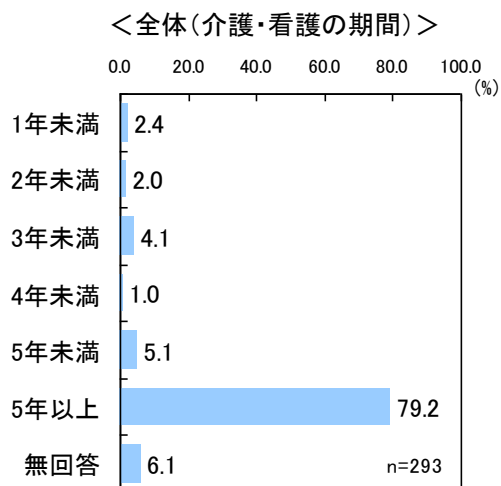
	合計	主な介護者								
		母親	父親	祖母	祖父	兄弟姉妹	配偶者	子	その他	無回答
全体	293	242	9	4	1	6	1	3	17	10
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
児 者	18歳未満	123	115	0	2	1	0	0	3	2
		100.0	93.5	0.0	1.6	0.8	0.0	0.0	2.4	1.6
18歳以上	170	127	9	2	0	6	1	3	14	8
		100.0	74.7	5.3	1.2	0.0	3.5	0.6	1.8	8.2
障 害 程 度 区 分	1	43	30	5	2	1	2	0	2	1
		14.7	12.4	55.6	50.0	100.0	33.3	0.0	0.0	11.8
	2	5	3	0	0	0	0	0	0	2
		1.7	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8
	3	12	12	0	0	0	0	0	0	0
		4.1	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	7	5	1	0	0	0	1	0	0
		2.4	2.1	11.1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	5	16	13	0	1	0	0	0	0	1
		5.5	5.4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
	6	64	55	3	0	0	1	0	2	2
		21.8	22.7	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	11.8
	非該当	3	3	0	0	0	0	0	0	0
	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
未実施	13	9	0	0	0	1	0	0	2	
	4.4	3.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	11.8	
不明	51	48	0	0	0	0	0	0	3	
	17.4	19.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	
無回答	79	64	0	1	0	2	0	1	5	
	27.0	26.4	0.0	25.0	0.0	33.3	0.0	33.3	29.4	

主な介護・看護者の年齢をみると、「40歳代」の73人(24.9%)が最も多く、これに「50歳代」の70人(23.9%)が続く。



(3) 主たる介護・看護者の介護・看護の期間

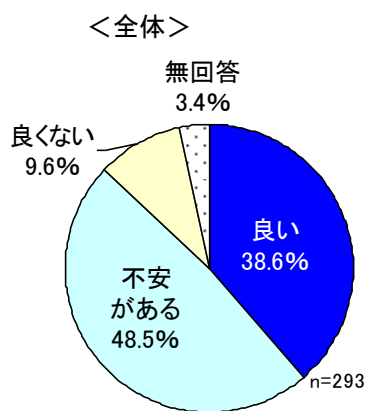
「5年以上」の232人が最も多く79.2%を占める。



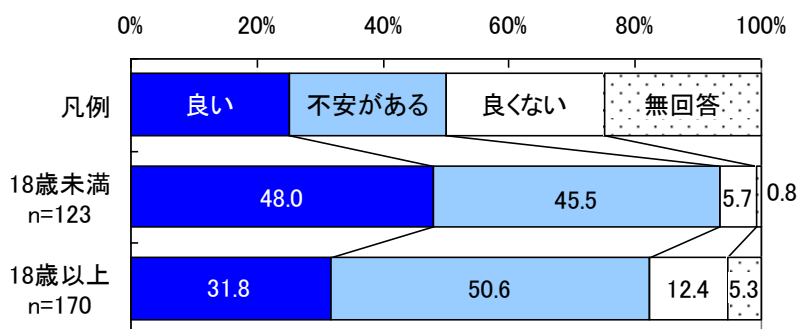
(4) 主たる介護・看護者の健康状態

「不安がある」の142人(48.5%)が最も多く、これに「良い」の113人(38.6%)が続く。

障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「良い」の割合が18歳以上の障がい者と比べ高くなっている。



<障がい児(18歳未満)・障がい者(18歳以上)別>



医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層では「良い」の割合が医療的ケアが不要な層と比べ11.6ポイント低くなっている。

障害程度区別にみると、「区分1」と「区分6」では「不安がある」の割合が最も高くなっている。

	合計	健康状態				
		良い	不安がある	良くない	無回答	
全体	293	113	142	28	10	
	100.0	38.6	48.5	9.6	3.4	
医療的ケア	医療的ケアが必要	127	41	66	16	4
		100.0	32.3	52.0	12.6	3.1
	医療的ケアは不要	157	69	73	11	4
		100.0	43.9	46.5	7.0	2.5
	無回答	9	3	3	1	2
	100.0	33.3	33.3	11.1	22.2	
障害程度区分	1	43	14	20	8	1
		100.0	32.6	46.5	18.6	2.3
	2	5	0	5	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	3	12	6	3	3	0
		100.0	50.0	25.0	25.0	0.0
	4	7	2	4	1	0
		100.0	28.6	57.1	14.3	0.0
	5	16	4	11	0	1
		100.0	25.0	68.8	0.0	6.2
	6	64	21	35	7	1
		100.0	32.8	54.7	10.9	1.6
	非該当	3	0	3	0	0
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
未実施	13	5	6	1	1	
	100.0	38.5	46.2	7.7	7.7	
不明	51	25	23	3	0	
	100.0	49.0	45.1	5.9	0.0	
無回答	79	36	32	5	6	
	100.0	45.6	40.5	6.3	7.6	

(5) 主たる介護・看護者の睡眠時間

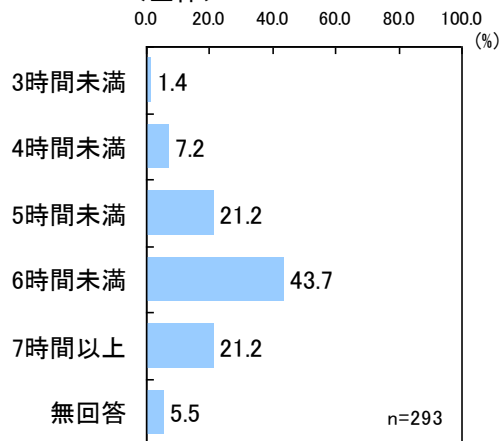
「6時間未満」の128人(43.7%)が最も多く、これに「5時間未満」と「7時間以上」の62人(21.2%)が続く。

障がい児者別での差はほとんど認められない。

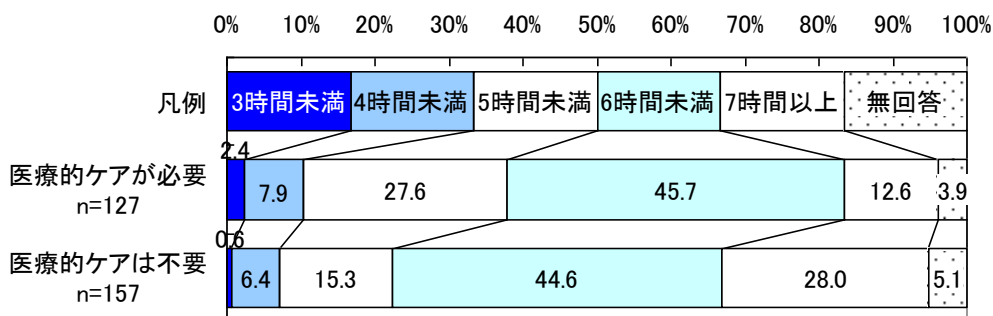
医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層では「5時間未満」の割合が医療的ケアが不要な層と比べ12.3ポイント高くなっている。

障害程度区分別と生活の場別での差はほとんど認められない。

<全体>



<医療的ケアの有無別>



(6) 睡眠の状態

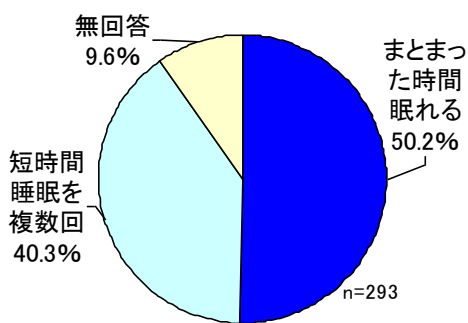
「まとまった時間眠れる」が147人(50.2%)、「短時間睡眠を複数回」が118人(40.3%)となっている。

障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「短時間睡眠を複数回」の割合が18歳以上の障がい者と比べ高くなっている。

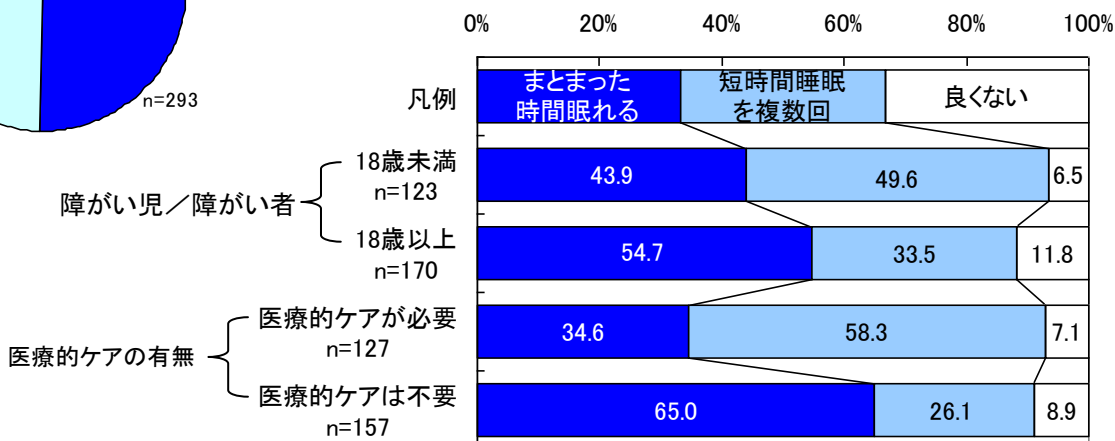
医療的ケアの有無別にみると、医療的ケアが必要な層では「短時間睡眠を複数回」の割合が、医療的ケアが不要な層と比べ32.2ポイント高くなっている。

障害程度区分別にみると、「区分1」では「まとまった時間眠れる」の割合が極めて低くなっている。

<全体>



<回答者の特性格>

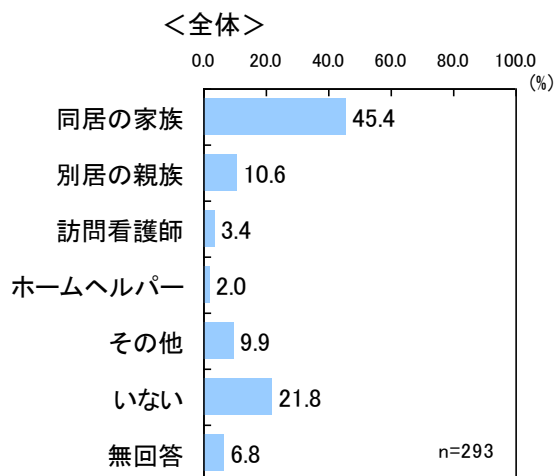


<障害程度区分別>

	合計	睡眠の質			
		時まと眠れなかった	を短複数回睡眠	無回答	
全体	293 100.0	147 50.2	118 40.3	28 9.6	
障害程度区分	1	43 100.0	16 37.2	21 48.8	6 14.0
	2	5 100.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0
	3	12 100.0	5 41.7	5 41.7	2 16.7
	4	7 100.0	5 71.4	2 28.6	0 0.0
	5	16 100.0	8 50.0	7 43.8	1 6.2
	6	64 100.0	38 59.4	24 37.5	2 3.1
	非該当	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0
	未実施	13 100.0	7 53.8	5 38.5	1 7.7
	不明	51 100.0	25 49.0	25 49.0	1 2.0
	無回答	79 100.0	40 50.6	25 31.6	14 17.7

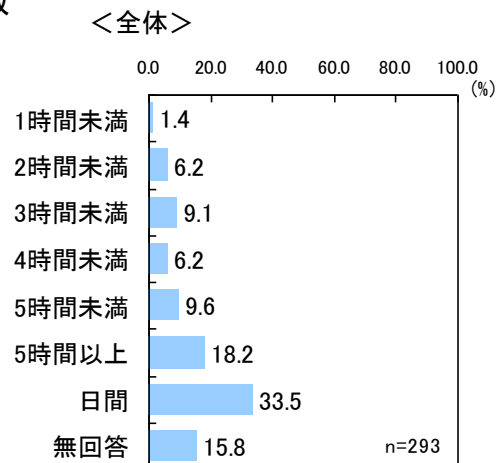
(7) 主たる介護・看護者が介護・看護できない場合、
お願いできる方

「同居の家族」の 133 人(45.4%)が最も多く、これに「いない」の 64 人(21.8%)、「別居の親族」の 31 人(10.6%)が続く。



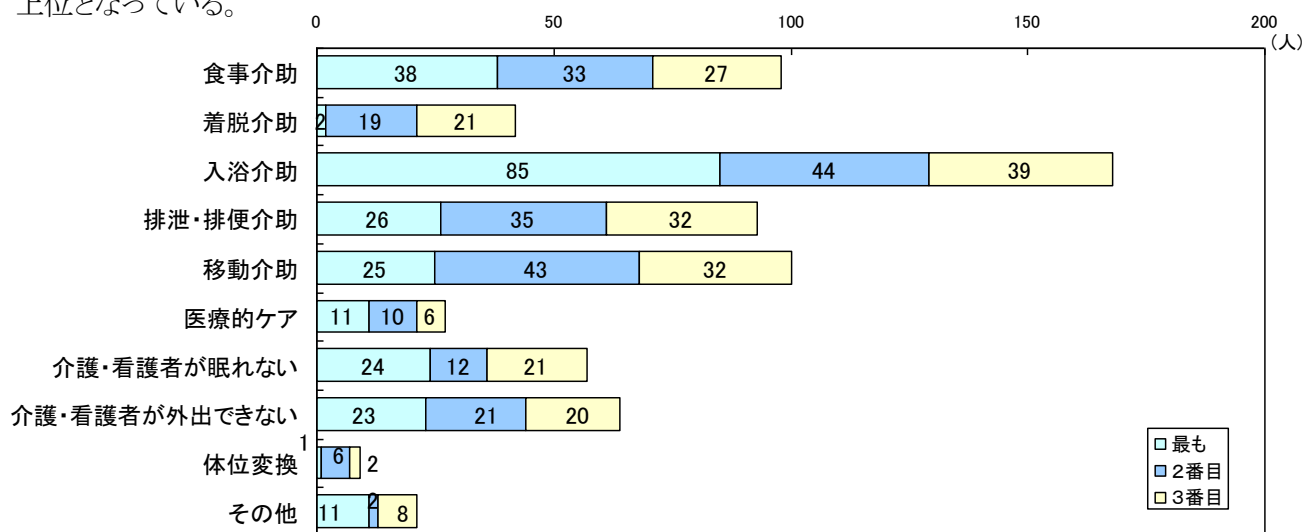
(8) 介護・看護をお願いする場合の 1ヶ月平均時間及び日数

「日間(日単位)」でお願い可能と回答した 70 人(33.5%)が最も多く、これに「5 時間以上」の 38 人(18.2%)、「5 時間未満」の 20 人(9.6%)が続く。

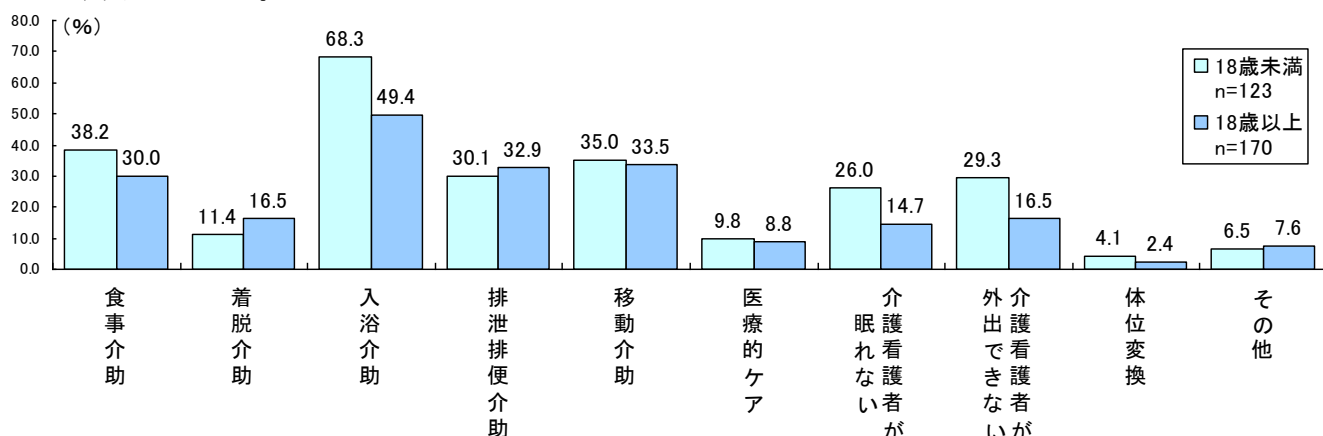


(9) 主たる介護・看護者が介護をするうえで最も負担だと感じていること

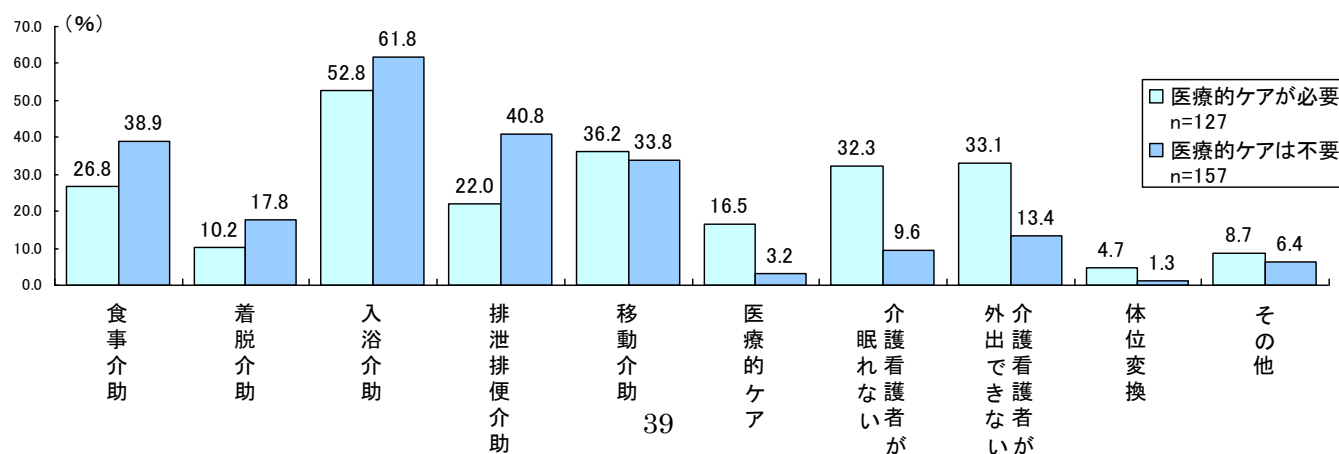
最も負担に感じることとしては、「入浴介助」の85人(29.0%)が最も多く、これに「食事介助」の38人(13.0%)、「排泄・排便介助」の26人(8.9%)、「移動介助」の25人(8.5%)が続く。2番目に負担に感じること、3番目に負担に感じることについても、「入浴介助」、「食事介助」、「排泄・排便介助」、「移動介助」が上位となっている。



障がい児者別に負担に感じること(最も+2番目+3番目)をみると、18歳未満の障がい児では「入浴介助」、「介護看護者が眠れない」、「介護看護者が外出できない」の割合が18歳以上の障がい者と比べ極めて高くなっている。



医療的ケアの有無別に負担に感じること(最も+2番目+3番目)をみると、医療的ケアが必要な層では「医療的ケア」、「介護看護者が眠れない」、「介護看護者が外出できない」の割合が、医療的ケアが不要な層と比べ極めて高くなっている。



障がい児者の障害程度区別にみた負担に感じていること(最も+2番目+3番目)は以下の通り。

	合計	障がい児										
		介護をするうえでの負担										
		食事介助	着脱介助	入浴介助	排泄排便介助	移動介助	医療的ケア	眠れない介護看護者が	外出できない介護看護者が	体位変換	その他	
全体	123 100.0	47 38.2	14 11.4	84 68.3	37 30.1	43 35.0	12 9.8	32 26.0	36 29.3	5 4.1	8 6.5	
障害程度区分	1	19 100.0	7 36.8	2 10.5	11 57.9	8 42.1	5 26.3	1 5.3	5 26.3	4 21.1	2 10.5	1 5.3
	2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	3	6 100.0	4 66.7	1 16.7	5 83.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	3 50.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0
	4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	非該当	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	2 66.7	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	未実施	7 100.0	4 57.1	1 14.3	4 57.1	3 42.9	2 28.6	2 28.6	2 28.6	3 42.9	0 0.0	0 0.0
	不明	43 100.0	18 41.9	6 14.0	34 79.1	10 23.3	15 34.9	5 11.6	10 23.3	11 25.6	0 0.0	4 9.3
	無回答	45 100.0	12 26.7	3 6.7	29 64.4	13 28.9	18 40.0	3 6.7	11 24.4	16 35.6	3 6.7	3 6.7

	合計	障がい者										
		介護をするうえでの負担										
		食事介助	着脱介助	入浴介助	排泄排便介助	移動介助	医療的ケア	眠れない介護看護者が	外出できない介護看護者が	体位変換	その他	
全体	170 100.0	51 30.0	28 16.5	84 49.4	56 32.9	57 33.5	15 8.8	25 14.7	28 16.5	4 2.4	13 7.6	
障害程度区分	1	24 100.0	7 29.2	6 25.0	9 37.5	5 20.8	3 12.5	3 12.5	0 0.0	6 25.0	0 0.0	3 12.5
	2	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
	3	6 100.0	3 50.0	0 0.0	3 50.0	4 66.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0
	4	7 100.0	2 28.6	0 0.0	3 42.9	3 42.9	2 28.6	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	5	16 100.0	5 31.2	2 12.5	11 68.8	5 31.2	5 31.2	0 0.0	0 0.0	2 12.5	0 0.0	2 12.5
	6	64 100.0	24 37.5	10 15.6	41 64.1	25 39.1	33 51.6	5 7.8	14 21.9	13 20.3	2 3.1	2 3.1
	非該当	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	未実施	6 100.0	2 33.3	0 0.0	3 50.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	0 0.0	1 16.7	1 16.7
	不明	8 100.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0	3 37.5	0 0.0	1 12.5
	無回答	34 100.0	6 17.6	8 23.5	12 35.3	11 32.4	9 26.5	2 5.9	4 11.8	2 5.9	1 2.9	4 11.8

「普段、介護をするうえでの負担」と「夏休み等の長期休業期間中の介護をするうえでの負担」を比較すると、「普段」の割合が極めて高いのは「入浴介助」、「移動介助」、「介護看護者が眠れない」の3項目。「夏休み等の長期休業期間中」の割合が高いのは、「介護看護者が外出できない」、「その他」となっている。

	普段、介護をする うえでの負担 n=46		夏休み等の長期休 業期間中の介護を するうえでの負担 n=46		(b)-(a)
	人数	% (a)	人数	% (b)	
食事介助	19	41.3	22	47.8	6.5
着脱介助	7	15.2	6	13.0	-2.2
入浴介助	42	91.3	33	71.7	-19.6
排泄排便介助	18	39.1	17	37.0	-2.1
移動介助	16	34.8	13	28.3	-6.5
医療的ケア	2	4.3	5	10.9	6.6
介護看護者が眠れない	12	26.1	8	17.4	-8.7
介護看護者が外出できない	12	26.1	15	32.6	6.5
体位変換	2	4.3	3	6.5	2.2
その他	3	6.5	7	15.2	8.7

※年齢6歳以上15歳以下で、「普段、介護をするうえでの負担」及び「夏休み等の長期休業期間中の介護をするうえでの負担」のいずれにも回答があった47件で集計

負担に感じることの具体的な記述の主な内容は以下の通り。

■食事介助

	主な記述内容	件数
食事に時間がかかるという意見	「胃ろうからの注入と味覚で経口摂取をしていて1時間ほどの食事の時間がかかる」「飲み込み、咀嚼等が悪いので口からこぼれる、時間がかかる」「食事に1時間ほどかかる」など	21件
調理の手間に関する事	「毎日、特別に食事を作ること」「全てペーストにしなくてはならない」「きざみ食を全て準備している」「ほとんど歯がないので本人の前で刻んでやっている」など	18件
食事中の介助に関する事	「全面的な介護が必要」「自宅では母親からの介助でないと食べられない」「全介助なので一人はついて食べさせている」など	15件
上手に食べられないなど	「うまく食べられない」「時々、むせるようになった」「誤嚥が心配、時々つまらせる事がある」「噛むこと、飲み込みが難しいので空気と一緒に飲み込み苦しそう」など	12件
食べようとしないう意見	「緊張が強くて意志も強いので、食べようとしないう」「食が細くなかなか食べない」「気分が食べたり食べなかったり」「すぐ食べてくれる時はいいが食べない時」など	8件
介護者の体への負担に関する事	「どんな時でも(疲れていても多少体調が悪くても)しなければならない。それまで寝れない」「抱っこで行うので腰が痛む」「重くなって親が腰痛でおんぶが困難」など	5件
介護者の食事ができないこと	「食事の量が少なく、長時間食事の介助にかかるので、自分の食事の時間がなかなかとれない」「時間がかかり調理の手間、自分の食事時間がとれない」など	3件
その他	「仕事が忙しい時は少し負担」「私の具合が悪い時、私以外の家族ができない」「胃ろうからの栄養注入のため時間おきに注入しないといけないので、時間に追われる」など	4件

■着脱介助

	主な記述内容	件数
体の緊張に関すること	「手足の緊張によりやりにくい。特に長袖」「身体が固くなり緊張する」「緊張が強く、着脱に時間がかかる」など	9 件
抱えるのが大変という意見	「腰に負担がかかる」「本人の体がどんどん大きくなっていくが、介護する主は母で体力的に難しくなる」「ベッド上では特に体が大きく重いので負担を感じる」など	6 件
ひとりで着脱できないこと	「最後まで一人でできない」「右側麻痺で自分一人でできない」「自分でできない」など	3 件
排便後の着脱に関すること	「脱がせて便を処理、着せるのが少し大変」「排便の時終わってからの始末が大変」	2 件
その他	「本人の気分が乗らなければ裸のまましようとする。着せようとするとかんしゃくを起こす」「筋ジスのため力がないので脱臼しないように気をつける」「全面的に介助が必要だが、負担に感じたことは一度もない」など	5 件

■排泄・排便介助

	主な記述内容	件数
介護者の体への負担に関すること	「体重が重くなって抱っこ補助便座に座らせて支える体勢がきつい」「年々、身体が大きくなってきて難しい。現在妊娠中でもあり心身の負担は大きい」「重くて腰が痛い」「排便時は二人必要」など	30 件
排便後の処理に関すること	「紙おむつなので毎回の処理」「排便が規則正しく出ずに失敗する」「大便の処理」「おしっこは一人でどうにかできるが、排便は一人では難しく、お尻を拭けない」など	11 件
意思表示がない	「自ら尿意を伝えられず気をかける必要がある」「まだ時々便を挟んでいたり尿で漏れても教えない」「排便、黙ってするので必ず介助」「排泄排便のサインがないことがある」など	8 件
トイレに間に合わないなど	「ちょっと油断すると排尿排便を漏らすので大変」「失尿便が多く、ストレスを感じることもある」「間に合わなかったり便器の外に漏らす」など	6 件
摘便に関すること	「自力便ができないので摘便し1時間近くかかる」「摘便と洗浄」「自力排泄が困難なため導尿と摘便を行っている」	3 件
生理に関すること	「女子なので生理用品の後始末の時が大変」「体が大きく生理時、特に発作がおきる」「排便、生理の時」	3 件
時間がかかるという意見	「スムーズに出ない時も多く、時間がかかる。大きいのでおむつ替えも大変」「尿が出なくても20分立ってることが多い」	2 件
浣腸に関すること	「体重増加のため交換に力が必要、毎日浣腸」「排便は特に浣腸をしてからしか出ない」	2 件
その他	「人口肛門辺りをよくいじるのでよく剥がれる(ストーマ)」「便を触ったり汚れる意味が分かっていない」「常に気を配って監視する必要がある」「出かけている時おむつ替えのベッドが小さい、狭い」「排便後の処理など他人に頼めない」など	8 件

■入浴介助

	主な記述内容	件数
介護者の体への負担に関する事	「抱っこも重たくなってきた」「成長するとともに体重も増え、入浴させるのが腰に負担がかかる」「浴室までの移動、浴室での身体洗い」「二人で介助しないとイケない」など	99 件
浴室設備に関する事	「お風呂が手狭になってきた」「浴槽のへりが高い」「浴室が狭く腰に負担」「体が大きくて発作が起きやすく、それなりの設備がない」など	12 件
浴室内での危険に関する事	「気切部の心配と体重増加のため、入浴に二人以上要する」「水のこだわりが強く、はしゃいでとても危ない」「反り返りがあり、シャワーチェアから落ちそうになることがある」など	12 件
身体洗浄に関する事	「一人で体を洗えず、お風呂内も介助」「麻痺のため全身を洗わなければならない」「洗髪の手伝いが必要」など	7 件
委託サービスに関する事	「週2回ヘルパーを利用、それ以外は自分で入れるため」「週3回訪問看護の方に来て入れてもらってる」「ヘルパー人を週2回お願いしているので今のところ、ときどき入れるくらいでどうにか助かっている」など	4 件
見守りに関する事	「お風呂が好きで長いので、見ている間何もできない」「一人で入浴はできるが見守りが必要」	2 件
その他	「一緒に入浴するので私のことをする間待たせてしまう」「入ったり出たりの同意が必要」「同姓でないので困るときがある」「入浴は何日もできない」など	10 件

■移乗介助

	主な記述内容	件数
介護者の体への負担に関する事	「手つなぎはできるが、抱っこをせがむ時があり、大きくなってきたので抱っこが大変」「体重増加で負担が大きい」「一人でどうにか歩けるが、移動するのに必ず誰かの介助が必要で疲れる」など	46 件
車いすの利用に関する事	「車椅子の介助(乗降)。現在は背負っている」「体が大きくなり車椅子に乗せるのが大変」「車椅子への乗せ降ろし、病院受診など一人では大変」など	15 件
自動車の利用に関する事	「車への乗せ降ろし」「歩けないので家から車に乗せる時大変」「車に乗降させることが負担に感じる」「体重が重く自宅から車までの移動」など	13 件
階段、バリアフリーに関する事	「二階に住んでいるため、子どもを抱えて階段を上り下りしないとイケない」「住まいが一階アパートで外階段が二段ある。簡易スロープを購入したいがスロープも重く、雨の日はスロープ・車いすを用意したりするのが時間がかかりいろいろ大変」など	7 件
委託サービスに関する事	「普段は別居の家族に付き添いを頼む。移動支援の事業所に気切の吸引ができる人がほぼいない」「兄弟の行動や用事がある時に、学校や支援事業所が休みの場合とても大変」「通所施設への送迎が途中までである」など	4 件
通院に関する事	「急に具合が悪くなった時、病院に行くのに困る。頼める所がない」「遠出の通院」	2 件
症状に関する事	「発作が多く不安定で付き添いがいる」「発作が起きやすく、ちょっとした段差も困難」	2 件
その他	「呼吸器等、医療設備機器多い」「登校時間に他の用事を入れられない」「本人の同意がなければ難しい」「歩行が長時間できないため連れて行くのが大変」「移動に不安がある」	5 件

■ 医療的ケア

	主な記述内容	件数
痰吸引に関すること	「吸引できる家族がいない」「頻繁にたんの吸引が必要なので離れられない」「昼間のたんの吸引は大丈夫だが、夜中の吸引が負担(毎日眠くてたまらない)」「吸引をひっきりなしにしないといけない」など	7 件
医療行為に関すること	「経管栄養のチューブを抜いた時、入れるのが大変」「誰もができるという訳ではないから」「スムーズに医療行為ができない時」「胃ろう、導尿ができない。主人が2つ仕事をしているため」など	5 件
服薬に関すること	「確実に飲んでもらわないと発作が起こる可能性あり。粉薬で数も多いので飲みづらい」「毎日の薬を飲む時、指先で固いパックの薬を出せない」	2 件
体調に関すること	「在宅中に急変してもなかなか受け入れてもらえない。吸引器を付けているので希望は大きな病院(大学病院など)」「体調管理に常に神経を使っている」	2 件
その他	「胃ろうや人工肛門は触ると嫌がる。トラブルも度々」「毎日の医療的ケアはだいたい落ち着いて行うことができるが、内面的に不安がある」「補助や病院支給の物品など足りず、手出しが結構ある」「自分の具合が悪いとすぐに子どもに対応できない」「病院までの移動が大変」など	5 件

■ 介護・看護者が眠れない

	主な記述内容	件数
本人が眠らない、起こされるなど	「本人の眠りが浅い」「まとめて眠れないらしく、2、3時間おきに目覚めて泣く→自傷→朝は4時～5時起床」「薬を使用しないと夜寝ないので飲ませているが、効き目にむらがありあまり効かない日は夜、大声を出したりするので、眠らずにそばについている」「週1、2回ぐらい夜中に起きて、何度も起こされる」など	19 件
夜間の痰吸引に関すること	「夜間もたんの吸引に追われ眠れないことがある」「昼間のたんの吸引は大丈夫だが、夜中の吸引が負担(毎日眠くてたまらない)」「風邪を引いたとき、肺炎などになりやすいため、吸入吸引をしてなかなか眠れない」など	9 件
睡眠時間が少ないという意見	「平均睡眠時間が4時間以下しかとれない」「頭痛や頭がぼーっとしていることが多い。通院は遠方の時(片道約50km)もあり、居眠り運転などの不安もある」「本人が眠れないので介護人も眠れない」「ゆっくりぐっすり眠れることがなくて頭痛がしたり、体が重たかったりと体調がすぐれない」など	6 件
気が抜けないという意見	「常時心拍・SPO2のモニタリングが必要で、SPO2も変動しやすいので夜中も気が抜けない」「就寝中によく痙攣発作が起きるため熟睡できない」「寝ている時ひきつけていないか。布団はかかっているか、気にかかる。絶えず親の存在を確かめてくるのでその都度目がさめる。介護者が添い寝」など	5 件
体位変換に関すること	「夜遅くまでの経管栄養、導尿もあるし数時間おきの体位変換等でまとまって眠れない」「体位変換のために起きる」「娘が起きている間は眠れない。眠ったら眠ったで1時間に1回以上の体位変換がある」など	5 件
体調に関すること	「体調を崩した時は眠れない」「調子が悪い時は横になる暇もない」「本人が体調を崩した時は夜通し介護が必要で睡眠がとれない」	3 件
介護者の仕事に関すること	「フルタイムで仕事しながらのこまぎれな睡眠なので辛い時がある」「仕事の前日は眠れないとストレスになる」	2 件
医療機器に関すること	「夜間の回路内、結露破棄、ウォータートラップの水破棄のため、2時間ごとに起きるので寝不足」「人口呼吸器のアラームが鳴り続けると眠れない」	2 件
その他	「一緒に出かけなければならないのに本人が眠っている時」「別室でゆっくり眠りたい」「銀行に行けない等」	3 件

■介護・看護者が外出できない

	主な記述内容	件数
介護者が必要という意見	「外食したり、どこかお出かけしたいときがあっても、誰か家にいないといけない。みんなで出かけたくても無理」「どうしても用事があっても他にみる者がいないので、予定が立てづらく少し苦しい」「預ける人がいない」「長時間外出時は家族に仕事を休んでもらう」など	13 件
時間が足りないという意見	「買い物・用事等1時間以内で行われなければいけない」「ちょっとした用事がなかなか済ませられない」「1時間半では思うように買い物ができない。病院などに行けない」「常に見守りが必要なため外出時間が限られる」など	8 件
医療行為に関する事	「不在時の医療ケアができる人がいない」「たんの吸引があるため、声が出ないからわからない」「インスリン注射があるため、時間を気にしないといけない」「ヘルパーさんでは医療的な面ができないので、願っている時間が制限される」など	6 件
施設サービスに関する事	「通所の定員がいっぱいである本人にストレスがたまる」「学校がある日はいいが、その間にすべて終わらせるしかないので、ショートなど利用して用事など済ませている」「訪問介護の利用(土日祝)ができない。まず、土日祝にやっているところが少なすぎる」など	6 件
行事参加などに関する事	「きょうだい児の学校行事、買い物、感染のおそれや医療機器の関係で子どもを連れては出られず、時間制限もありほとんど外出できない」「兄弟の学校行事など連れていくことができない時がある」「兄弟児の行事に参加できない。気分転換もままならない」など	5 件
気がかり、心配という意見	「気になりながらの外出」「一人にして、もしものことがあったらと思うと外出できない」「自分が出かけてしまうと一人にしてしまうので、気になり思った時に外出ができない」	3 件
移動に関する事	「移動の大変さを考えると外出を控えてしまう」「利用施設への送迎を考えると外出が苦になる」	2 件
介護者の体調に関する事	「介護している私が体調が悪くてもすぐには病院に行けない」「介護している私が体調不良のとき、すぐに病院などに行けず、困ったことがある」	2 件
介護者の休憩時間に関する事	「必要最低限の外出しかできず、レスパイト的な時間や外出がしたい」「子どもが学校に行っている間は仕事なので自分の時間がない」	2 件
その他	「風邪予防のため人混みをさけるため、外出なかなか難しい」「店で叫ぶので外には買い物にも行けない」「排泄排便の介助が必要で出かけるのが難しい」「病院へ受診したいがなかなかできない」など	5 件

■体位変換

	主な記述内容	件数
時間、回数に関する事	「30分～1時間ごとに体位変換」「夜間、5～12回の体位変換は眠たく、腰にも負担がかかる」など	3 件
介護者の体への負担に関する事	「身体が重たい」「体重が重い」など	3 件
その他	「股関節の脱臼で難しい」「毎日の朝起きが大変」	2 件

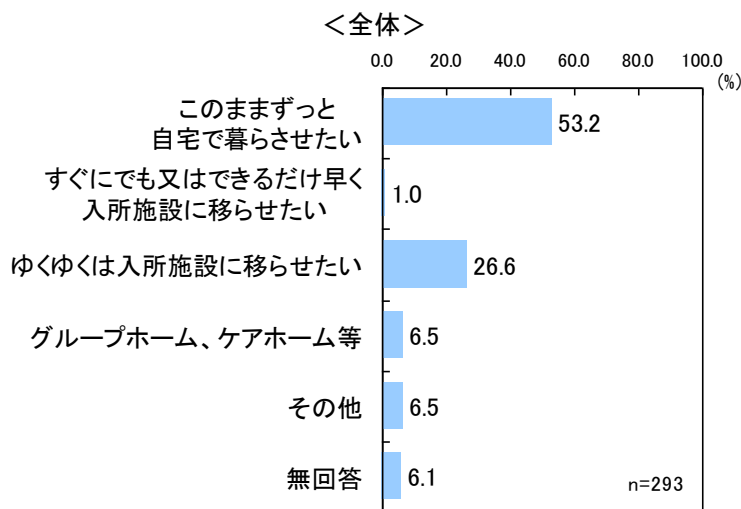
■その他

	主な記述内容	件数
目が離せないという意見	「多動があるので全く目が離せない」「姿が見えないところに行ってしまうためゆっくり見れない」「とにかく目を話すと家の中の物を倒したり落したりと散らすことが多い。食事の用意等、家事をしている間はいろんないたずらをするので、仕事も進まず片付けに追われ、叱ることばかり」など	4 件
今後に関すること	「今後のことがとても気がかり」「家庭内では別れない。年齢的にこれから負担に感じると思う」	2 件
看介護に関すること	「介護と家事、育児の両立や働きたくても安心して預けられるところがなく家計も大変」「兄弟は高齢、母と同様施設入所(県外)中で介護看護を依頼できる親族がいない」	2 件
その他	「子どもがまた小さいため、負担は特にない」「機嫌が悪いとき、理由がわからない」「いつもは負担ではないが、私が具合が悪い時」「できるだけ負担と思わないように心がける。娘に申し訳ない」「車の運転中、たんの吸引が必要でもできない時がとても困る」など	8 件

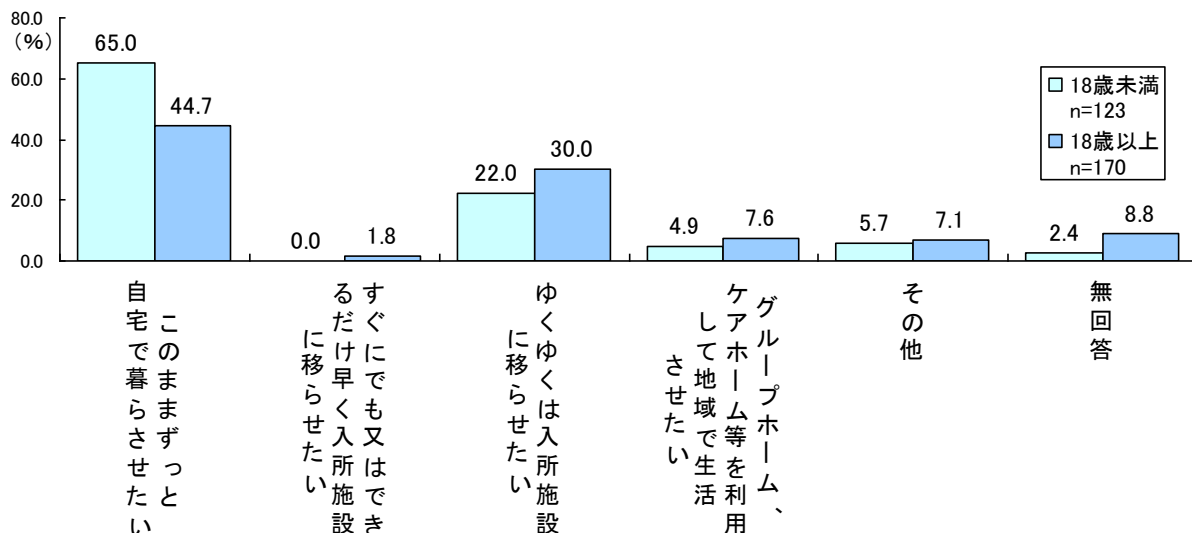
(10)今後の本人の生活に関する意向

「このままずっと自宅で暮らさせたい」の156人(53.2%)が最も多く、これに「ゆくゆくは入所施設に移らさせたい」の78人(26.6%)が続く。

「すぐにでも又はできるだけ早く入所施設に移らさせたい」と回答した3人のすべてが入所施設の申し込みをしており、入所待ちの期間は「5年」と「1年」が1人ずつとなっている。

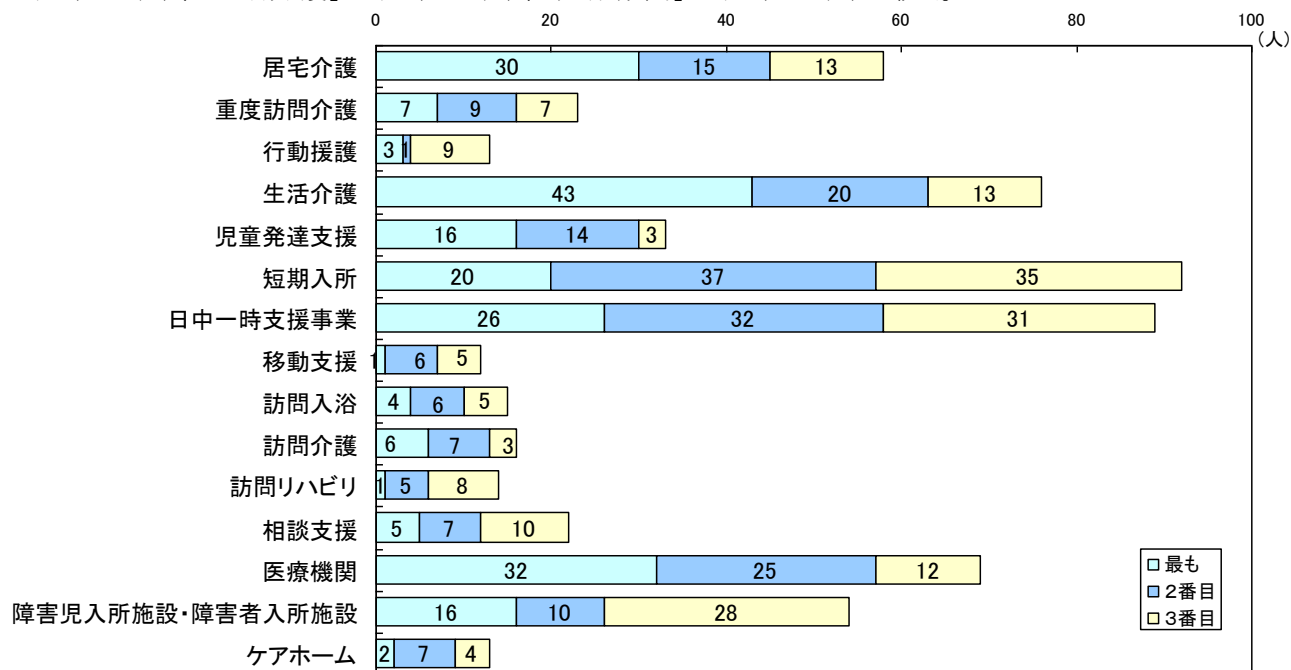


障がい児者別にみると、18歳未満の障がい児では「このままずっと自宅で暮らさせたい」の割合が高く、18歳以上の障がい者では「ゆくゆくは入所施設に移らさせたい」の割合が比較的高くなっている。



(11) 自宅生活を送る上で必要とされるサービスの種類

選択率の高いサービスとしては、「短期入所」の92人(31.4%)が最も多く、これに「日中一時支援事業」89人(30.4%)、「生活介護」76人(25.9%)、「医療機関」69人(23.5%)が続く。



介護者の年齢、看護期間別にみた必要な障害福祉サービス等(最も+2番目+3番目)は以下の表の通り。

	合計	必要な障害福祉サービス															
		居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	日中一時支援事業	移動支援	訪問入浴	訪問看護	訪問リハビリ	相談支援	医療機関	障害児入所施設	ケアホーム	
全体	293	58	23	13	76	33	92	89	12	15	16	14	22	69	54	13	
	100.0	19.8	7.8	4.4	25.9	11.3	31.4	30.4	4.1	5.1	5.5	4.8	7.5	23.5	18.4	4.4	
介護者の年齢	~20歳代	11	2	0	1	1	6	4	5	0	1	1	3	5	3	0	
		100.0	18.2	0.0	9.1	9.1	54.5	36.4	45.5	0.0	9.1	9.1	9.1	27.3	45.5	27.3	0.0
	30歳代	42	5	4	2	4	15	10	19	4	0	5	1	6	14	7	
		100.0	11.9	9.5	4.8	9.5	35.7	23.8	45.2	9.5	0.0	11.9	2.4	14.3	33.3	16.7	0.0
	40歳代	73	22	5	2	23	9	33	28	4	7	3	8	4	19	17	
		100.0	30.1	6.8	2.7	31.5	12.3	45.2	38.4	5.5	9.6	4.1	11.0	5.5	26.0	23.3	2.7
	50歳代	70	16	8	4	25	1	31	21	1	4	5	1	3	16	13	
		100.0	22.9	11.4	5.7	35.7	1.4	44.3	30.0	1.4	5.7	7.1	1.4	4.3	22.9	18.6	10.0
	60歳代	38	5	3	2	13	1	7	9	0	1	2	2	4	9	5	
	100.0	13.2	7.9	5.3	34.2	2.6	18.4	23.7	0.0	2.6	5.3	5.3	10.5	23.7	13.2	7.9	
70歳以上	25	6	1	1	5	0	2	2	2	2	0	0	1	4	3		
	100.0	24.0	4.0	4.0	20.0	0.0	8.0	8.0	8.0	8.0	0.0	0.0	4.0	16.0	12.0	0.0	
無回答	34	2	2	1	5	1	5	5	1	0	0	1	1	2	6		
	100.0	5.9	5.9	2.9	14.7	2.9	14.7	14.7	2.9	0.0	0.0	2.9	2.9	5.9	17.6	2.9	
介護・看護期間	1年未満	7	1	1	0	1	1	2	1	0	1	0	2	1	2	0	
		100.0	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	28.6	0.0	
	2年未満	6	1	0	0	0	3	2	2	0	0	1	1	2	4	0	
		100.0	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	66.7	0.0	
	3年未満	12	1	1	1	0	4	2	3	1	0	2	0	0	4	1	
		100.0	8.3	8.3	8.3	0.0	33.3	16.7	25.0	8.3	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	8.3	
	4年未満	3	2	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	1	0	
		100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	
	5年未満	15	3	1	1	1	4	3	3	0	0	3	2	2	4	2	
		100.0	20.0	6.7	6.7	6.7	26.7	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	13.3	13.3	26.7	13.3	
5年以上	232	50	19	9	72	18	81	73	10	14	9	9	16	53	47		
	100.0	21.6	8.2	3.9	31.0	7.8	34.9	31.5	4.3	6.0	3.9	3.9	6.9	22.8	20.3		
無回答	18	0	0	2	2	2	2	5	1	0	0	0	1	1	1		
	100.0	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	27.8	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	5.6		

日常的な介護別にみた必要な障害福祉サービス等(最も+2番目+3番目)は以下の表の通り。

	合計	必要な障害福祉サービス															
		居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	日中一時支援事業	移動支援	訪問入浴	訪問看護	訪問リハビリ	相談支援	医療機関	障害児入所施設	ケアホーム	
合計	293	58	23	13	76	33	92	89	12	15	16	14	22	69	54	13	
	100.0	19.8	7.8	4.4	25.9	11.3	31.4	30.4	4.1	5.1	5.5	4.8	7.5	23.5	18.4	4.4	
食事 介護	経管栄養	61	5	7	4	9	11	22	24	2	4	14	5	5	26	9	2
		100.0	8.2	11.5	6.6	14.8	18.0	36.1	39.3	3.3	6.6	23.0	8.2	8.2	42.6	14.8	3.3
	全面介護が必要	122	34	9	4	37	10	48	35	7	7	2	4	7	26	25	5
		100.0	27.9	7.4	3.3	30.3	8.2	39.3	28.7	5.7	5.7	1.6	3.3	5.7	21.3	20.5	4.1
	一部介護が必要	72	14	6	1	23	9	19	18	2	2	0	3	8	13	18	4
		100.0	19.4	8.3	1.4	31.9	12.5	26.4	25.0	2.8	2.8	0.0	4.2	11.1	18.1	25.0	5.6
	介護なしでできる	27	3	0	3	6	1	2	7	0	1	0	0	2	4	2	2
	100.0	11.1	0.0	11.1	22.2	3.7	7.4	25.9	0.0	3.7	0.0	0.0	7.4	14.8	7.4	7.4	
その他	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無回答	10	2	1	1	0	2	0	4	1	1	0	2	0	0	0	0	
	100.0	20.0	10.0	10.0	0.0	20.0	0.0	40.0	10.0	10.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
着脱 介護	全面介護が必要	221	44	22	10	58	27	82	73	10	14	16	11	15	55	40	8
		100.0	19.9	10.0	4.5	26.2	12.2	37.1	33.0	4.5	6.3	7.2	5.0	6.8	24.9	18.1	3.6
	一部介護が必要	55	11	1	1	15	6	10	13	2	1	0	1	5	12	13	4
		100.0	20.0	1.8	1.8	27.3	10.9	18.2	23.6	3.6	1.8	0.0	1.8	9.1	21.8	23.6	7.3
	介護なしでできる	12	1	0	2	3	0	0	2	0	0	0	0	2	2	1	1
		100.0	8.3	0.0	16.7	25.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	8.3	8.3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無回答	5	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	
	100.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
入浴 介護	全面介護が必要	248	52	22	10	68	30	87	79	11	14	15	11	18	64	47	10
		100.0	21.0	8.9	4.0	27.4	12.1	35.1	31.9	4.4	5.6	6.0	4.4	7.3	25.8	19.0	4.0
	一部介護が必要	31	2	0	2	6	3	5	8	1	0	0	1	3	3	6	3
		100.0	6.5	0.0	6.5	19.4	9.7	16.1	25.8	3.2	0.0	0.0	3.2	9.7	9.7	19.4	9.7
	介護なしでできる	7	2	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1	0
		100.0	28.6	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3	0.0
その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
無回答	6	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	
	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
排泄・ 排便 介護	全面介護が必要	221	47	20	9	60	27	85	72	11	12	15	12	14	57	42	9
		100.0	21.3	9.0	4.1	27.1	12.2	38.5	32.6	5.0	5.4	6.8	5.4	6.3	25.8	19.0	4.1
	一部介護が必要	44	7	2	2	13	5	4	12	1	2	0	0	4	8	10	3
		100.0	15.9	4.5	4.5	29.5	11.4	9.1	27.3	2.3	4.5	0.0	0.0	9.1	18.2	22.7	6.8
	介護なしでできる	19	2	0	2	2	1	2	3	0	0	0	0	2	4	1	1
		100.0	10.5	0.0	10.5	10.5	5.3	10.5	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	21.1	5.3	5.3
その他	3	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	0	2	0	1	0	
	100.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	
無回答	6	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	
	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	

自宅生活を送る上で必要とされるサービス別にみた特に必要とされる項目は、以下の通り。

▼居宅介護

「休日・祝日も利用できる事業所の増」が多い。

▼重度訪問介護

「休日・祝日も利用できる事業所の増」、「医療的ケアが行えるヘルパーの増」が多い。

▼行動援護

「事業所の増加」がやや多い。

▼生活介護

「事業所の増加」、「医療的ケアに対応できる知識・技術の向上」、「利用回数の増加」、「送迎の充実」が多い。

▼児童発達支援(医療型児童発達支援を含む)

「実施箇所数の増」、「利用定員の増」、「利用回数の増」が多い。

▼短期入所

「事業所の増」が特に多く、「医療機関による短期入所の実施」も比較的多い。

▼日中一時支援

「医療的ケアに対応できる事業所の増」、「リハビリテーション機能の充実」、「医療機関による日中一時支援の実施」が多い。

▼移動支援

「ヘルパーの知識・技術の向上」、「医療的ケアが行えるヘルパーの増」、「その他」に分散している。

▼訪問入浴

「利用できる回数の増」が特に多く、「利用できる事業所の増」も比較的多い。

▼訪問看護

「1回あたりの時間数の増」、「利用できる回数の増」が比較的多い。

▼訪問リハビリ

「利用できる回数の増」が特に多く、「小児も利用できる事業所の増」も比較的多い。

▼相談支援

「重症心身障がいを理解し、相談に対応できる事業所の増」が特に多く、「障害福祉日中活動等サービス及び医療系サービス利用(訪問看護等)の調整を行う事業所の増」も比較的多い。

▼医療機関

「病態の急変時に、対応してもらえる医療機関の増」、「重症心身障がい児・者を診察する専門医の増」が多い。

▼障害児入所施設・障害者入所施設

「入所できる施設の増」が特に多く、「施設からの看護師やヘルパーの派遣」も比較的多い。

▼ケアホーム(共同生活介護)

「医療的ケアに対応できるケアホーム(共同生活介護)の創設」が特に多い。

<サービス別にみた特に必要とされる項目>

サービス名	人数	%
居宅介護	58	19.8
①ヘルパーの知識・技術の向上	9	15.5
②医療的ケアが行えるヘルパーの増	9	15.5
③早朝・夜間も利用できる事業所の増	8	13.8
④休日・祝日も利用できる事業所の増	17	29.3
⑤入浴介助が行える事業所の増	8	13.8
⑥その他	3	5.2
無回答	4	6.9
重度訪問介護	23	7.8
①ヘルパーの知識・技術の向上	2	8.7
②医療的ケアが行えるヘルパーの増	5	21.7
③早朝・夜間も利用できる事業所の増	1	4.3
④休日・祝日も利用できる事業所の増	9	39.1
⑤入浴介助が行える事業所の増	2	8.7
⑥その他	1	4.3
無回答	3	13.0
行動援護	13	4.4
①事業所の増加	2	15.4
②ヘルパーの知識・技術の向上	0	0.0
③医療的ケアが行えるヘルパーの増	0	0.0
④その他	0	0.0
無回答	11	84.6
生活介護	76	25.9
①事業所の増加	19	25.0
②医療的ケアに対応できる知識・技術の向上	10	13.2
③医療的ケアに対応できる設備の充実	6	7.9
④リハビリテーション機能の充実	7	9.2
⑤利用回数の増加	9	11.8
⑥送迎の充実	11	14.5
⑦その他	4	5.3
無回答	10	13.2
児童発達支援(医療型児童発達支援を含む)	33	11.3
①実施箇所数の増	9	27.3
②利用定員の増	4	12.1
③利用回数の増	9	27.3
④送迎の充実	3	9.1
⑤医療的ケアの充実	2	6.1
⑥リハビリテーション機能の充実	3	9.1
⑦その他	1	3.0
無回答	2	6.1
短期入所	92	31.4
①事業所の増	41	44.6
②医療的ケアに対応できる知識・技術の向上	8	8.7
③医療的ケアに対応できる設備の充実	9	9.8
④医療機関による短期入所の実施	18	19.6
⑤その他	4	4.3
無回答	12	13.0
日中一時支援事業	89	30.4
①医療的ケアに対応できる事業所の増	28	31.5
②医療的ケアに対応できる知識・技術の向上	6	6.7
③医療的ケアに対応できる設備の充実	4	4.5
④リハビリテーション機能の充実	18	20.2
⑤医療機関による日中一時支援の実施	11	12.4
⑥その他	8	9.0
無回答	14	15.7
移動支援	12	4.1
①ヘルパーの知識・技術の向上	3	25.0
②医療的ケアが行えるヘルパーの増	3	25.0
③その他	3	25.0
無回答	3	25.0
訪問入浴	15	5.1
①利用できる事業所の増	5	33.3
②利用できる回数の増	7	46.7
③その他	2	13.3
無回答	1	6.7

サービス名	人数	%
訪問看護	16	5.5
①利用料の軽減	1	6.2
②利用できる回数の増	4	25.0
③1回あたりの時間数の増	6	37.5
④小児も利用できる事業所の増	2	12.5
⑤早朝・夜間も利用できる事業所の増	2	12.5
⑥その他	1	6.2
無回答	0	0.0
訪問リハビリ	14	4.8
①利用料の軽減	2	14.3
②利用できる回数の増	6	42.9
③1回あたりの時間数の増	0	0.0
④小児も利用できる事業所の増	4	28.6
⑤早朝・夜間も利用できる事業所の増	0	0.0
⑥その他	1	7.1
無回答	1	7.1
相談支援	22	7.5
①重症心身障がいを理解し、相談に対応できる事業所の増	13	59.1
②障害福祉日中活動等サービス及び医療系サービス(訪問看護等)利用の調整を行う事業所の増	5	22.7
③その他	0	0.0
無回答	4	18.2
医療機関	69	23.5
①病態の急変時に、対応してもらえる医療機関の増	26	37.7
②訪問診療を行う医療機関の増	4	5.8
③気軽に利用できる診療所の増	3	4.3
④重症心身障がい児・者を診察する専門医の増	25	36.2
⑤医療機関でのレスパイト入院	7	10.1
⑥退院時支援の充実	0	0.0
⑦地域生活に必要な情報提供の充実	1	1.4
⑧その他	1	1.4
無回答	2	2.9
障害児入所施設・障害者入所施設	54	18.4
①入所できる施設の増	37	68.5
②生活施設としてのサービス内容の充実	4	7.4
③地域からの相談への対応	0	0.0
④施設からの看護師やヘルパーの派遣	1	1.9
⑤短期入所の充実	7	13.0
⑥その他	0	0.0
無回答	5	9.3
ケアホーム(共同生活介護)	13	4.4
①医療的ケアに対応できるケアホーム(共同生活介護)の創設	10	76.9
②利用料の軽減	1	7.7
③その他	0	0.0
無回答	2	15.4

6月に実際に利用した障害福祉サービス等と比べ今後利用したいの割合が高いサービスは、「短期入所」、「居宅介護」、「重度訪問介護」などとなっている。逆に、今後利用したいの割合が低いのは「訪問看護」、「訪問リハビリ」となっている。

<全体>

	6月利用のサービス n=293		今後利用したい サービス n=293		(b)-(a)
	人数	% (a)	人数	% (b)	
居宅介護	41	14.0	58	19.8	5.8
重度訪問介護	6	2.0	23	7.8	5.8
行動援護	3	1.0	13	4.4	3.4
生活介護	70	23.9	76	25.9	2.0
児童発達支援	33	11.3	33	11.3	0.0
短期入所	58	19.8	92	31.4	11.6
日中一時支援	81	27.6	89	30.4	2.8
移動支援	8	2.7	12	4.1	1.4
訪問看護	42	14.3	16	5.5	-8.8
訪問リハビリ	29	9.9	14	4.8	-5.1

(今後利用したいサービス)-(利用したサービス)

合計	障がい児									
	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	日中一時支援事業	移動支援	訪問看護	訪問リハビリ
全体	19	8	4	14	3	22	7	7	-13	-12
宇城圏域	3	1	0	1	1	2	2	0	-2	-1
有明圏域	2	0	0	3	1	4	0	1	-1	0
鹿本圏域	4	0	1	1	0	-2	-3	1	-1	-2
菊池圏域	7	2	1	0	1	9	4	3	-2	1
阿蘇圏域	1	0	0	0	0	-1	0	0	0	-1
上益城圏域	1	2	1	1	5	1	3	1	-1	-1
八代圏域	1	1	1	4	-2	4	0	1	-6	-7
芦北圏域	0	0	0	0	1	2	-1	0	0	0
球磨圏域	1	1	0	4	-3	3	2	0	0	0
天草圏域	-1	1	0	0	-1	0	0	0	0	-1

(今後利用したいサービス)-(利用したサービス)

合計	障がい者									
	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	日中一時支援事業	移動支援	訪問看護	訪問リハビリ
全体	-2	9	6	-8	-3	12	1	-3	-13	-3
宇城圏域	2	0	0	3	0	3	0	-3	-1	0
有明圏域	-1	1	1	-2	0	2	0	0	-1	1
鹿本圏域	0	2	0	0	0	1	-2	1	-1	0
菊池圏域	0	-2	3	-3	0	5	-2	1	0	-1
阿蘇圏域	1	0	2	-1	0	-2	0	0	0	0
上益城圏域	-2	0	0	2	0	2	0	-1	-3	-1
八代圏域	-1	1	-2	-4	-4	0	0	-1	-2	-1
芦北圏域	1	1	1	-2	0	2	2	0	0	0
球磨圏域	-3	4	1	1	0	1	3	1	-4	0
天草圏域	1	2	0	-2	1	-1	1	-1	-1	-1

3. 圏域別にみた特性

(1) 地域別の障がい児者数

県内を10圏域(政令市の熊本市を除く)に分類し、それぞれの圏域毎の年齢別の分布状況をみると、障がい児については「菊池圏域」が32人(26.0%)と最も多く、これに「有明圏域」の19人(15.4%)、「宇城圏域」の17人(13.8%)が続いている。

障がい者については、「八代圏域」の26人(15.3%)が最も多く、これに「菊池圏域」の24人(14.1%)、「有明圏域」の21人(12.4%)が続いている。

なお、年齢分布については、全圏域で「0歳」がなかった。

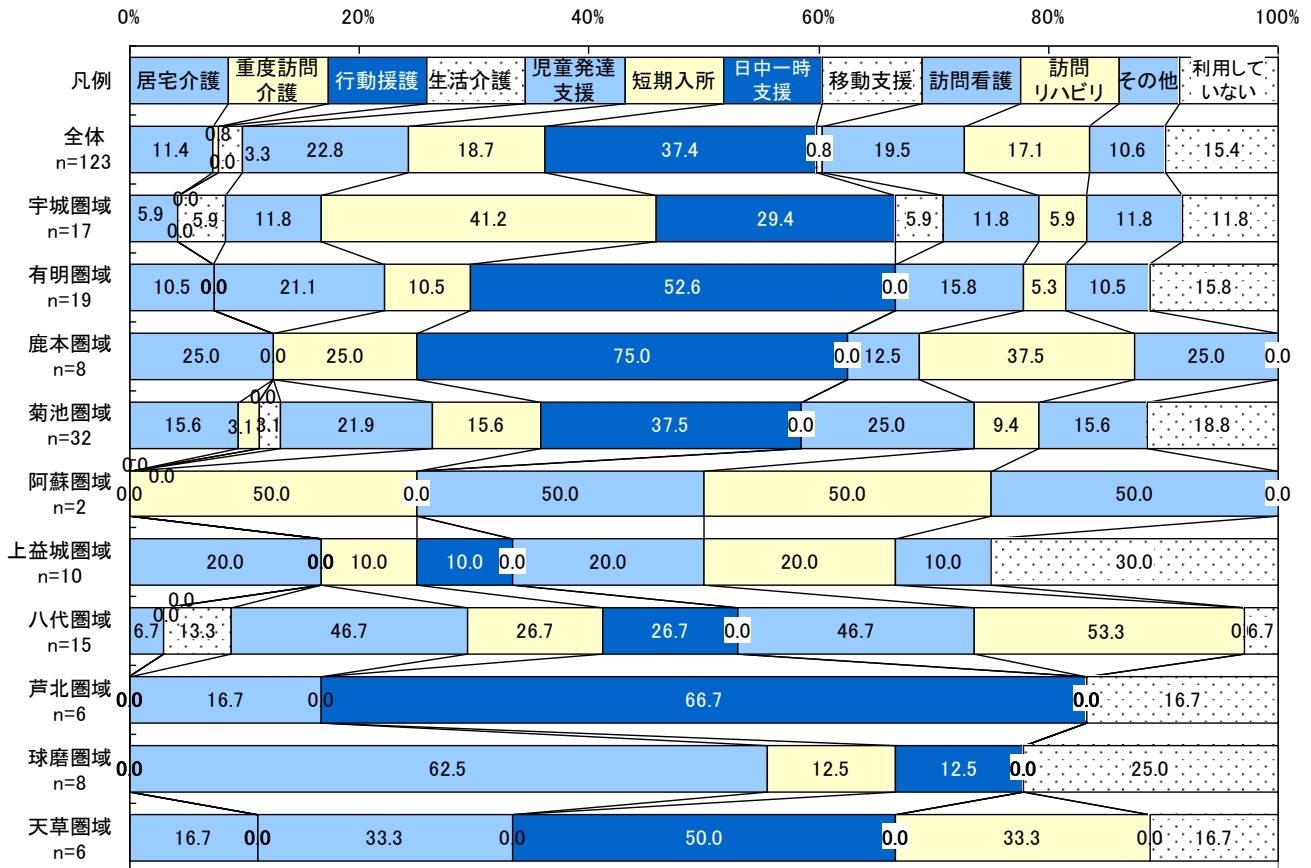
	障がい児者																			
	合計	障がい児(人)								障がい者(人)										
		%	小計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	無回答	%	小計	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳以上	無回答
宇城圏域	33	13.8	17	0	5	3	8	1	9.4	16	3	6	3	0	2	1	1	0		
有明圏域	40	15.4	19	0	4	9	6	0	12.4	21	4	2	4	1	3	4	3	0		
鹿本圏域	15	6.5	8	0	2	4	2	0	4.1	7	0	3	1	1	2	0	0	0		
菊池圏域	56	26.0	32	0	12	10	10	0	14.1	24	6	2	6	4	2	4	0	0		
阿蘇圏域	10	1.6	2	0	1	1	0	0	4.7	8	0	0	3	1	2	2	0	0		
上益城圏域	30	8.1	10	0	6	2	2	0	11.8	20	2	4	3	3	3	5	0	0		
八代圏域	41	12.2	15	0	3	4	8	0	15.3	26	3	5	3	4	3	7	1	0		
芦北圏域	18	4.9	6	0	2	1	3	0	7.1	12	2	3	2	0	2	3	0	0		
球磨圏域	23	6.5	8	0	2	2	4	0	8.8	15	0	5	3	1	2	4	0	0		
天草圏域	23	4.9	6	0	2	2	2	0	10.0	17	2	2	2	3	0	7	1	0		
無回答	4	0.0	0	0	0	0	0	0	2.4	4	0	0	0	0	0	2	0	2		
合計	293	100.0	123	0	39	38	45	1	100.0	170	22	32	30	18	21	39	6	2		

(2) サービスの利用状況

各圏域(利用者が15人以上)におけるサービスの利用状況をみると、障がい児については、菊池圏域と有明圏域では「日中一時支援」、宇城圏域では「短期入所」、八代圏域では「訪問リハビリ」がそれぞれ最も多くなっている。

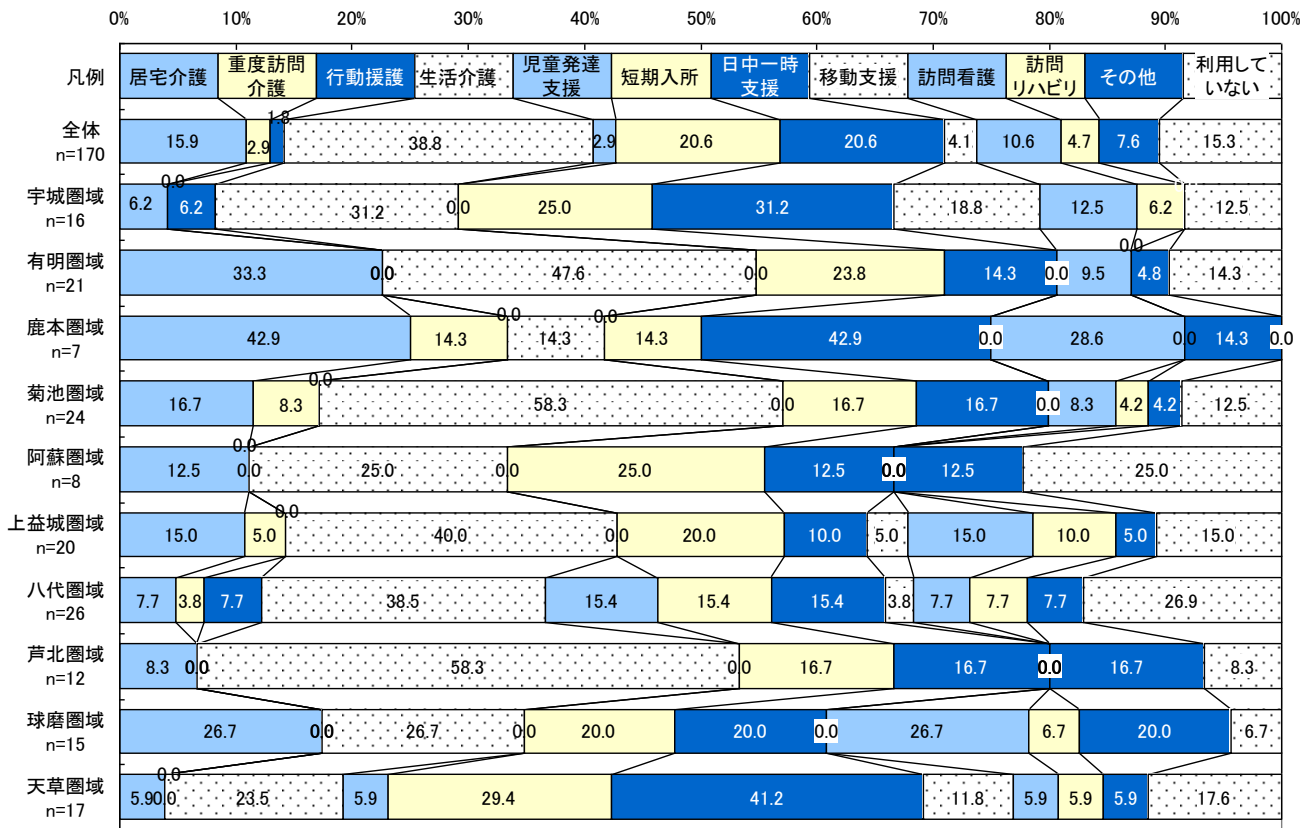
障がい者についてみると、天草圏域を除き「生活介護」が最も多くなっている。

<圏域別にみた障害福祉サービス等の利用状況【障がい児】>



	障がい児													
	合計	障害福祉サービスの利用状況												
		居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	日中一時支援	移動支援	訪問看護	訪問リハビリ	その他	利用していない	
全体	123	14	1	0	4	28	23	46	1	24	21	13	19	
	100.0	11.4	0.8	0.0	3.3	22.8	18.7	37.4	0.8	19.5	17.1	10.6	15.4	
宇城圏域	17	1	0	0	1	2	7	5	1	2	1	2	2	
	100.0	5.9	0.0	0.0	5.9	11.8	41.2	29.4	5.9	11.8	5.9	11.8	11.8	
有明圏域	19	2	0	0	0	4	2	10	0	3	1	2	3	
	100.0	10.5	0.0	0.0	0.0	21.1	10.5	52.6	0.0	15.8	5.3	10.5	15.8	
鹿本圏域	8	2	0	0	0	0	2	6	0	1	3	2	0	
	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	12.5	37.5	25.0	0.0	
菊池圏域	32	5	1	0	1	7	5	12	0	8	3	5	6	
	100.0	15.6	3.1	0.0	3.1	21.9	15.6	37.5	0.0	25.0	9.4	15.6	18.8	
阿蘇圏域	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	
上益城圏域	10	2	0	0	0	0	1	1	0	2	2	1	3	
	100.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	20.0	20.0	10.0	30.0	
八代圏域	15	1	0	0	2	7	4	4	0	7	8	0	1	
	100.0	6.7	0.0	0.0	13.3	46.7	26.7	26.7	0.0	46.7	53.3	0.0	6.7	
芦北圏域	6	0	0	0	0	1	0	4	0	0	0	0	1	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	
球磨圏域	8	0	0	0	0	5	1	1	0	0	0	0	2	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
天草圏域	6	1	0	0	0	2	0	3	0	0	2	0	1	
	100.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	50.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

<圏域別にみた障害福祉サービス等の利用状況【障がい者】>



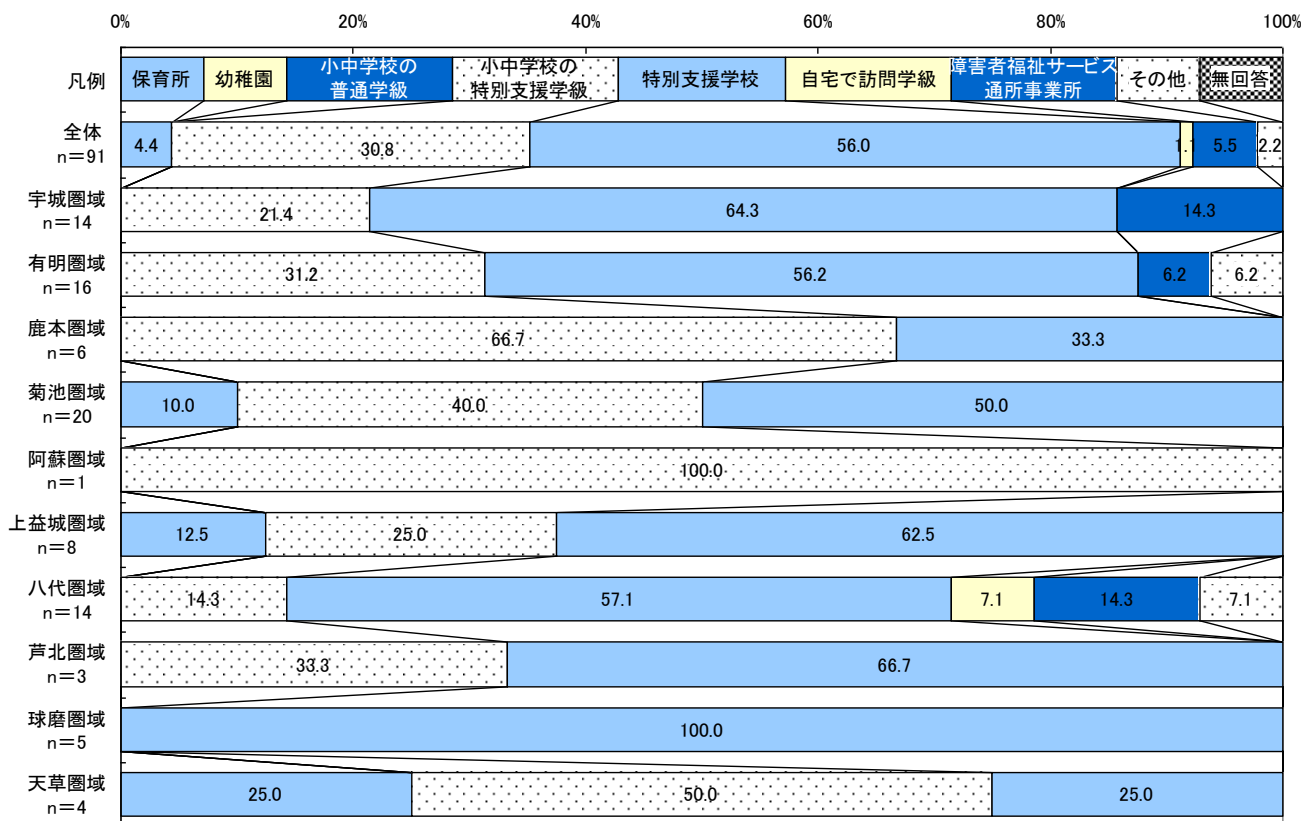
	障がい者												
	合計	障害福祉サービスの利用状況											利用していない
		居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	日中一時支援	移動支援	訪問看護	訪問リハビリ	その他	
全体	170	27	5	3	66	5	35	35	7	18	8	13	26
	100.0	15.9	2.9	1.8	38.8	2.9	20.6	20.6	4.1	10.6	4.7	7.6	15.3
宇城圏域	16	1	0	1	5	0	4	5	3	2	1	0	2
	100.0	6.2	0.0	6.2	31.2	0.0	25.0	31.2	18.8	12.5	6.2	0.0	12.5
有明圏域	21	7	0	0	10	0	5	3	0	2	0	1	3
	100.0	33.3	0.0	0.0	47.6	0.0	23.8	14.3	0.0	9.5	0.0	4.8	14.3
鹿本圏域	7	3	1	0	1	0	1	3	0	2	0	1	0
	100.0	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0
菊池圏域	24	4	2	0	14	0	4	4	0	2	1	1	3
	100.0	16.7	8.3	0.0	58.3	0.0	16.7	16.7	0.0	8.3	4.2	4.2	12.5
阿蘇圏域	8	1	0	0	2	0	2	1	0	0	0	1	2
	100.0	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0
上益城圏域	20	3	1	0	8	0	4	2	1	3	2	1	3
	100.0	15.0	5.0	0.0	40.0	0.0	20.0	10.0	5.0	15.0	10.0	5.0	15.0
八代圏域	26	2	1	2	10	4	4	4	1	2	2	2	7
	100.0	7.7	3.8	7.7	38.5	15.4	15.4	15.4	3.8	7.7	7.7	7.7	26.9
芦北圏域	12	1	0	0	7	0	2	2	0	0	0	2	1
	100.0	8.3	0.0	0.0	58.3	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	8.3
球磨圏域	15	4	0	0	4	0	3	3	0	4	1	3	1
	100.0	26.7	0.0	0.0	26.7	0.0	20.0	20.0	0.0	26.7	6.7	20.0	6.7
天草圏域	17	1	0	0	4	1	5	7	2	1	1	1	3
	100.0	5.9	0.0	0.0	23.5	5.9	29.4	41.2	11.8	5.9	5.9	5.9	17.6
無回答	4	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

(3) 圏域別の日中の居場所

障がい児については、鹿本、阿蘇、天草の各圏域を除く全圏域で「特別支援学校」が多い。鹿本、阿蘇、天草の各圏域では「小中学校の特別支援学級」が多くなっている。

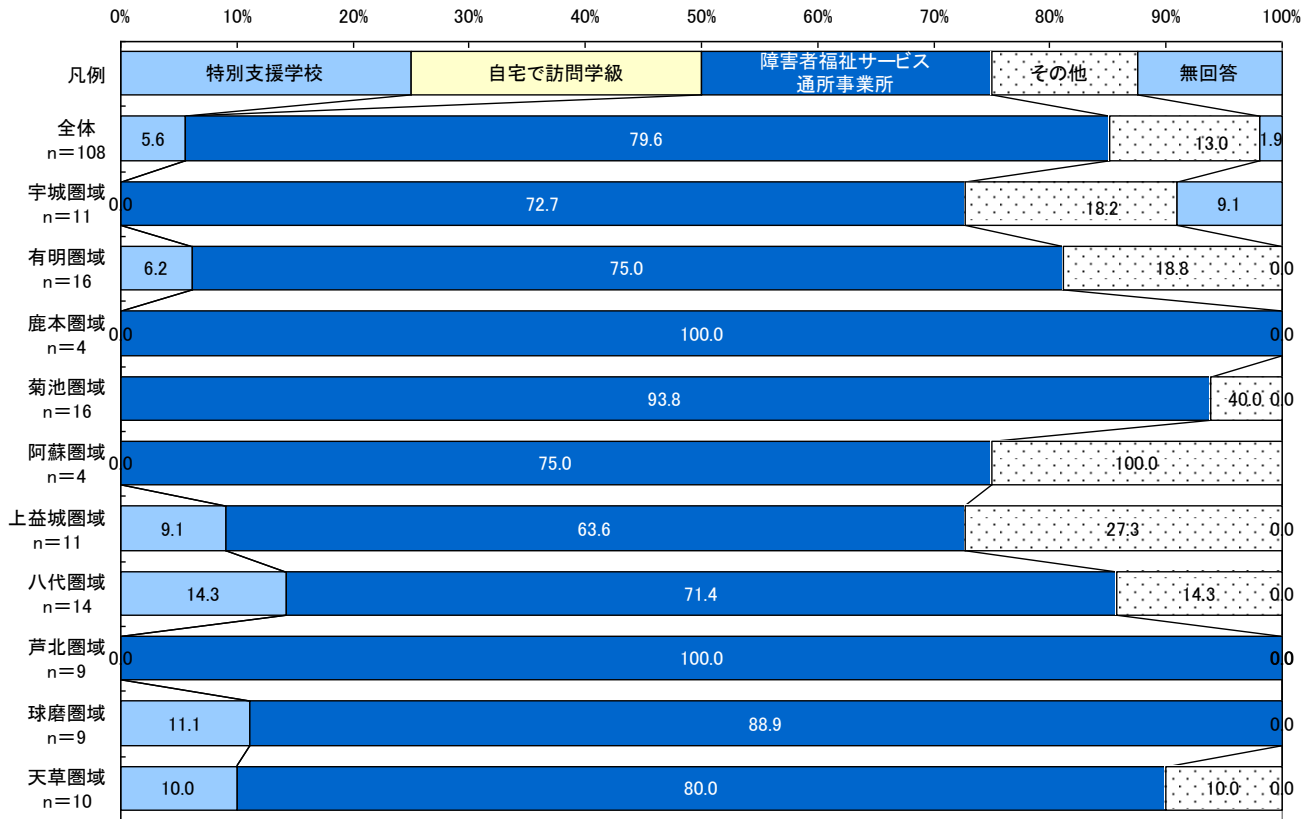
障がい者については、いずれの圏域においても「障害者福祉サービス通所事業所」が多くなっている。

<圏域別にみた日中の居場所【障がい児】>



	障がい児									
	合計	日中の居場所								
		保育所	幼稚園	小中学校の普通学級の	小中学校の特別支援学級の	特別支援学校	自宅で訪問学級	障害者福祉サービス通所事業所	その他	無回答
全体	91	4	0	0	28	51	1	5	2	0
	100.0	4.4	0.0	0.0	30.8	56.0	1.1	5.5	2.2	0.0
宇城圏域	14	0	0	0	3	9	0	2	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	21.4	64.3	0.0	14.3	0.0	0.0
有明圏域	16	0	0	0	5	9	0	1	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	31.2	56.2	0.0	6.2	6.2	0.0
鹿本圏域	6	0	0	0	4	2	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
菊池圏域	20	2	0	0	8	10	0	0	0	0
	100.0	10.0	0.0	0.0	40.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
阿蘇圏域	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
上益城圏域	8	1	0	0	2	5	0	0	0	0
	100.0	12.5	0.0	0.0	25.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0
八代圏域	14	0	0	0	2	8	1	2	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	14.3	57.1	7.1	14.3	7.1	0.0
芦北圏域	3	0	0	0	1	2	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
球磨圏域	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
天草圏域	4	1	0	0	2	1	0	0	0	0
	100.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

<圏域別にみた日中の居場所【障がい者】>



	障がい者									
	合計	日中の居場所								
		保育所	幼稚園	普通 小学校 の	特別 支援 学校の 学級	特別 支援 学校	自宅 で訪 問学 級	障 害者 福祉 サー ビス 事業 所	その他	無 回 答
全体	108	0	0	0	0	6	0	86	14	2
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	79.6	13.0	1.9
宇城圏域	11	0	0	0	0	0	0	8	2	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	72.7	18.2	9.1
有明圏域	16	0	0	0	0	1	0	12	3	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	75.0	18.8	0.0
鹿本圏域	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
菊池圏域	16	0	0	0	0	0	0	15	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	93.8	6.2	0.0
阿蘇圏域	4	0	0	0	0	0	0	3	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0
上益城圏域	11	0	0	0	0	1	0	7	3	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	63.6	27.3	0.0
八代圏域	14	0	0	0	0	2	0	10	2	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	71.4	14.3	0.0
芦北圏域	9	0	0	0	0	0	0	9	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
球磨圏域	9	0	0	0	0	1	0	8	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9	0.0	0.0
天草圏域	10	0	0	0	0	1	0	8	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	80.0	10.0	0.0
無回答	4	0	0	0	0	0	0	2	1	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0

(4) 必要と感じているサービス

障がい児については、ほとんどの圏域で「日中一時支援」と「短期入所」が多くなっているほか、有明、球磨、天草の各圏域では「医療機関」や「障害児入所施設」も多くなっている。

障がい者については、ほとんどの圏域で「生活介護」と「短期入所」が多くなっているほか、芦北、球磨、天草の各圏域では「医療機関」も多くなっている。

<圏域別にみた必要と感じているサービス【障がい児】>

	障がい児															
	合計	必要と感じている障害福祉サービス等														
	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	事業日中一時支援	移動支援	訪問入浴	訪問看護	訪問リハビリ	相談支援	医療機関	施設・障害児入所施設	ケアホーム	
全体	123	33	9	4	18	31	45	53	8	6	11	9	10	30	24	2
	100.0	26.8	7.3	3.3	14.6	25.2	36.6	43.1	6.5	4.9	8.9	7.3	8.1	24.4	19.5	1.6
宇城圏域	17	4	1	0	2	3	9	7	1	1	0	0	1	3	2	0
	100.0	23.5	5.9	0.0	11.8	17.6	52.9	41.2	5.9	5.9	0.0	0.0	5.9	17.6	11.8	0.0
有明圏域	19	4	0	0	3	5	6	10	1	0	2	1	2	7	6	0
	100.0	21.1	0.0	0.0	15.8	26.3	31.6	52.6	5.3	0.0	10.5	5.3	10.5	36.8	31.6	0.0
鹿本圏域	8	6	0	1	1	0	0	3	1	1	0	1	0	1	0	0
	100.0	75.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	37.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0
菊池圏域	32	12	3	1	1	8	14	16	3	2	6	4	3	6	3	0
	100.0	37.5	9.4	3.1	3.1	25.0	43.8	50.0	9.4	6.2	18.8	12.5	9.4	18.8	9.4	0.0
阿蘇圏域	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
上益城圏域	10	3	2	1	1	5	2	4	1	0	1	1	3	3	3	0
	100.0	30.0	20.0	10.0	10.0	50.0	20.0	40.0	10.0	0.0	10.0	10.0	30.0	30.0	30.0	0.0
八代圏域	15	2	1	1	6	5	8	4	1	0	1	1	0	1	4	2
	100.0	13.3	6.7	6.7	40.0	33.3	53.3	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7	13.3
芦北圏域	6	0	0	0	0	2	2	3	0	0	0	0	0	1	1	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
球磨圏域	8	1	1	0	4	2	4	3	0	1	0	0	1	4	3	0
	100.0	12.5	12.5	0.0	50.0	25.0	50.0	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	50.0	37.5	0.0
天草圏域	6	0	1	0	0	1	0	3	0	1	0	1	0	3	2	0
	100.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	50.0	33.3	0.0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

<圏域別にみた必要と感じているサービス【障がい者】>

	障がい者															
	合計	必要と感じている障害福祉サービス等														
	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	生活介護	児童発達支援	短期入所	事業日中一時支援	移動支援	訪問入浴	訪問看護	訪問リハビリ	相談支援	医療機関	施設・障害児入所施設	ケアホーム	
全体	170	25	14	9	58	2	47	36	4	9	5	5	12	39	30	11
	100.0	14.7	8.2	5.3	34.1	1.2	27.6	21.2	2.4	5.3	2.9	2.9	7.1	22.9	17.6	6.5
宇城圏域	16	3	0	1	8	0	7	5	0	3	1	1	1	4	1	1
	100.0	18.8	0.0	6.2	50.0	0.0	43.8	31.2	0.0	18.8	6.2	6.2	6.2	25.0	6.2	6.2
有明圏域	21	6	1	1	8	0	7	3	0	1	1	1	0	5	5	3
	100.0	28.6	4.8	4.8	38.1	0.0	33.3	14.3	0.0	4.8	4.8	4.8	0.0	23.8	23.8	14.3
鹿本圏域	7	3	3	0	1	0	2	1	1	1	1	0	0	0	2	0
	100.0	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
菊池圏域	24	4	0	3	11	0	9	2	1	0	2	0	2	4	6	1
	100.0	16.7	0.0	12.5	45.8	0.0	37.5	8.3	4.2	0.0	8.3	0.0	8.3	16.7	25.0	4.2
阿蘇圏域	8	2	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	2	2	1	1
	100.0	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	12.5	12.5
上益城圏域	20	1	1	0	10	0	6	2	0	1	0	1	0	3	4	1
	100.0	5.0	5.0	0.0	50.0	0.0	30.0	10.0	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0	15.0	20.0	5.0
八代圏域	26	1	2	0	6	0	4	4	0	2	0	1	0	3	4	2
	100.0	3.8	7.7	0.0	23.1	0.0	15.4	15.4	0.0	7.7	0.0	3.8	0.0	11.5	15.4	7.7
芦北圏域	12	2	1	1	5	0	4	4	0	0	0	0	2	4	2	0
	100.0	16.7	8.3	8.3	41.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0
球磨圏域	15	1	4	1	5	0	4	6	1	1	0	1	2	5	4	2
	100.0	6.7	26.7	6.7	33.3	0.0	26.7	40.0	6.7	6.7	0.0	6.7	13.3	33.3	26.7	13.3
天草圏域	17	2	2	0	2	2	4	8	1	0	0	0	3	8	1	0
	100.0	11.8	11.8	0.0	11.8	11.8	23.5	47.1	5.9	0.0	0.0	0.0	17.6	47.1	5.9	0.0
無回答	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0

4. 自由記述

「日常生活の中で困っていることや心配なこと、行政・相談機関・医療機関・障がい福祉サービス事業所などに対する御意見・要望等」に関する主な記述は以下の通り。

<障がい児>

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
子どもを預ける所が少なく、時間も短いため、正社員で戻る予定だった仕事も辞めざるをえなくなる。収入面でも不安が大きくなるばかり。医療行為のある子どもは保育園等でも壁が高く、受け入れの姿勢もない。このままでは一生、短時間パートを探して生活しなければならないこと。子どもの入院の度に仕事を休むこともできない。なので、子どもを安心して預けられ、なおかつサービス業でも時間を気にせず仕事ができる環境がこれからは必要。土日が休みで夕方5時までの仕事なんて限られすぎでめったにない。	1	3	必要
障がいを持った子どもを預かってくれる保育園が近くになく、また数も少なく困っている。行く足もほとんどないので、できれば送迎があったら嬉しい。何度か施設や児童発達支援をやっている所に行ったが、建物や遊具の老朽化が激しく、とても不安になった。聞いてみたら、予算がなく自分たちで直せるところは直しているそうで。差が激しい所もあると思うので、一度足を運ばれて一つ一つ見られたほうが良いと思う。自分の子どもを預けるのはちょっとと思うところもある。	1	不明	必要
小児医療費の給付を受ける際、社会保険に加入しているため、レセプトがあがるのが最短でも3か月かかり、実際に還付されるまでに4か月以上の期間、医療費を立て替えておかなければならない。預貯金の少ない家庭にはとても負担になる。行政と社会保険の横のつながりがもっとあれば、こども医療費受給者証だけの提示で済まされるようになるのではと考える。短期入所(レスパイト)は前もって予約している日のみなので、家族の不幸があった時、予期せぬ事態が起きた時の預け先がないことも不安。1、2日の単位でも、緊急性のあることが家庭内で起こったとき、預かってくれる医療機関があればとの願いです。	2	1	必要
在宅で8時間程度、本人を介護してもらえる専門知識を持ったスタッフの派遣支援の充実を。養育におけるリハビリとスタッフの充実(場所や時間が少ないし送迎もあまりない)医療機関スタッフと保育士スタッフの揃った通学か所がない。安心して預けられない。断られることもあった。障がい者の子連れで入院できる医療機関が絶対必要。実際に入院し、困ったし、ひどい目にもあった。	2	1	必要
今は子ども、親ともに充実した生活をしている。いろんな機関の人に助けってもらって助かっている。	2	1	無回答
いまいち親身になって相談にのってもらえない。事務的な対応。	2	不明	不要
これまで偶然良い出会いがあるなどして児童発達支援や日中一時支援にお世話になっているが、どこで情報を得られるかもわからなかった。口コミで場所や内容を知るばかりでは限界がある。障がい児に対応してくれる未就学(園や施設)が少なすぎる。経済面を考えると就労も考えているが、なかなか難しい。特別児童扶養手当の収入制限は納得できない。	3	1	必要
重心の子が預けられる短期入所の施設が少ない、利用する人も多くなかなか預けることができない。呼吸器の使用が頻繁なため壊れやすい。5年に1個は少ないと思う。自宅用・外出用と生活用具で購入できるととても助かる。	4	1	必要
人吉球磨地域にも重心の子どもたちが利用できるサービスを充実してほしい。将来の事を考えるととても不安。行政は無関心。保健師はノータッチ。このような状況で在宅で過ごしている子ども・親のこともっと知ってほしい。泣いて町に訴えた時もあったが、状況変わらず。こんな町なんだな、と諦めてしまいます。行政だけに頼るつもりはないが、自分の身内だったらと置き換えてみてください。気にかけてもらえるだけでも心は救われます。もっと真剣に考えてほしい。子どもから老人まで「在宅」といわれる時代。そのために気持ちよく地域で生きていけるようになってほしい。	4	無回答	必要
もっと情報がほしい。保育園、学校と普通の子と同じ生活をさせたい親はたくさんいると思う。そういう時、情報が全くないので困る。気軽に相談できるところがあるといい。	4	未実施	必要
同居の家族がいるがほとんど仕事のため、私一人が子どもの世話をしないといけない。一人になりたい、時間がなくてストレス、疲れが出る。この先施設入所も考えているが、噂では今で20年待ちなどよく聞くのでスムーズに入所できる施設の充実を希望。	4	不明	不要
年に1~2回あるかないかの短期入所の予約を入れます。冬季になると、入所者にインフルエンザの方がいるのでお断りします、と何度か断られたことがある。どうにかならないか。ずっと子どもの介護で他の子どもの学校行事等もほとんど参加できず、やっと予約して予定を立てていても、なくなると諦めるしかない時がある。施設の数を増やしてほしい。片道1時間弱、施設はあるが重度なので預かってくれないという施設の数が多。	5	不明	必要
障がい児に対する邪魔者扱いの学校、保護者の体制、これでは社会生活させづらい。	5	無回答	必要
実際に看護しているのは母のみ。私の具合が悪くなった場合のことや、先々のことを考えると不安。日中一時にしても近くに預かってくれる所がなく、遠方までいかなくてはならない。地域格差がありすぎる。災害時の移動方法やどこに行けばよいのか。医療ケアは可能なのか。情報が不足している。障がい児、重度、といっても状態は様々。手帳だけで判断するのではなく現実を見てください。行政の方、保健師さん、もっと知識の向上を。	5	不明	必要

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
気管切開をしていて、たんの吸引が必要だが、障害者手帳の申請ができない。一度呼吸器系と心臓系で申請したが、受け付けてもらえなかった。日常生活でたんの吸引はとても大変なことです。そのところも考えてほしい。八代なのですが、通っている病院が熊本市内で急変して救急車を呼ぶと、八代の病院に寄り、八代の病院から再び熊本に行きます。直接行けるようにしてほしい。通所の定員と回数が少ないのでなかなか入れない。多くしてほしい。	5	無回答	必要
行政(役場)が障がい者の状況や福祉サービスの事を理解できていない。学校に入学する前の健診等は地域の学校に行かないのに行かなければならないのはどうなのか。行っても何の検査も受けられないのではないのか。	5	不明	不要
現在、日中は学校生活のため、親の負担が減っているが、大きくなると不安が大きい。もし私が病気をしたら、1人で育てている者にとっては、いつもそれが不安です。病気をしたとき、ちょっとゆっくりしたいとき、預かりをしてくれる施設が増えてくれればと思います。特に医療的ケアがあると、看護師も必要なため、利用できる場所が限られる。しかし、利用したい側は増えています。そうすると、利用日数も減り、また負担が増えます。地域にほしいです。	6	無回答	必要
子どもを預かってくれるところが少ない。重度でも子どもの状態は様々なので、寝たきりじゃなくても預かってほしい。	6	不明	不要
小児専門の入所施設が近くにあってほしい。	6	非該当	不要
障がい者入所施設が少ないため、なかなか預けられない。定員が決まっているので施設を増やしてほしい。松橋子どもセンターにショートステイの利用をしたが、子どもに対しての対応(寝かせっぱなしなど)がよくないため、子どもがいやがる。楽しい活動をしてほしい。近いけど預けたくないのが現状。改善を求める。老人施設は増えても障がい者用の施設はできない。松橋支援学校の校舎が広すぎて冬寒く体調を崩しやすい。	6	無回答	必要
重度知的、移動のため常に見守りが必要。放課後預かりも近くに無く下校時間が早いので、帰宅～夜眠らせるまでとても疲れる。障がい児を生んだ自分が一番悪いが社会はまだまだ厳しい状況。一緒に死ねたらそれが一番いい。もっと子どもたちが安心して世の中で暮らせる社会が来る日を祈っている。	6	不明	不要
学校の始業時間が9時なので仕事の時間に間に合わない(8:30～)。朝から学校の始まりまで、みてくれるサービスがあるととても助かる。市役所に尋ねたら、今のところそういったサービスはありませんと言われた。松橋支援学校にはあるけれど、松橋西支援学校にはないのでぜひやってほしい。	6	不明	不要
父母ともに腰が悪いのでこの先成長していくと、入浴がとても心配。今はまだ入浴も自分たちでしているが、訪問入浴も考えなければと思う。気管切開、酸素吸入していたりするので頼むにしても大変かと思う。	7	不明	必要
大きくなった時の通院。基本的に中学生までしか今のところはみれないということだった。どこに通えばいいのか、どんな風になるのか、どういったサービスを利用するのか、全くわからず不安。肢体不自由のため利用できる場所が少ないと聞く。子どもがその年齢になった時、どうなっているか不安。	7	不明	必要
人吉球磨管内での障がい児入所施設があれば助かる。現在、障がい児福祉手当、特児手当を受給させてもらっていますが、うちの子は寝たきりで吸引も必要。その他様々な物品が必要で、手当で助かっていますが、両親共年収が高いのに手当を受けられている家庭に少し違和感がある。二人共自衛隊で受給を受けられるのでしょうか。医療機関によって吸引チューブ、栄養ポトル、注射器等、一か月支給される場所もあるみたいだが、ほとんど自費ですよ。高く耐えられません。吸引器、バギー等の5年以上たないと助成が受けられないのも困る。	7	無回答	必要
学校が終わってから夕方まで日中一時支援を利用しているが、もっと送迎有りの事業所が増えると希望者がみんな利用できるようになるのではと思う。長期休暇中は特に利用日の確保が難しく、仕事に差し障るのが非常に困ります。また、10月から児童発達支援と日中一時支援の同日利用ができなくなったそうで、長期休暇中の児童発達支援利用を控える形にしたいといけなくなった。なぜそうなるのか、利用者の事をもう少し考えていただけるとありがたい。	7	無回答	不要
特に困っていることはないが、あるとすれば仕事が休みの時(日曜祝日)など用事が入ってすぐ預ける事ができる施設を作ってほしい。手当について、1年に1回くらい減額されている。共働きで頑張っているが、収入はとても低い。その中で手当はとても助かっているが、どんどん額が下がって。もうこれ以上減額してほしくありません。	7	無回答	不要
座位保持など台数に制限があるため体に合っていないものを使用している。	8	無回答	必要
行政はもっと子どもに深く関わりのある学校や支援センターにも出かけて行って、直接現場の声を聞いたり、子どもの様子を自分の目で見てほしい。親の声をよく聞き、その子にとって何が一番いいかを考えてほしい。看護師がみつきりにくい地域もあるので、行政に対して情報提供する。学校内での最善の体制を考えるなど親も子どもも安心できる居場所づくりに県全体で取り組んでほしい。	8	不明	必要
今のところ親も元気なので多々手伝ってもらいながら生活できている。地域サービスも充実して本当に助かる。ただ、リハビリが思うように受けられない。私が仕事をしていることもあり、なかなか受診可能な時間に間に合わない。もう少し長く診療していただくと助かる。	8	不明	無回答
心配なことは2年前に白内障(両目)の手術をしてから、昨年6月に左目の視力を失っていることがわかり、右目をケアしているが、右目も網膜剥離になってしまったら、現在通っている特別支援学校から盲学校へ移らないといけなくなるのかです。それに伴い、将来の入所施設などへも入れるのかとても不安。	9	不明	不要
うちの子は言葉も出ないのでどこが痛いのか、どうあるのか、わかってやれず、膀胱結石に気づいたのも症状が出始めて1年経ってからのことだった。股間がかゆいのだろうと皮膚科へ行ったり、どの病院を受診するべきかも悩んだ。こんなとき相談に乗ってもらえたり、信頼できるかかりつけ医が必要だと思った。	9	無回答	不要

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
自主介護者が病気になった時など急なトラブル時に利用できるサービスが少ない。補装具などを作り替える時、明らかに小さくなってからでないといけないため、あってもいない補装具を使用する期間が長くて困っている。他県ではサイズが合わなくなる時には新しい補装具が手に入っているそうです。熊本は厳しすぎる。	9	不明	不要
必要に迫られて申請する日常生活用具が、最近は審査が厳しくなったようで、却下されることが多い。もっと詳しく生活状態を聞き取りして臨機応変に対応してほしい。介護者の負担がますます増えるばかり。	10	1	不要
宇土市や宇城市に日中一時や短期入所の対応ができる事業所がないので増設してほしい。急な利用ができる施設も少ない。学校は熊本支援学校へ通学しているが熊本市外の生徒でも夏休みに行われているサマーホットの利用ができるようにしてほしい。	10	3	不要
仕事をしているので平日は別居の母にお世話になっている。母も70歳となり今後の介護のことを思うと不安になることが多くなった。	10	無回答	不要
兄弟がいる場合、本人の施設利用が定員制限のためできないことがある。兄弟に大変申し訳なく思うことが多い。その他家族の介護が心配。八代市内に短期入所施設がない。	11	不明	不要
児童デイサービスの事業所が少ない。子どもの(利用者)数が増えてきているので希望する日に利用できなかったりする。夜に急な用事になった時に預けられる事業所がほしい。利用時間の拡大。特に長期休み中は預かり時間が短い。	11	不明	不要
北部には福祉サービスと機関が少ない。特に子ども。預ける所もないし、学校もない。リハビリする病院も少ない、もう少し施設を充実させてほしい。福祉サービス機関の情報などを市役所の担当者に教育してほしい。そして市民の問い合わせにはもっと情報を教えたり親身になって教える教育をしてほしい。	11	無回答	不要
まだ学生なので近くの実業所の通所(児童発達支援)を利用しているが、人数に対し利用定員が少ないためなかなか利用できない。利用定員が増えれば利用回数も増えるだろうし、まずは利用定員を増えることを願っている。	12	非該当	不要
現在中学生だが、卒業後の生活介護(医療的ケアを含む)を利用する施設が少なく、待機者が多くおられると聞き、とても不安。親が高齢になり自宅で介護が難しくなっても入所施設も満床でたくさんの待機者がいるとのことなので、ぜひ施設を増やす等、行政の対応をお願いしたい。	12	3	必要
障がいを持った子どもたちは今からどんどん成長し生きていく。その中で心地よく生活できるようにもう少し国や町に、障がいを持った子どもたちに目を向けてほしい。体にあった車椅子や介護をする親もされる子どもも無理のない食事ができる椅子など、スムーズに作れるようにしてほしい。高齢者のように、気軽に利用できる施設を増やしてほしい。	12	無回答	不要
高校卒業後に通える場所があるのか不安。	12	不明	不要
重度障がい児を預けられる施設(日中)、医療的ケアが必要でも預かってくださる施設を増やしてほしい。仕事も続けたいが家族に負担がかかるのでとても悩んでいる。	13	無回答	必要
またアンケートという感じです。ほんとに環境改善されるのですか。このアンケート内容で現状は分かりますか。他にやり方があるのでは。今要望したいことは、日中一時支援、短期入所の事業所が増えてほしいことのみ。真剣に取り組んで実現させてください。	13	3	不要
将来の不安が大きい。眠れない時もある。本人の成長を喜んであげなければならないのに、介護の大変さから褒めてあげることや、優しく接してあげてを忘れてしまう時がある。どうしたらいいのだろうと日々考えている。心理カウンセリングなどを受けて息子の気持ちをもう少し理解してあげたい。将来のことは本人に決めさせたいと願っている。障がいを持つ人が活躍する場所を施設だけでなく、スポーツや地域にもっともっと増やしてほしい。相談機関、福祉サービス、支援学校に携わる人たちにもっと知識を身につけてほしい。責任感をもってほしい。仕事上やっている人が多すぎる。障害を持つ人と心の通いあう社会になってほしい。いつか障害があっても未来は明るいと思いたい。生きやすい社会になってほしい。	13	不明	不要
今はまだ中学1年生(13歳)。高等部まで学校に行かせようと思っている。お兄ちゃん、お姉ちゃんがいるんですが、この子たちにお願ひするのも大変だろうし、ゆくゆくはケアホームに入所させようと思っている。近くにあるといいのですが。今はまだ親も元気でいいが、今後が心配。	13	不明	不要
中学生です。中学生や高校生など障がい児(重度で医療的ケアが必要)の子どもの学校以外の預かりがほぼ機能していない。利用したくても行く所がない。訪問されて、相談してくださいと言われても話を聞くだけで、何の意味があるのでしょうか。もっと利用できる場所、増やしてください。お願いします。	14	無回答	必要
将来が不安。自宅から通える施設に通所ができるのか。入所したい時に入所施設に入れるのか、どうなるのか不安。子どもの事で病気になり、お金がかかる。もう少し手当てを増やせないか。	14	未実施	必要
現在、私(母)はパート勤めをしていて(9時~16時)、子どもは芦北支援学校の中3である。学校は9時~15時までで、朝は特別に学校に頼んで8時半に登校させ、15時から隣の志友会の日中一時を利用している。帰りに迎えに行っている。夏休みは志友会の通園に週2回通わせているが、10時半~15時までで、時間が短く、とても利用しづらい。働くなど言われればばかりである。何度交渉しても送迎があるのでと言われる。スタッフを増やせばいいじゃないですかと言っても聞く耳を持たない。制度が変わってからも通園を15時まで利用して日中一時を利用できないと言われ、それも同時に利用できない。せめて8時半~17時までには預けられる事業所がほしい。	14	1	不要
介護できる間は子どもをみたいが、親として、私達(父母)が年を取り難しくなることが心配。	14	3	不要

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
来年度から校区内の学校ではなく家から車で40分ほどかかる支援学校へ通う予定。保護者が送迎しなければならない。送迎サービスを利用したくてもサービス自体がない状況。費用の面からも福祉タクシーを利用することは考えられない。送迎のために現在の仕事を続けることも難しく、そうなると生活も苦しくなる。知人の中には送迎ができないので子どもを通学させたいけれど諦めた人も。市や県にお願いに行っても予算、人員確保、県立学校だからこの学校だけというわけにもいかない。高等部は義務教育ではないということから、なかなか実現しない。他の施設を利用して、そこから送ってもらうにしても帰ってくる時間が早すぎたりと、なかなか思うようにいかない。あと半年後の事なので時間もあまりなくどうすればいいのかわかっている。	14	不明	不要
八代にもっと生活介護利用施設を増やしてほしい。ショートステイできる施設がほしい。現在学校へ通っているのでもデイサービス利用では放課後デイサービスやタイムケアを利用している。放課後デイは1か月に23日可能となっているが、半月いただけると良いほうだが、高校卒業すると生活介護となり、通所できる所も八代では限られている。生活介護となると利用できる日数も減り、どんどん増えてくるのもっと施設が増えるといいと思う。ショートステイでお願いできる所は八代にはなく、今は松橋のこども総合療育センターを利用している。でも連れて行くのに40分近くかかり、また18歳までの利用となっているので困ります。芦北学園はまだ利用していることがありませんが、通所も入所ももう満員ということで、ことわられてしまうと聞きます。芦北学園に限らず、入所等、高齢化も進み、満員ということでした。学校へ行く間、親がまだ介護できる間は頑張ってきたのに、いざ成人を迎え、そろそろ人の手が必要というときに学生の通園児利用が多く、生活介護の人の申し込みを断るとい話を聞くとおかしいと思います。利用制度の見直しをされて、学校を卒業された方のことを考えてほしいです。	14	不明	不要
人工呼吸器の24時間装着の高1の娘。現在八代市内には医療機関併設がされショートステイ等が利用できる事業所がない。養護学校にも終日付き添い(毎日登校)をしている。我が子がショートステイを利用するには車で高速に乗って1時間程かかる芦北医療センターまで行くことになる。一人で連れて行くにも高速に乗っている最中の吸引や機械のトラブルでアラーム等、命がけの送迎です。そういう事が心配で利用できずにいる状態です。地元には是非、医療機関の併設された安心して利用できる事業所の新設を切に希望します。また、高等部卒業後の生活介護も事業所はとも少なく不安がある。	15	未実施	必要
利用できる条件の施設が少ない。お金がかかる。	15	無回答	不要
益城町は義務教育までの医療費の無償化という大変ありがたい支援があるが、重度の障がい児の夏休み、冬休み長期の学童保育のようなサービスがない。熊本市や他の地域では社会福祉協議会などが行っていて、1日500円で色々な活動やレクリエーション、毎日サービスが揃っているようです。日中一時で預けたくても申込者が多く預けられず、長期の休みは親子でストレスになる時もある。働きたくても長期休日のことを考えるとなかなか前に進めない。県からこういう要望が強くあるということを知ってほしい。	15	未実施	不要
高校卒業後のことが一番心配。八代にはまだ2か所ぐらいしか生活介護の施設がない。もう少し八代に生活介護の施設をたててほしい。短期入所もなかなか入れない。それも増やしてほしい。	15	無回答	不要
短期入所を利用する時に定員が決まっています利用できない時がある。利用人数を増やしてもらいたい。短期入所できる施設を増やしてほしい。日中一時支援事業所を増やしてほしい。送迎してもらえ施設を増やしてほしい。	15	不明	不要
小学校～中学～高校は日中一時、放課後児童デイでとてもお世話になった。夏休みなどの長期休業中や(土)も楽しい。イベントも予定してもらいとても充実した生活をさせていただいている。今悩むところは高校卒業後の行き先をどうするかということ。長年、社協の預かりを利用していたので、新しい預かり場所を探すというのはとてもパワーのいることです。子どもは一人で歩くこともなく話すこともなく、でも毎日ニコニコして通っている。外出していく姿は今後も守っていかなければと両親ともにパワーを出そうと思う。	15	不明	不要
今は学校に行って学童を利用しているのでいいのですが、卒業後に昼は施設で過ごすにしても、朝も夕も居宅介護を利用できるのか不安。両親共、仕事をしているので子どもとヘルパーさんだけの時間になり家に家族の者がいないなど、心配もあります。預けられる施設が少ないのも不安。	16	無回答	必要
緊急医療体制に不安あり。各地域にきちんと見ることのできる医療体制を整えてほしい。中心ばかりが栄えないでほしい。安心して過ごせるように願う。	16	非該当	必要
重度の障がい児・者に対する対応がいまひとつ遅れているような感じがする。自分で動けない、話さない分、色んな面で後回しだったり、我慢が当たり前のように強いられるが、動けない話せない分、手助けが必要であるとわかってもらいたい。小さい頃は手助けも自分たち(両親)だけで可能だが、大きくなると抱えたりするだけでも皆様の手助けを要します。在宅での生活が当たり前になるよう、サービスの充実をお願いしたいと思う。行政では保護者の方も交えた決定事項ができるようになればいい。	16	不明	必要
送迎サービスがない、通所施設へ通う際の移動サービスを受けたいが、現在事業がない(山鹿市)。	16	不明	不要
現在、支援学校の寄宿舎に入舎しているので平日は心配ない。金曜日夜校より月曜日登校まで介護している。土曜日はデイサービス利用で入浴もしているので助かっている。送迎が少し大変。学校卒業後、自宅待機の場合は介護をすることになるので親の体調が不安。介護者が病気で辛いけど子どもは自宅で安心して介護ができる限りはしたい。そのためにはいろいろなサービスを利用していかないと無理。そのサービス・手当などには限度額があるが、うちは中途半端に限度額にあてはまり、手当類が全ていただけていない。限度額の見直しを是非してほしい。子どもが持って生まれた病気は一生涯治りません。病院通いはずっと続く。医療費だけでも大変。介護者が膠原病と書いているが、はっきりと診断されていなくて治療費は払っていて、親子で医療費にかなりの出費になっている。辛い時はこの子と二人で死のうと何度も思った。どうかこういう気持ちにならない世の中になってほしい。	17	1	必要
	17	無回答	必要

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
現在は学校放課後に入浴を兼ねて日中一時を利用して生活のリズムができている。卒業後、自宅から通える施設の利用を考えている。できるだけ長く自宅で生活させたいと願っている。介護するもの(家族)の負担である入浴や食事(水分補給)等を他の手を借りながらできればありがたい。また自宅からあまり離れていない施設の利用がいいのですが重複障がいがあり、医療的ケアが必要で食事など全介助となると利用できる施設が少なく今後の利用が心配。	17	不明	必要
母親が入院の場合の生活の場。	17	6	必要
昨年から居宅介護サービスを利用している。支援学校への登校、下校時の車への乗降をヘルパーさんをお願いしている。腰痛のため大変助かる。	17	6	必要
人工呼吸器で生活しているがパルスオキシメーターが高くて買えない。本当は24時間つけていなくてはならないのに買えない状態。今後レンタルできるようになると嬉しいが難しいですか。	17	無回答	必要
八代には短期入所できる場所がないので、とても困っている。芦北学園を利用されている方がほとんどなので、いざ利用しようと思っても利用できないことが多い。それと祝事は早めにわかっているの、早めに予約を取ることができるが、仏事は突然なのでサービスを利用することはほとんどない。我家の場合、子どもが鐘の音に敏感で痙攣発作等出たりするので、一緒に連れて行っても交替でご焼香しなければならない。緊急時にちょっとすぐ預けられるような場所があると本当に助かる。	17	不明	不要
近くの事業所の通所(生活介護)を利用しているが、人数に対し利用定員が少ないためなかなか利用できない。利用定員が増えれば、利用回数も増えるだろうし、まずは利用定員が増えることを願っている。本年度、高校を卒業するし、今の状態では卒業後、通所が利用できず自宅で過ごすことも多くなりそう。よければ、来年度に向け早めにご検討頂きたい。	18	5	必要
書類等の手続き簡素化。	18	6	不要
大変難しいアンケートで悩んだ。今後よりよい福祉サービスが行えるよう、市町村窓口等、従事される方々の質的向上を望む。市町村職員の方々も人事異動があり、あまり積極的ではなく今後不安が残る。	18	不明	不要
発作が多く、本人が不安定な状態で先が見えない時こそ、日中預かってくれる事業所がほしかった。生活介護の事業所とひとくくりの数で判断せず、どの程度の障がいの人まで見れる事業所が県内、どの地域にいくつあるのか、もう少し深く調べてほしい。アンケート内の特に必要な順位や項目も決して順位がないものが縮小されたりすることがないように願います。重症心身障がいといっても同じような状態の子どもは一人もいないと思う。それをひとまとめでアンケートという単純な数字にして支援策の検討目的になるのかと正直思った。	18	6	不要
来年度は支援学校を卒業し、生活介護の通所施設を利用する予定だが、御船町はこの施設からも送迎を断られる。大変困っている。御船町には重心施設がなく不便。色々施設で断られることが多く、御船町は阻害されている感じがあるなどの理由で色々なサービスを受けることが難しい。なるべく在宅で介護がしたいが支援学校を卒業するのがとても不安。学校みたいに安心して預けられる施設が少ない。スタッフが足りず皆殺伐として、利用者と触れ合う時間も少ない。機械的な扱いもあるように受ける(体験学習を通してわかったこと)。制度的なものもあるようだが、スタッフの方たちが余裕をもって利用者に接することができる人数体制を作してほしい。送迎も入浴等も少ない。スタッフが全部行っている。ストレス疲労がたまると思う。	18	6	不要
事業所と利用者家族との意志疎通がより多くとれたらもっと良くなる。	18	6	不要
他の兄弟の突然の熱発があった時、急に短期入所や日中一時支援の空がなかったりなど、他の兄弟がすぐに病院に行くことができないので短期入所や日中一時の枠を広げてほしい。兄弟の用事があるとき短期入所や日中一時の空がないときがあるのですごく困っている。	無回答 (障がい児)	未実施	必要

<障がい者>

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
子どもが19歳になり、今望むことは(重度障がい者)医療機関のある場所での短期入所、ケアホーム施設の充実と生活介護のある通園施設の充実です。とにかく近所にも少なすぎるので将来的にとっても不安。	19	6	不要
短期入所(介護者が緊急および何らかの事由で本人の介護支援ができない時)の手続き、受け入れ(緊急、突発的な依頼)ができるかどうかよくわからない現状。	19	5	必要
介護者(母)の健康不安が出てきた。体力的に疲れを感じるようになった。介護者の両親の介護も少しずつ心配になってきている。ケアホームへの入居を希望しているが、数が限られており、いつになるか不安。	19	6	必要
よく行政・医療機関等、障がい者用駐車スペースがあるけど、雨の日は確実に利用できない。乗り降りに濡れる。ショッピングセンター(モール)にあるような、コイン式駐車スペースがあればいいと思う。ポールを置いてても健常者は平然と駐車される。コインを福祉課でいただいて、駐車ブロック解除する形が一番いい。障がい者もショッピングは刺激があって好きです。	19	6	不要

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
障がい区分の調査、判定について納得がいかない。調査員の聞き取り方、知識の技量(質)もかなり影響しているように思う。それがサービスを受ける側にマイナスになることもあるということ認識してほしい。サービスや制度の内容説明が不十分と感じる。受ける側がわかるように理解できるように説明する必要があるのではないかと。私達の子どもは障がい児として生まれてきた。医療で救っていただいた命だった。でもその生命を育てるにはとても苦労があった。今、20歳になった娘です。月経の困りごとがあり受診しようにも婦人科の受診の難しさがある。快く受診させてくれる医療機関がある。生涯を通じた医療サービスや福祉や教育の育てる、育つ仕組みがないと小児医療で救っていただいた命ですが、つらく重荷に感じるものです。周産期医療等の命を救う仕組みを作るのであれば育てる、育つ、暮らす仕組みも作っていく必要があると痛切に感じる。	19	5	不要
短期入所を利用したいが心配でなかなか預けることができない。昨年は娘が高3で部活動の応援に32日利用したが、冬場からはインフルエンザの流行で卒業式に利用したかったが断られてしまった。1か所しかないのでも今後は心配。利用中に体調が悪くなって熱が出たり、帰ってきたこともあり、その後かかりつけの医療機関で入院した。重度障害者を診察、入院できるところで短期入所できたらと思う。今年は2日だけ利用している。現在かかりつけの近くの医療機関では重度の人が数名。子どもも20歳になり小児科から外科に受診になった。熊本赤十字病院に年1、2回受診している(気切、胃ろう術)短期入所利用できたらいいと思う。	20	未実施	必要
生活介護サービスを受けているが、利用希望者が多いので利用日数が少なくなっています。近くに短期入所できる施設があればと思う。	20	6	必要
重度心身障がい者は利用できる事業所が限られており、そこに集中するため、いざ本当に短期入所を利用したい時に断られ、県外である結婚式等にも参加できず、困っている。必要な時、困った時、急な時(介護者の病気などで)に対応でき短期入所できる施設を多くの方が望んでいる。最後に日頃のご尽力に感謝いたします。	20	6	必要
障がい程度区分が他の子より軽い。自分のことができる子が「5」とかで、ほぼ全介助の自分の子が「4」はおかしい。きちんとしてほしい。調査に来た人でこんなに差があるのはおかしい。	20	4	必要
日中一時支援事業で入浴サービスを利用。送迎サービスができるとかなり負担が軽減される。ぜひ、短期入所の時だけでなく日中一時でも送迎サービスを利用できるように支援してください。在宅介護が一番負担になるのが入浴介助。訪問入浴は入浴させるスペースなど必要ですし、通所利用回数を増やし入浴、利用回数を増加するか、日中一時で入浴サービスを利用する方が介助者にとっては必要。	20	6	不要
5月が誕生日のため年金手続き中です。また補装具の手続きも身障者手帳を交付してもらえたので手続きを進め、利用し本人が生活にストレスを感じないようにしたいと考えている。事業所や施設等、とにかくスタッフの数を増やしてほしい。	20	5	不要
吸引器をつけて在宅で生活するには、経済的負担が大きい。障がい者1級を取得しているので全額が戻ってはくが、4か月後なのでそれまでに50～60万円ぐらい支払わなければならない。最初から支払わなくていいようにしてほしい。すごく困る。訪問看護の利用で土日祝のサービスをしている事業所を増やしてほしい。	21	6	必要
気管分離、胃ろう吸引があり、医療的ケアが必要なため、人吉市には日中一時支援をしてもらえる事業所がなく困っている。病院に行きたくとも思うようにいけません。できれば、医療機関による日中一時支援がほしい。	21	無回答	必要
私の子どもが行っている生活介護(通所)は内容があまり充実していない。県から委託されている施設みたいで、職員さんにもあまりやる気がある人がいない。入所の方は何十年も入所されている方ばかりで、全体的に活気がない。私の住んでいるところから一番近いのでそちらを利用している。他にいいところがあれば移りたいが、相談する人もわかりません。どうしたらいいでしょうか。	21	6	不要
地域で生活させたいが八代市では重度の障がいを受け入れるケアホームがない。生活介護サービスを充実させるためにもっと利用できるよう事業所や施設を増やしてほしい。利用が少ないと親の介護の負担は増える。親も年をとり、子どもは大きくなり、なかなか在宅での介護は大変になるのでもっと障がい者のためのサービス向上に努めてほしい。	21	6	不要
夜間でも外に出るので心配。身体にあざがある時があり、どこであざをつけたのかわからない。短期入所、生活介護を利用。時々ひきつけがある。月に1回。	21	無回答	不要
重症心身障がい児・者の日中一時支援の場が人吉・球磨にはないため、ぜひ医療機関での日中一時支援実施を実現してほしい。外出ができないため。	22	1	必要
重症心身障がい児者がいつでも診察してもらえる専門の病院(各科、歯科、内科、外科、脳外科、その他)が近くにあったらいい。設備が整った病院、専門の医師がいつでも対応できるようなところが各市に一つあったら安心できる。町村は無理でも、これから先、年を取っていくばかりで遠くの病院まで子どもを連れて行けない。不安でしょうがない。近くにあると本当に助かるのに。	22	無回答	不要
親が元気でいればずっと自宅で対応したいけど、身体がだんだん無理が利かなくなってくると、不安。もっと福祉サービス受け入れ先があればと思う。	23	1	必要
私が元気なうちは在宅で娘のしたいことをさせながら、過ごしていけるが、代わりがきかないので私が病気をしたり、何かあったらと考えると怖くなる。行政サービスは何でも申請してからのことなので、どういうサービスがあるのか知らないと受けられない。そういうことに詳しい方に相談する機会が定期的にあるといい。	23	6	必要

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
介護者の年齢があがってきており、いつまでこの状態で介護できるか心配。利用できる施設は近くに全くなく、今は30分かけて車で送迎している。しかも自分は家族の事情で仕事をしており、送迎できる者もなく仕事を遅刻したり早退したり、他人にお金を払って送迎をお願いしている状態。なぜ老人には送迎できるサービスがあるのに障がい者はないのだろうか。利用している通園サービスには入浴サービスもなく老人ばかりが優遇されており障がい者は行政がなかなか動いてくれずにとても残念である。ニーズとして老人の方が多いのだが障がい者をもつ家庭も大変困窮していることをぜひ理解してほしい。毎年アンケートは届くが何一つ状況が変わらないのが大変残念。	23	6	不要
重度の医療的ケアができ、短期入所ができるところが地元一つもない。私は大牟田の医療機関まで預けている。地元では入院、リハビリができない。年齢は大人なのでこういった重度の子を見てくれる病院、急変時に対応してくれる所がほしい。みんな大変なのに遠くまで行っている。	24	6	必要
主たる介護者にもしものことがあった場合、希望する施設にすぐ入れるか心配。できる限り、自宅で暮らさせたいと思うが、兄弟には負担はかけたくない。	25	6	必要
一緒に暮らせるうちはいいが、それができなくなった時に入所した場合、どの程度の介護が受けられるのか、夜の睡眠が不規則なため夜中の見守りなどしてもらえるのか心配。体が弱いのので度々病気を患う。入院の時など私がついていられなくなった時はどうなるのかと思う。	26	6	必要
在宅でやっているが、介護者である家族が元気。短期入所先が少なく、急な用事で利用できる状態ではない。将来を考えると、入所施設に入所可能だという展望があると安心。そして、そこに短期入所ができたら本人も慣れてくれるだろうと思う。まだ医療ケアが日常必要な状態ではないので、医療機関でない所にも短期入所をお願いしたい。ケアの必要な子が増えて居場所がない。居宅介護のヘルパー利用が現実的に利用しづらい。定期的ではなく臨時的な見守りとかに利用できないかと思う。自宅で見守ってもらえないなら日中一時支援事業所まで送迎してほしい。	26	6	必要
両親に何かあった時、通院する時に頼める所がほしい。通院先が遠いため、半日以上かかる。	26	2	不要
以前より時々ショートステイ(1泊2日)を利用していましたが、今年に入り宿泊中にてんかん発作があり帰される。抗てんかん薬は服用中であるが、それ以後ショートステイを利用しづらい状態です。看護師も常置している施設だが、医療的ケアの対応が充実しておらず、本当の意味でのショートステイ利用ができない状況で困っている。かかりつけ医療機関はあるが、急変時の救急対応がされておらず、夜間休日の急変時にどこの病院へ行けばいいのか不福祉サービスを3種類受けているが、市役所へ行かなければならない。一度にできる制度があればいいが。	26	6	不要
訪問看護はもっと利用できる時間帯を増やしてほしい。ヘルパーさんでも医療面ができるようにしてもらいたい。出かけても安心できない。	27	不明	必要
急な用事の時にショートステイできる所がなく、困ることが多い。子どもは呼吸器を装着しているため、ショートステイできる医療機関を多くしてほしい。	27	6	必要
現在、ショートステイで利用している施設はいつも予約でいっぱい。でも慣れている施設じゃないと親は安心して預けられない。緊急の場合に(例えば、親が病気で介護できない時)預かってくれる枠をどの施設にも設けてほしい。	27	5	不要
日常生活用具は各町村で違って障がい者にとって必要な用具が、町では対象外で受け取ってもらえなかった。対象外で断られただけで相談にもならずがっかりしたことがある。	27	6	不要
人材不足(職員不足で安心して預けられる施設が近くにない)。入所施設を地域に作ってほしい(医療機関併設)。親の老いに伴う将来への不安がある。医療的ケア(たん吸引)が行えるヘルパー増を望む。介護職員の待遇改善(ヘルパー不足)。	28	6	必要
娘は足元がおぼつかず、転倒しやすい。他人にゆだねる場合、どうしても人間性を求める。人権意識の愛情深い環境、研修を重視する施設をお願いします。研修を積んだ方には資格を与えさらにスキルアップしていくシステムを作って福祉に従事する方へ励ましてください。誇りをもって障がいを持つ人々に接する方々がお仕事できるような環境を整えてください。	29	6	必要
利用者、保護者が安心して楽しく過ごせる施設が地域にあればいい。近くにいって頻繁に行き来できれば理想的な生活ができるのに。	29	6	不要
短期入所をお願いする時、利用されている方がいた場合できないことがある(現在通っている所)。本人としては慣れている所がいいので、受け入れができるようにしてもらいたい。日帰り旅行で参加できない場合、本人を見ていただける場があったらと思う。	29	4	不要
今回急に腰痛が悪化し検査の結果手術となり、在宅酸素使用の母と施設入所の父、子どもと3人をどうしようかと途方にくれた。しかし今後の長期介護の面から1日でも私共が健康を保ち子ども・両親の世話ができるように入院して手術をすることに。まず子どもですが、1か所は長期ショートは不可能で、他の2か所のうち1か所は医療的ケアの患者が優先(時期が重なったため)とのことでダメだった。何度か日中一時支援、ショートステイを利用させてもらった「くぬぎ園」さんが事情を汲み取ってもらい快く引き受けてもらい本当に助かった、私共も身体が続く限り自宅介護と考えているが、年齢・体力等考えるといざという時にどこかそういった施設があれば市の方でご紹介いただくと非常に助かる。	29	6	不要
障がい者入所施設の増加。	30	6	不要

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
療養型の施設を増やしてほしい。こども療育センターのような施設であれば安心して預けられる。畳の部屋の個室があればいい。介護者が急に介護できなくなった時にすぐ入所できるように余裕を持ってほしい。差別をしない施設であってほしい。重心障がい者はほとんどが自分では動けないので、入所時はベッドの上ばかりにしないで車椅子などで移動させてほしい。できれば入所棟からデイサービスに行けたらいい。親と本人が一緒に入所できるような施設があればいい。施設見学に個人で行くのが大変。行政で連れて行ってくれるようなシステムを希望。	31	6	必要
上天草市に住んでいますが、自宅からどこも遠く、受診するのがたいへん。また、日中一時支援事業、福祉サービスなど利用したいのにできない現状です。もう少し安心して生活できるように環境を整えてほしい。	32	無回答	必要
現在、ヘルパーさんにも吸引もしてもらっており、大変感謝しているが今後の希望として、24時間(毎日ではなく必要な時)対応ができることを望んでいる。月に何度、年に何度もないと思うのですが安心して家を空けることができるようになればと思っている。介護者の体調管理のためにも。	32	6	必要
市町村でサービス等に差がありすぎ。訴えられて当然。熊本市の母親は困っている。	32	不明	必要
医療機関等、受診しなければならない時、生活介護など受けている事業所を利用して受診、通院できると少し介護者も楽になれるかと思う。大人になると体が大きくなるので大変。	32	6	不要
パニック障がいなので施設選びが心配。暴力が一番心配。スタッフとか他の利用者。	33	4	不要
身体障がい、知的障がいに加え、てんかんの持病を持っているため歯科ひとつ通う医院すらない。てんかんの治療には熊本市内まで通っている。専門医不足が大きな不安。現在B型事業所には楽しく通っているが、生活介護がなく、グループホームがあればいいと思う。親が年をとっても親子で入れる施設があればいいのに。地域の中で生活したいのだが、重度の子どもがいる家庭等は地区の役等を免除してもらえるような理解を行政にお願いした月～金通所で、土日は日中一時支援事業所に通っているが日中一時支援料が軽減されたらと思う。仕事する上で土日を預けないと働くことができない。	33	5	必要
医療機関で病態が急変した時に快く受け入れてくださる病院があるといい。看護者が老化していくので、看護できるか心配になり、障がい者本人が家から出て宿泊をあまり経験してなくて、食事も自身の気に入っている人でないと食べないので心配。特別障がい者などの手当などの利用があるのを市役所の方ではなく、個人から聞き、そういう制度がありますよ、と教えてもらい手当を受けることができた。そういう障がいのある人々に制度を教えてもらえるような体制をつくってもらいたい。頑張って自宅で看護されている方に教えてください。	34	6	必要
家族とか身内とかで何かあった時すぐにでも預けることができる施設があったらいい。	34	無回答	必要
動ける間は介護し続ける予定だが、それはいつまでかわからない。一人でできるのも限りがある。その不安はまだ具体的には進めていない。	35	6	不要
障がい者支援の作業所で知的障がいのある(女性)利用者の1名が住民検診により、要検査になり、結果入院手術することになり行政、社協に相談、支援を受けられるよう相談に行ったがなかなか動いてくれなく、行政、社協(権利擁護事業利用)は、障がい者に何をしてくれるのだろうかと不安。今回入院、手術をする利用者は50歳代の夫婦でアパート生活をしています。奥さんの入院による送迎、ご主人の生活支援等に不安あり。	36	1	不要
36年間在宅で介護を続けている。アンケートで終わらずぜひ実行を切望する。親なき後が不安。	36	6	必要
NPO法人で障がい者4名を支援し作業所として活動している。今回、利用者の一名が入院することになり行政、社協へ支援の要請をし話し合いをしたが、利用者の支援は行政区内利用であり他町村への入院に対しては支援できないとの回答だった。知的障がいの夫婦の入院にヘルパー利用はできないのだが、本人はタクシーで通院、ヘルパーは別に車で病院に行き入院の手続きの手伝いの経費は払ってもらいますとのことで、障がい者は入院も手伝わってもらえない。	36	1	不要
球磨人吉には専門の医療機関が少なく熊本市内まで通院してる人が多い。我が家みたいに70歳(介護者)過ぎるとあと何年運転して通院できるだろうかと不安でいっぱい。毎日の介護も一緒。一番の理想は親子で入居できる施設がほしい。安心して通える病院(障がい者が)が近くにあってほしいと思う。	36	6	不要
36歳を迎え介護の毎日が普通の生活になってしまった。眠らない、食べない、と大変な毎日だったが今では本人もだいたい成長し何が出来るわけでもないが、親との会話が理解出来て楽しい通園生活を送っている。できれば1日でも長く本人の希望通りの所に通う事ができて、今の楽しみを続けられたら本人も親もこれ以上の幸せはないと思うが、歳を重ねると少し疲れを感じるようになってきた(親)。しかし、元気でいられるのは36年間の毎日の介護が功をなしているのかなと思う時もある。少しづつ利用できる所を増やして本人にも慣れさせようと考え、今、動き出したところです。	36	6	不要
特に介助などはいらないが、きめ細やかな対応ができるサービスがあればいい(父)。	39	未実施	不要
病院に連れて行くのが一番つらい。	40	1	無回答
検診や検査(MRI、超音波検査、心電図)を極度に拒否する(暴れる)。手術後の点滴、包帯、装着器具を嫌がる障がい者の医療はどう対応したらいいのか。医療機関の受け入れ先も含め非常に不安。高齢になるとガン、糖尿病、骨折等の病気が怪我が可能性が高まる。生活介護で通所施設に通っているが、夏休み時期になると通園回数が半分に減らされる。支援学校の生徒を受け入れるためであるが、生徒の夏休み中の介護は別体制で考えるべきではないか。ショートステイの利用はもっと簡単に、受け入れ施設が少なく利用しづらい。介護者の突然の入院、冠婚葬祭時は難しい。特に祝祭日、手続きとする役所は休日。	40	3	不要
サービスの種類区分がわかりにくい。必要とするサービスを簡単に利用できたらいい。	40	無回答	不要

自由記述	年齢	障害程度区分	医療的ケアの必要性
介護認定有効期間ですが、重度障がい者は長くしてもらいたい。健康面もいろいろな面でもあまり変わりがなく、親の方もだんだん年取ってきまして、病院の診断書をいただくのに大変になってきた。今は日中一時支援、短期入所などがあり本当に助かっている。心よりありがたいと思う今頃です。	40	6	不要
以前に比べると現在は短期入所もあり、旅行にも行けるようになり幸せなことだと思う。でも将来のことを考えると不安もあるが、家でも安心して子どもと過ごせるよう、気軽にケアを受けられるよう手続き等頻繁にしてほしい。	43	1	不要
現在は施設・医療機関・市・リハビリと連携していただきながら生活している。よくしてもらっている。色々相談させてもらいながら進めていきたい。	43	5	必要
その都度相談しているので、特に要望はない。	43	6	不要
日常生活の中でできることが何もないので、毎日散歩を健康のためしているが、二年ほど前から足腰が弱くなり、介助してくださることを願っている。	44	無回答	必要
通所サービスを利用しているが、自宅での介護中心は高齢の母。先々では入所も考えているが、集団生活の中でうまくやっていけるかが一番不安。	45	不明	不要
障がい者の入所施設が少なく、また、短期入所を受ける所も少なく、知名度も低くもっと情報を発信してほしい。サービス利用についても介護保険を併用できないなど使いづらく分かりにくい面が多いのもっとわかりやすいパンフレットなどで周知してほしい。	50	6	必要
間について現在毎日通所で土日は宿で大変助けられている。	52	無回答	必要
母も高齢なので施設に入所させたいが、本人が嫌がるのでそのことが心配。65歳以上になったら介護サービスに切り替わるので重症心身障がいの方は介護を頼んだ時の負担額が多くなると聞いた。サービスを受けるときの負担額が変わらないようにしてもらいたい。	56	6	必要
20歳くらいから牛深保養院に入院している。医療的なことはわからない。	62	無回答	必要
家族も本人も同年代で今後誰が世話をしてくれるのか不安がある。本人が今後、誰に面倒をみてもらいたいとか、意思表示があればよいがそれができないので、10年、15年先のことがいつも頭から離れない。兄嫁。	62	2	不要
昭和43年から入退院を繰り返している患者様です。身体疾患が長期化した時は他科での専門治療をおこない、転入院という形を繰り返しているので、45年間在宅での生活をしていない。親族も関東方面に1名でいらっしやるのみで、高齢母親も10数年前に施設入所され全介護(高度の認知症あり)状態。	63	未実施	必要
障害者手帳を申請したのが12年前。障がいが進み等級も上がっている様子から主治医と相談して再交付申請の手続きをすることになった。3月中旬に主治医から熊本労災病院の脳神経外科と整形外科を紹介されて申請のための検査に行った。その際、一部の医師・看護師の対応、そして各科の連携ミスによって私たちの家族は嫌な気持ちになってしまった。4月が終わる頃になっても病院からは診断書のことで全く連絡が来なかった。こちらから連絡してみると、まだできあがっていないとのことだった。それから6月初旬まで待ったのだが、いっこうに連絡が来ない。こちらから連絡してみるとできあがっていなかった。なぜ、こんな事になったのか説明してほしいと何日も食い下がったら「担当者が忘れていた」という。大きな病院で、このような扱いを受けるとは思ってもいなかった。3月末に全ての検査を終えて、手元に診断書が届いたのは6月初め。順調に進んでいたら6月頃には新しい手帳を交付されていたかもしれない。	63	未実施	不要
8月末に役所から電話があり、申請した診断書に不備があったとのこと。あんな思いまでをしてさらにまだ不備だとは。役所の方に病院への連絡をお願いできたのでお願いした。10月中旬、まだ手帳は交付されていない。障害者手帳でこんなに嫌な思いをするとは思っていなかった。しかも相手は医療機関。私たちは家族でいろいろと介護をしていて、今回のことも家族で受け止め動いてきた。しかし障がい者本人が動いていて、私たちのような扱いを申請されたご本人が受けたと思うとたまったものじゃない。私たちのような嫌な思いを他の障がい者の方が受けられないようにしてほしい。			
特別養護老人ホーム入所中、5年目。	77	無回答	不要

重症心身障がい児者の生活調査報告書

平成 26 年 2 月

発 行 熊 本 県
企 画・監 修 健康福祉部 子ども・障がい福祉局 障がい者支援課
〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
電 話 番 号 096-333-2233
F A X 番 号 096-383-1739
